

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第一回授業

授業内容:京都市は長きにわたって京都市議会議員選挙後に京都市民の意識調査を実施してきた。その調査結果は京都市民の政治意識を知ることのできる貴重な財産である。そこから、市民は政治や行政についての自らの「考え方、感じ方、行動の仕方」、つまり、研究領域ではCivic cultureと呼ばれる「民主主義の市民文化」の基盤となる政治意識を具体的に考えることができる。この授業は、この京都市民意識調査データを素材に実践的な知識を習得して、選挙への参加を通じての民主主義の市民力を検討する基礎となる入門講座である。入門ではあるが、京都市が4年ごとに実施する選挙での調査の分析を踏まえて刊行している報告書「京都市民の投票行動」を、その分析方法までも視野に入れて理解できることを目指す本格的な内容を含んでいる。そのような学習が、京都市民の公共領域での地域力につながることを期待している。

授業形式:対面・Zoom併用授業＋教材配信システム利用(第7回予定フィールド授業以外)

授業スケジュール:第一回イントロダクション(基礎知識、データ)、第二回「行政サービスへの期待」、第三回「投票参加と政治・行政への意識」、第四回「議会や議員への見方」、第五回「アンケート調査データの分析方法」、第六回「選挙広報と投票」、第七回フィールド授業(京都市選挙管理委員会「選挙時啓発と常時啓発」)、第八回授業まとめ(受講生有志による2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」についての発表)

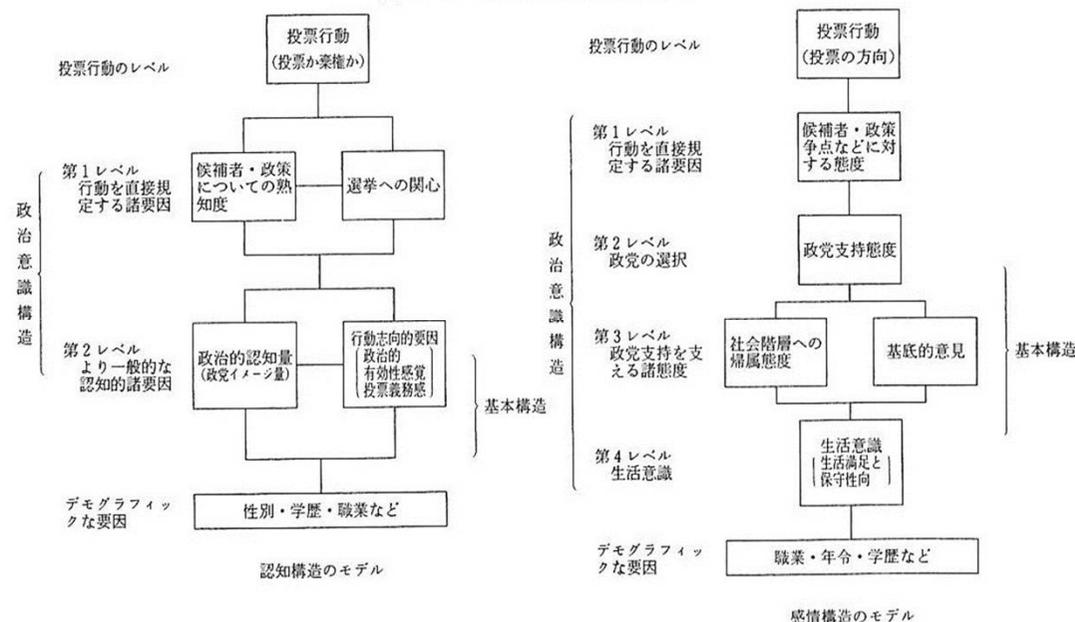
● 基礎知識

政治意識とは、政治についての人々の考え方、感じ方、行動の仕方である。もっともよく議論されるのは、選挙での投票行動についてであり、政治関心や政党支持に加えて、政治不信や政治疎外感、あるいは社会参加意識や脱物質主義価値観などがある。そこでは、人々の意識のような心理的な側面が、実際の政治過程や政策過程で、どのような役割を果たしうるかが注目される。

● 参考文献

- 村山皓 『政治意識の調査と分析』 晃洋書房、1998年。(概念、機能、構造、観察方法)
 村山皓 『日本の民主政の文化的特徴』 晃洋書房、2003年。(入力不満型、出力不満型)
 村山皓 『政策システムの公共性と政策文化』 有斐閣、2009年。(民主→公共パラダイム)
 村山皓 「行政の民主主義と民主主義の進展」 立命館大学『政策科学』29巻1号、2021年。
 NHK放送文化研究所編 『現代日本人の意識構造』(第八版) NHK出版、2015年。²

図 1-1 政治意識構造のモデル



(出所) 三宅一郎・木下富雄・間場寿一「異なるレベルの選挙における投票行動の研究」創文社、1967年。

村山皓 『政治意識の調査と分析』 晃洋書房、1998年、4頁。

三種類の受講方法

すべての授業について次の3種類のいずれも選択できます。

1. 対面授業を希望するときは、授業時間にプラザの講義室に来てください。
2. Zoomでのオンラインを希望するときは、授業時間にリモートでZoomに参加してください。
このZoomは、この講義のリモートシステムを担っている大学研究者シンクタンクの有限会社シンクメイトリサーチのものを使っています。
3. 授業時間内に授業参加できない受講生は、シンクメイトリサーチが提供する教養講座配信システムにアクセスして、各回の授業内容とクイズからいつでも学ぶことができます。そこへはシンクメイトリサーチのトップページ(グーグルなどで検索)の教材配信サービスをクリックして、京カレッジ講座「選挙参加意識の市民力」京都府立大学地域連携・生涯教育提供にアクセスしてください。今は非公開でアクセスできませんが、今月27日には、受講生はアクセス可能になります。

この3の教材配信サービスは、1と2の受講生も利用できるものであり、予習や復習に使って授業への理解に役立ててください。

受講生・担当者間のコミュニケーションの方法

メールを利用します。担当者アドレス gairyu2022@gmail.com

配布資料

- ・2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の III 調査結果 PDFファイルを教材配信から入手
- ・上記調査の質問票 PDFファイルを教材配信から入手

人々の政治意識がどのように違うのかを**サーベイデータ**から知る

京都市民の政治意識調査

「投票所は行きやすいところにあったか」の**変数**と「当日投票に行ったか」の**質問のクロス表分析**

京都市選挙管理委員会

令和元年5～6月

		投票所は行きやすい場所だった	投票所は行きにくい場所だった	その他・無回答	総計
投票に行った	当日投票した	58%	21%	27%	53%
	期日前投票した	12%	20%	15%	13%
	不在者投票した	1%	2%	4%	1%
	白票を投票した	0%	0%	0%	0%
投票に行かなかった	投票に行かなかった	27%	51%	46%	30%
	忘れた・覚えていない	1%	3%	4%	2%
その他・無回答	その他・無回答	0%	0%	0%	0%
総計		100%	100%	100%	100%

問7 4月7日の選挙当日のことを思い出してください。投票されたかどうかにかかわらず、当日のあなたの状況やお気持ちはいかがでしたか。以下の項目のそれぞれについてお聞かせください。
(○印はア～クについて、それぞれ1つずつ)

ア. 仕事や用事	1 仕事や用事が <u>あった</u> 2 仕事や用事は <u>なかった</u>
イ. 遊ぶ予定	1 遊ぶ予定が <u>あった</u> 2 遊ぶ予定は <u>なかった</u>
ウ. 体調	1 体調は <u>よかった</u> 2 体調は <u>よくなかった</u>
エ. 投票所の場所	1 投票所は行き <u>やすい</u> 場所だった 2 投票所は行き <u>にくい</u> 場所だった
オ. 市議会議員選挙の関心	1 市議会議員選挙に関心が <u>あった</u> 2 市議会議員選挙に関心が <u>なかった</u>
カ. 候補者の政策や人柄	1 政策や人柄を知っている候補者が <u>いた</u> 2 政策や人柄を知っている候補者は <u>いなかった</u>
キ. 投票したい候補者	1 投票したい候補者が <u>いた</u> 2 投票したい候補者は <u>いなかった</u>
ク. 選挙に行くのは面倒	1 選挙に行くのは面倒 <u>だった</u> 2 選挙に行くのは面倒では <u>なかった</u>

問8 あなたは、4月7日実施の市議会議員選挙では投票されましたか。(○印は1つ)

<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1 当日投票した 2 期日前投票をした 3 不在者投票をした 	→ 付問へ	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 4 白票を投票した 5 投票しなかった 6 忘れた・覚えていない 	→ 問9へ
--	-------	--	-------

付問1 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。) このたびの市議会議員選挙では、政党を重くみて投票されましたか。それとも候補者を重くみて投票されましたか。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(○印は1つ)

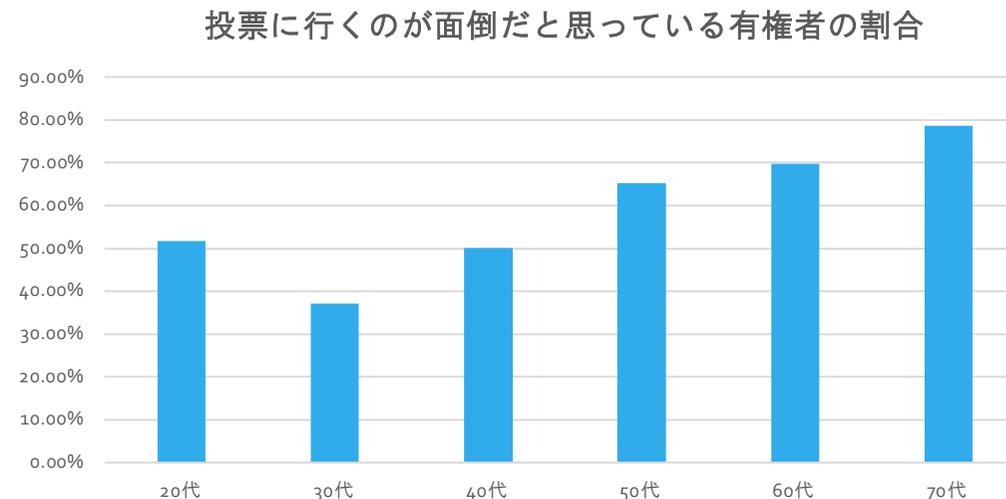
1 政党を重くみて	3 いちがいにいいない
2 候補者を重くみて	4 わからない

付問2 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。) 市議会議員選挙で、あなたが投票された人は何党の人でしたか。さしつかえなければ、お教えください。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(○印は1つ)

1 京都党	5 自由民主党	9 立憲民主党
2 幸福実現党	6 日本維新の会	10 無所属
3 公明党	7 日本共産党	113 忘れた・覚えていない
4 国民民主党	8 日本第一党	

データを分析すると

- 京都市民の6割は投票に行くのが面倒と感じている
(問7のク 頻度分析)
- この傾向は30代を底にして年齢が上がるほど強くなる
(問7のクと年齢層とのクロス表分析の結果からのグラフ)



2019年京都市民の政治意識調査の分析例 問15、問16、問21

図9 選挙での投票参加への見方

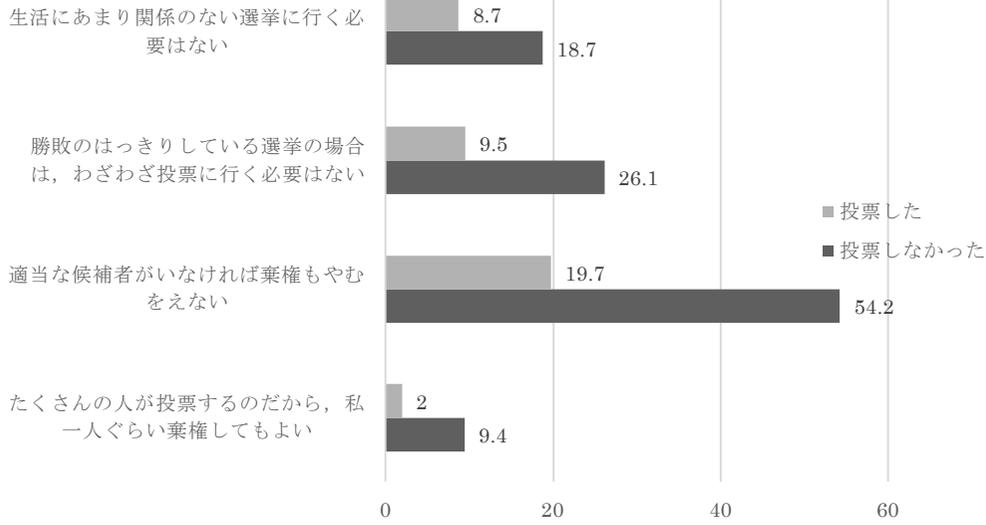
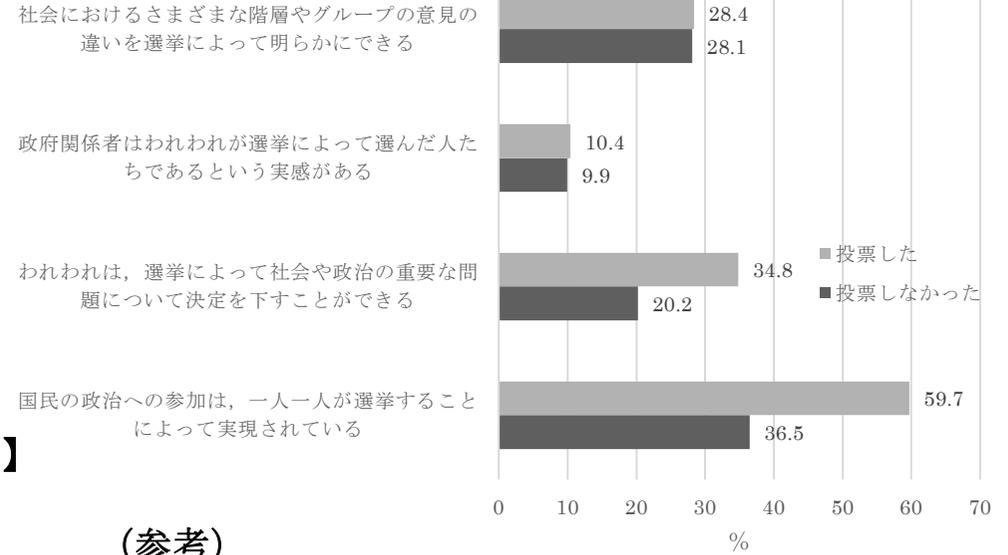
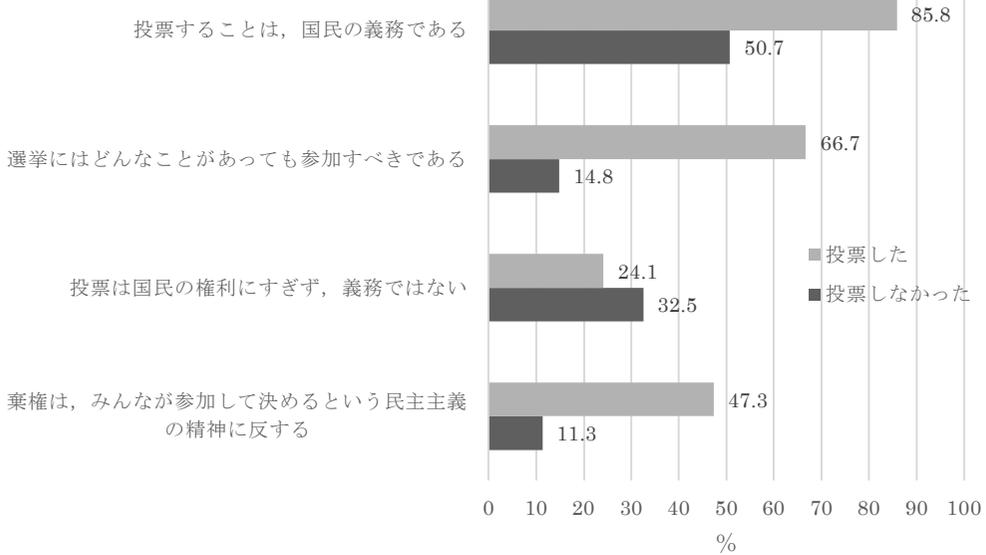


図11 選挙の機能



【相関関係に注目】

図10 投票義務感



(参考)

表1-3 選挙の動きをどう見るかの日米独比較

	(%)		
	日本	ドイツ	アメリカ
社会での集団ごとの意見の違いを選挙によって明らかにできる	19	52	32
われわれは選挙によって政府関係者がわれわれを代表していると感じられる	15	38	29
われわれは選挙によって重要な問題について決定を下すことができる	13	44	42
一人一人の政治への参加は選挙によって集められる	35	21	19

(注) 1) 質問文は「現在の選挙の動きについての意見のうち、あなた自身の意見に比較的近いものほどれですか」の複数回答形式である。

2) データは、1993年から1994年にかけて著者が実施した日米独比較調査による。日本、ドイツ、アメリカの有効サンプル数は1386、990、998である。

意識調査データ(アンケート調査) 第一回授業に向けての予習と復習のために 京都市民の政治意識調査 平成31年(2019年)統一選挙後調査(令和元年)

報告書「京都市民の投票行動」のⅢ 調査結果 (PDFファイルを教材配信から入手)

- ・第一回授業のために図1と図2およびその説明を参照
- ・第二回授業のために図16と図17およびその説明を参照

2019年の京都市民の政治意識調査の質問票(PDFファイルを教材配信から入手)

- ・第一回授業のクイズに答えることで、質問票について考えてみる
- ・自分の興味のある質問を一つ選んでみる

分析のための調査結果のデータは、エクセルの行が被質問者(サンプル)で列が変数(質問文から作成)の縦×横のマトリックスになっている

(データマトリックスの例)

サンプル	Q1.1_7	Q1.1_9	F1: 性別
1	1	0	2
2	0	0	2
3	1	0	2
4	0	0	2
5	0	0	1
6	0	0	2
7	0	0	1
8	0	0	2
9	0	0	2
10	0	0	2
11	0	1	1
12	0	0	1
13	0	0	1
14	0	1	2
15	1	1	1
16	0	0	1

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第二回授業 「行政サービスへの期待」

2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の「5 政策争点についての京都市民の意識と投票参加 (1)行政サービスへの期待と投票参加」を熟読すること

(ポイント)

- ・政策実施に自らの投票がつながるとの意識が醸成されれば投票率向上につながる(人々と政治行政の関係、政治的有効性感覚、政府決定応答感)
- ・地方政府の行政サービスへの期待を聞く質問から、人々と政治行政の関係を観察(複数回答形式の質問で、施策への期待と投票参加との相関関係を分析)
- ・施策への期待者の投票傾向の相関をパーセント差から知る(逆の相関を示す施策についてその理由を考えてみる)。また、性別や年齢(デモグラフィ、人口統計学上の要因)での違いに注目する(報告書のクロス集計表、ここでは省略)
- ・31年調査と27年調査の比較(図17)から、そこでの違いを考えてみる。また、図16の時系列比較が示す特徴に注目する。

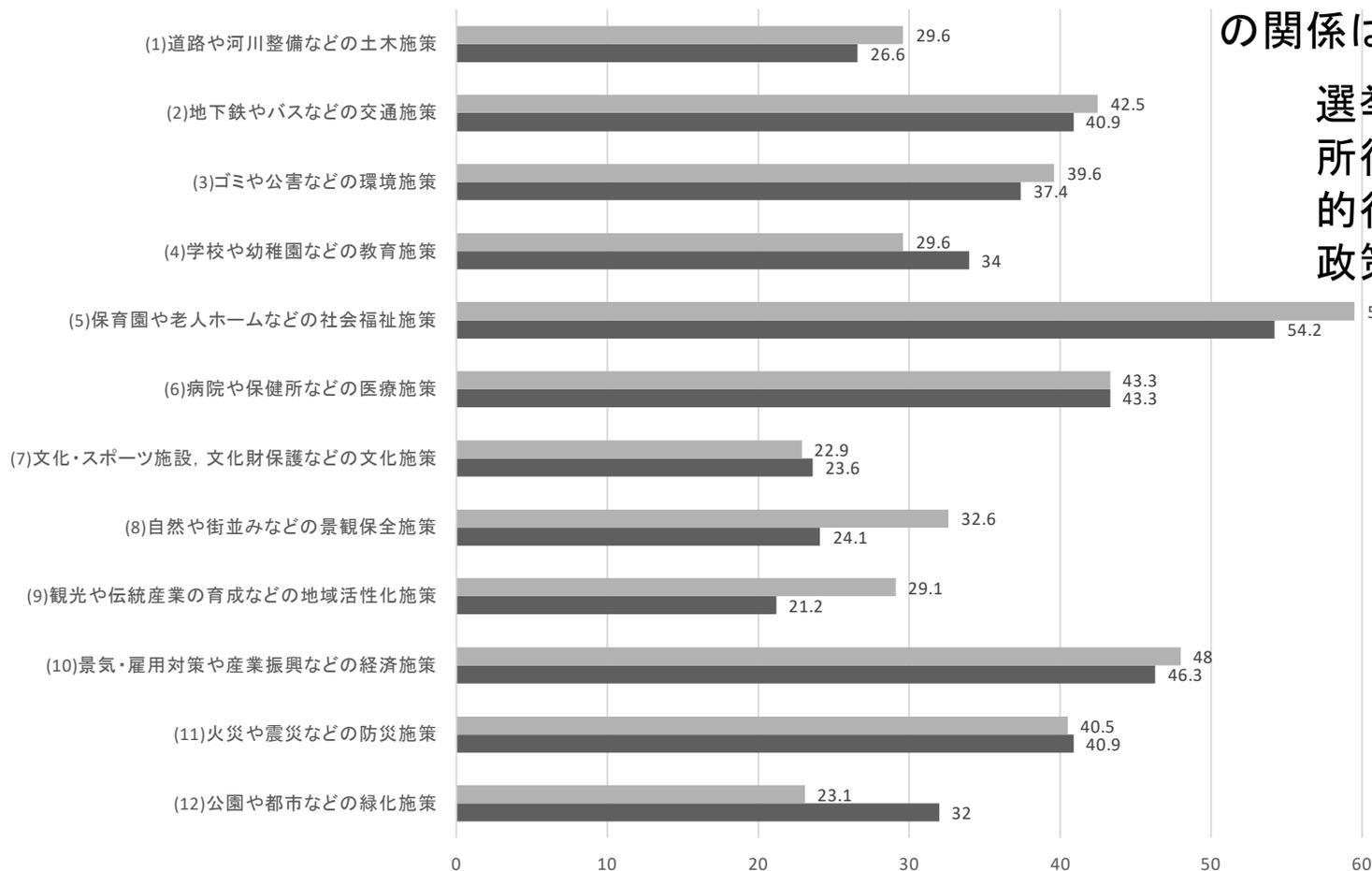
投票参加には性別差と年齢差がある(報告書「1 選挙での投票 (1)投票参加と投票方向」を熟読すること)。そこから民主政での政策形成・実施へのどのような影響が考えられるか。

選挙や投票(民主主義)が我々の暮らし(政策)にどう関わるのか。

投票率が低下することの不都合は何か。

「人は選挙でどのように投票するのか」

図1 今後力を入れてほしい行政サービス(問1.ア)



(投票した人で~に期待する人、投票しなかった人で~に期待する人の割合) %

実際に高齢者の投票率が高い以上、高齢者の意見が政治に反映される可能性が高いと言われている(政策形成と民主主義の関係はそう単純でないかもしれない)

選挙による政策変更を期待するのは所得水準が中位の人(貧困層は組織的行動の余裕がなく、富裕層は社会政策に依存する必要がない)

男性のほうが選挙に行く

教育程度が高いほうが選挙に行く

そのことの何が不都合?

注)京都市議会議員選挙の調査データは、調査主体が京都市選挙管理委員会、京都市明るい選挙推進協議会の京都市民の政治意識研究部会である。昭和44年以来各種レベルでの選挙調査を続けているなかで、4年ごとの統一地方選挙で実施されている。これは京都市の行政について「次にあげる行政サービスのうち、あなたが今後力を入れてほしいと感じているものはどれでしょうか」(複数回答形式)と投票参加のクロス分析である。

(投票率低下は選挙民主主義の前提の揺らぎ?)

図1 投票参加の性別差の27年と31年の比較

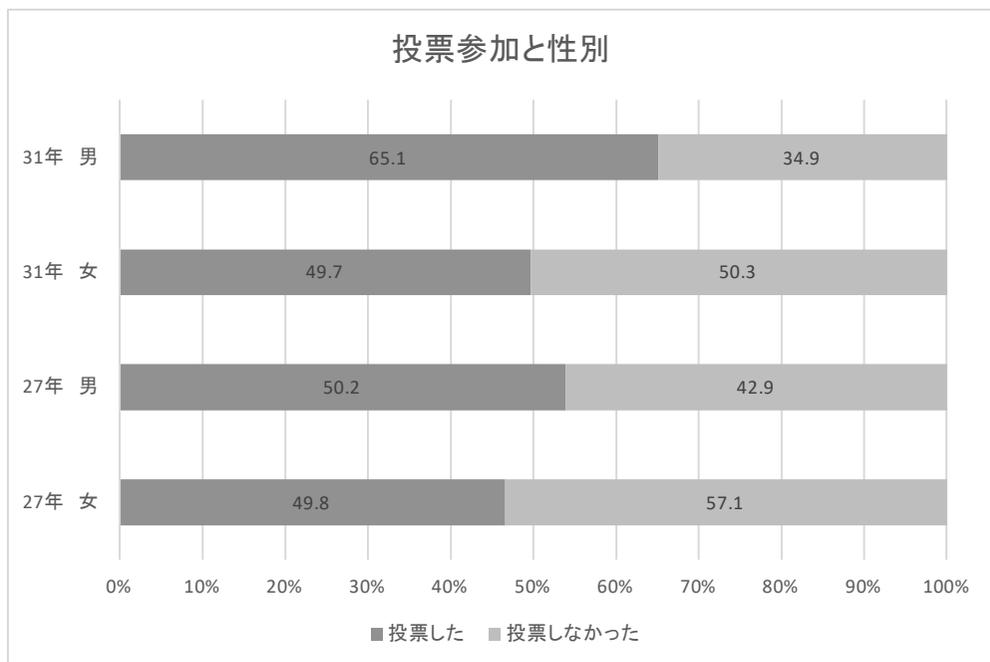
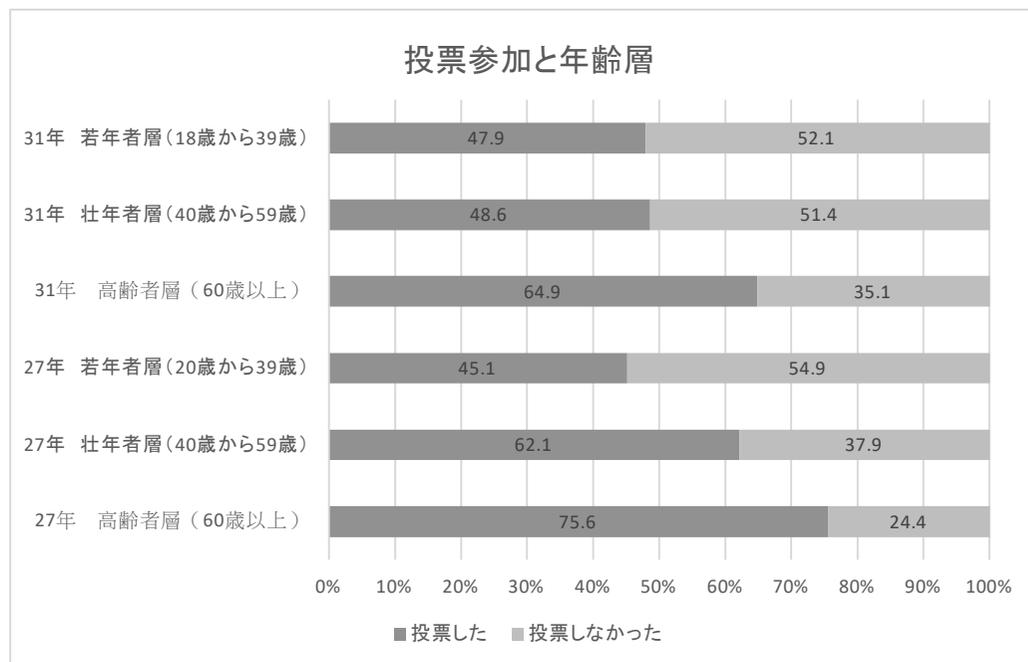
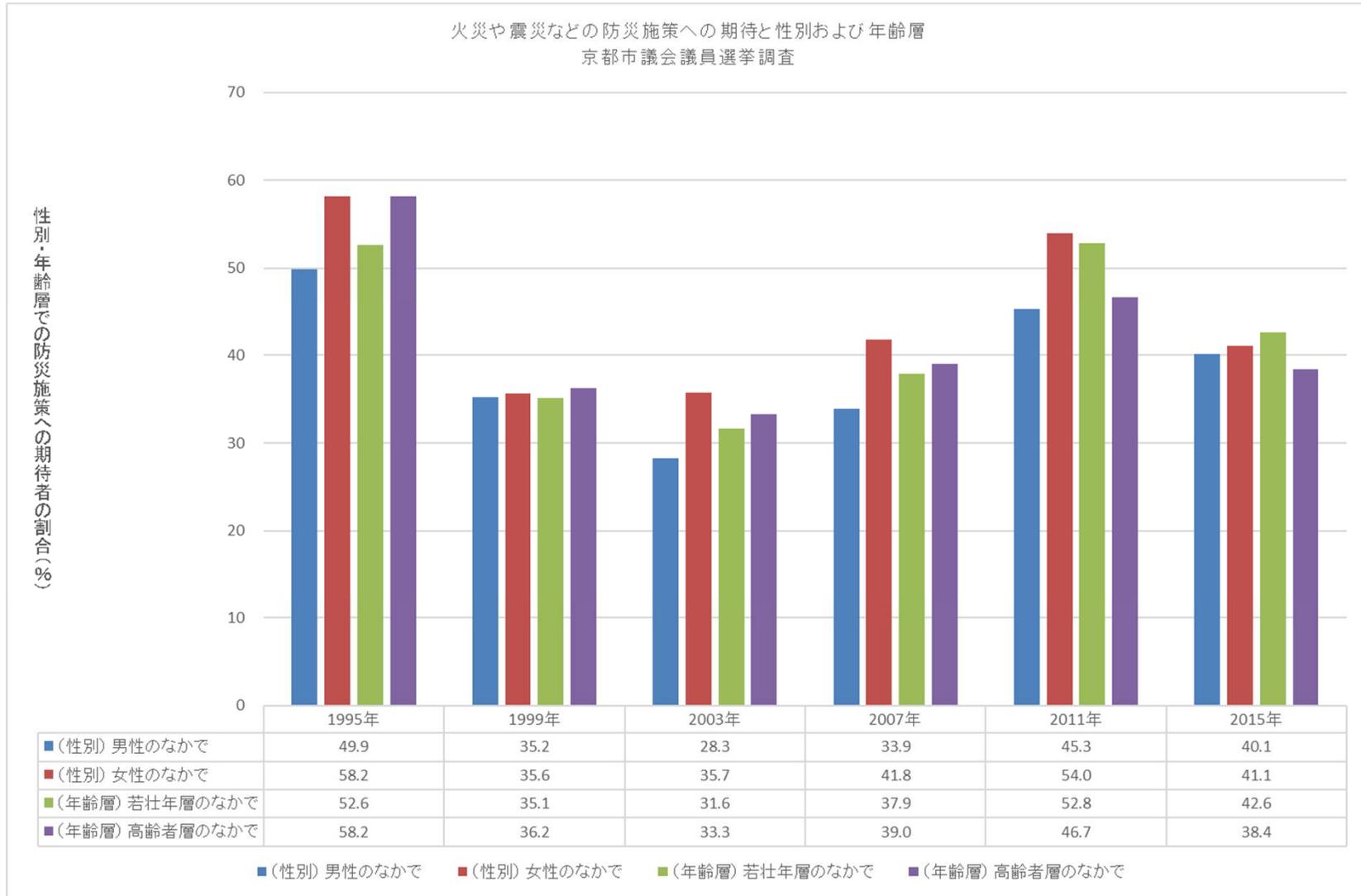


図2 投票参加の年齢差の27年と31年の比較



年齢層によって投票参加の割合に違いがあるのは、社会との関わり方による政治や選挙への意識の違いを考えれば、そのこと自体が問題とは言えない。しかし、選挙結果に年齢層の違いが大きく影響するならば、選ばれた議員たちによる政策の形成に高齢者層の好みにより反映される可能性がある。高齢者層以外の年齢層での投票参加を促す方策が議論されるのはそのためである。特に、若い人の投票率の向上への関心は高く、選挙権年齢の18歳以上への引き下げもその流れの一環と言える。

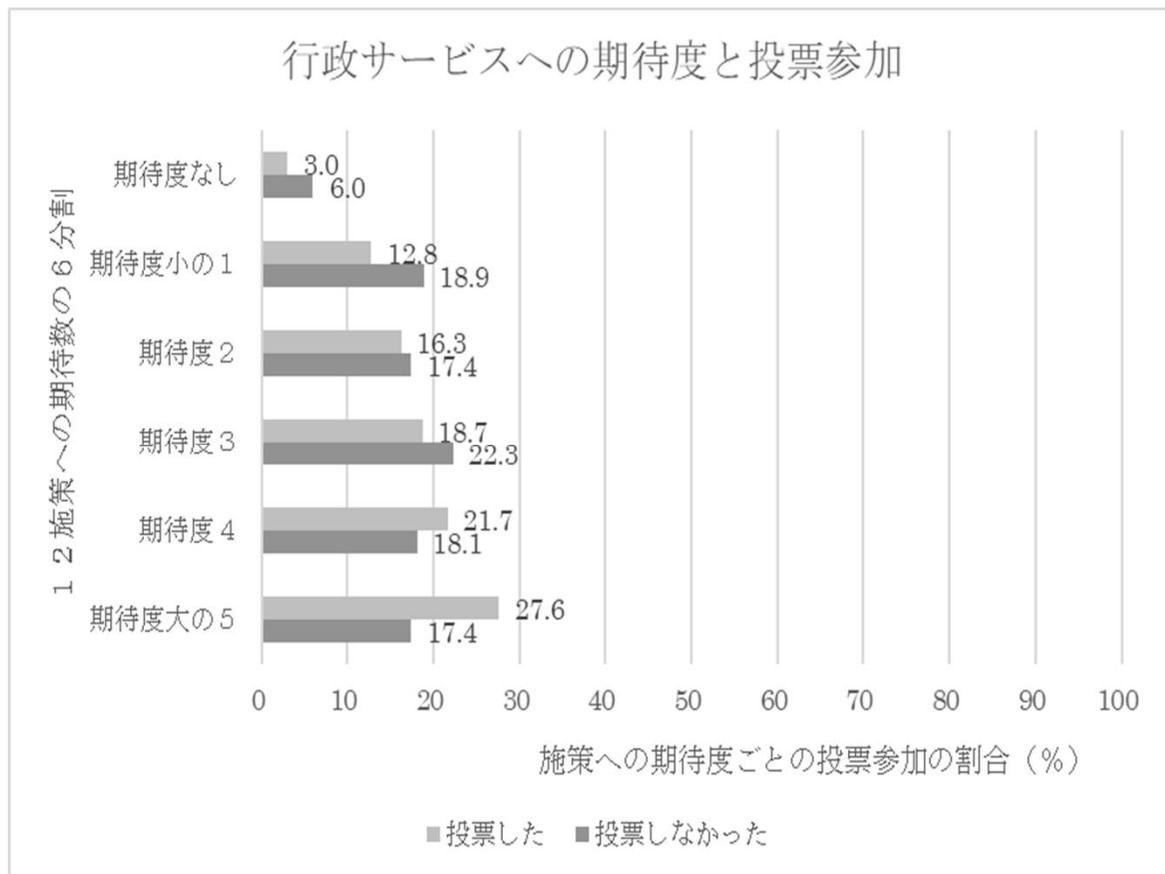
防災施策に期待する人々の属性(京都市民意識調査) 阪神・淡路大震災後と東日本大震災後の年齢層の比較



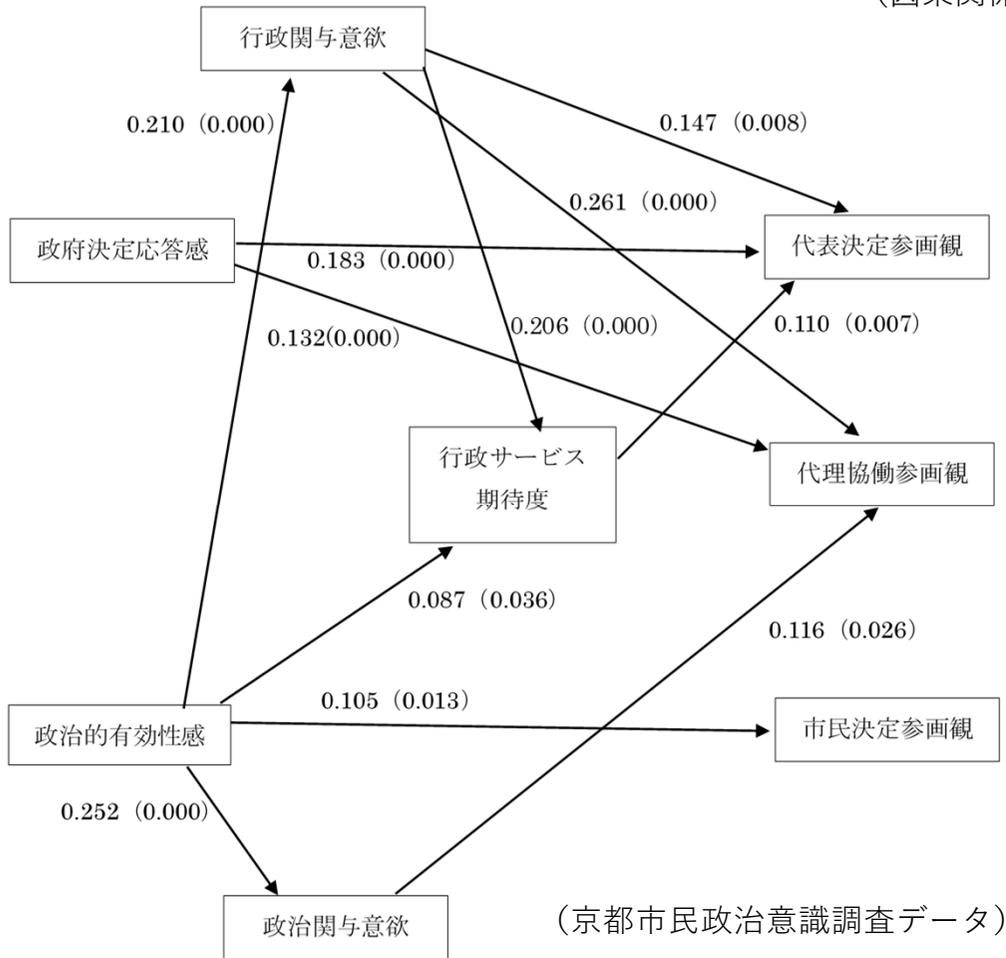
(図19)

期待度は1 2の行政サービスのいくつに期待するかで尺度を作っている。

一つも期待しない「期待なし」から1 2サービスすべてに期待する「期待度大の5」までの6段階に分けている。投票した人では期待度が増すほど投票する傾向がはっきりとわかる。投票しなかった人については期待度3までは投票しない傾向が投票する傾向を上回るが、期待度4以上になると逆転するのは興味深い。期待度がかなり大きい人では、期待を持って投票に行く人と投票には行かずに期待する傾向の人の両者があるようだ。施策への期待度と投票参加の関係（相関係数0.171）を、さらに性別、年齢層別で見ると、統計上関係が確認できるのは、性別では男性0.151、女性0.142、年齢層では壮年者層0.297であり、性別と年齢層を合わせて分析すると壮年者層男性0.368、壮年者層女性0.283で行政サービスへの期待の程度が大きくなるほど投票に行く傾向が確認できる



2019年度の京都市民の行政サービスの期待度と政策の託し方の因果パス (パス解析)
(因果関係)



(京都市民政治意識調査データ)

(注) 意識調査の分析でよく使われるデータ解析ソフトSPSSの回帰分析の強制投入法を使った。
パス係数はベータ、 $p < 0.05$ 、変数はダミー変数

【公共空間参画観】

・代表決定参画観 (質問) 国の議会および地方の議会の働きについてはいろいろの考え方があります。次にあげた意見について、あなた自身の意見に比較的近いものはどれですか。国の議会と地方の議会のそれぞれについて、同意できるものを、すべてあげてください。(項目) 国の議会および地方の議会は「われわれの代わりに政策を決定する」 (尺度 国の議会について+地方の議会についての計算で、2点が1で190人、その他)

(政治に託す)

・代理協働参画観 (質問) 京都市は平成15年の京都市市民参加推進条例の制定や京都市市民参加推進計画の策定などにより、「信頼とパートナーシップの市政」を基本方針に掲げ、市政への積極的な市民参加の取組を今日まで進めてきています。次のそれぞれの意見について、あなたは賛成ですか。それとも反対ですか。自分の意見に近いものをあげてください。(項目) 市民は、市政に関する情報並びに政策の形成、実施及び評価の一連の過程における参加の機会を活用することにより、積極的に市政に参加するよう努める責務を負う。1. 非常に賛成 2. 賛成 3. どちらともいえない 4. 反対 5. 非常に反対 (尺度 1の24人+2の166人で190人、その他)

(行政に託す)

・市民決定参画観 (質問) 国や地域の重要な問題について住民が直接に投票する「住民投票 (国民投票)」がありますが、あなたは次のそれぞれの意見をどう思いますか。自分の意見に近いものをあげてください。(項目) 住民が提案する法律案が住民投票で賛成を得たら、そのまま法律にして問題を解決するのがよいと思う。1. 非常にそう思う 2. 少しそう思う 3. どちらでもない 4. さほどそう思わない 5. まったくそう思わない。(尺度 1の47人+2の136人で183人、その他)

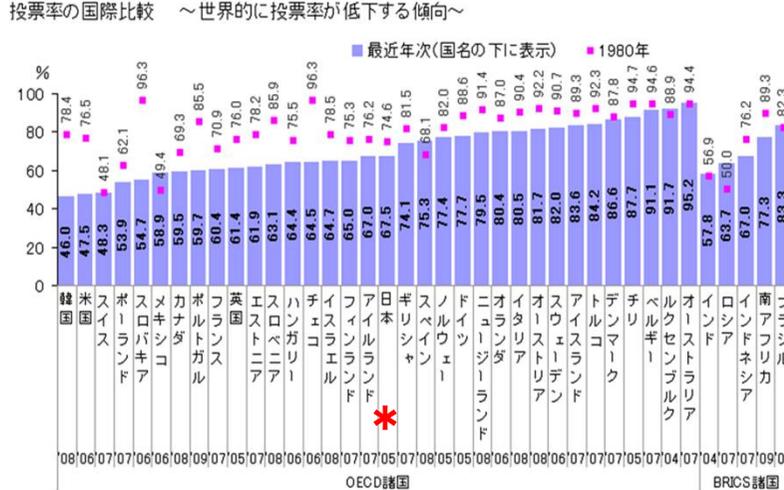
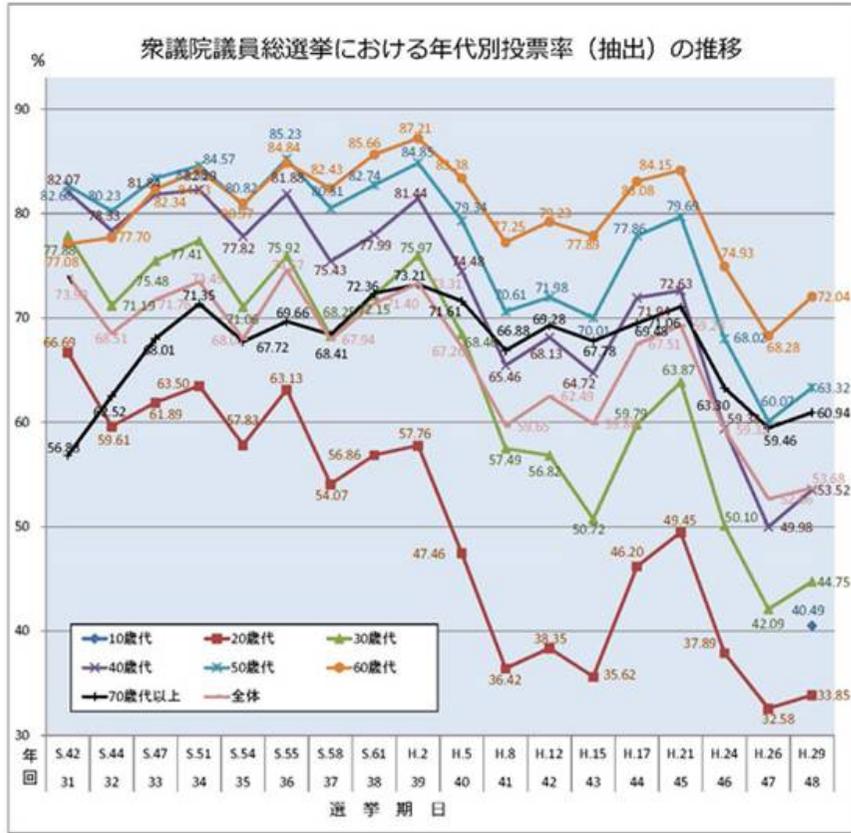
(人々に託す)

・行政サービス期待度は、12種類の施策への期待のカウント変数

村山皓「政策への託し方—行政の民主主義—」、立命館大学政策科学会『政策科学』第28巻1号、2020年11月

投票率の低下の状況 (代議制の選挙を通じての参加民主主義の弱体化かもしれない)

国政選挙の年代別投票率は、平成29年10月に行われた第48回衆議院議員総選挙では、10歳代が40.49%、20歳代が33.85%、30歳代が44.75%となっています。(全年代を通じた投票率は53.68%)令和元年7月に行われた第25回参議院議員通常選挙では、10歳代が32.28%、20歳代が30.95%、30歳代が38.76%となっています。(全年代を通じた投票率は48.80%) このように、若年層全体としては、投票率はいずれの選挙でも他の年代と比べて、低い水準にとどまっていることから、総務省では、特に若年層への選挙啓発や主権者教育に取り組むこととしています。



(注) 国レベルの議会選挙の投票率が対象
(資料) OECD, Society at a Glance 2011

「選挙(投票参加)に何を期待する(求める)のか」

* 誰が何を期待するのかについての一つの見方

- ・ 政治(議会)が期待する権力の正統性の確保
- ・ 行政(執行府)が期待する政策実施への了解の基盤
- ・ 人々が期待する自由・民主主義の政治意識(政治行政への考え方、感じ方、行動の仕方)の発露(表現)

注目すべき点 動員と反多元主義

人々の政治意識を動かしやすい道具： 経済(失業、格差)、外交(ナショナリズム)、腐敗(反エリート)

図5 政治関心 (問14と問8)

「政治に関心のある人が選挙に行く」

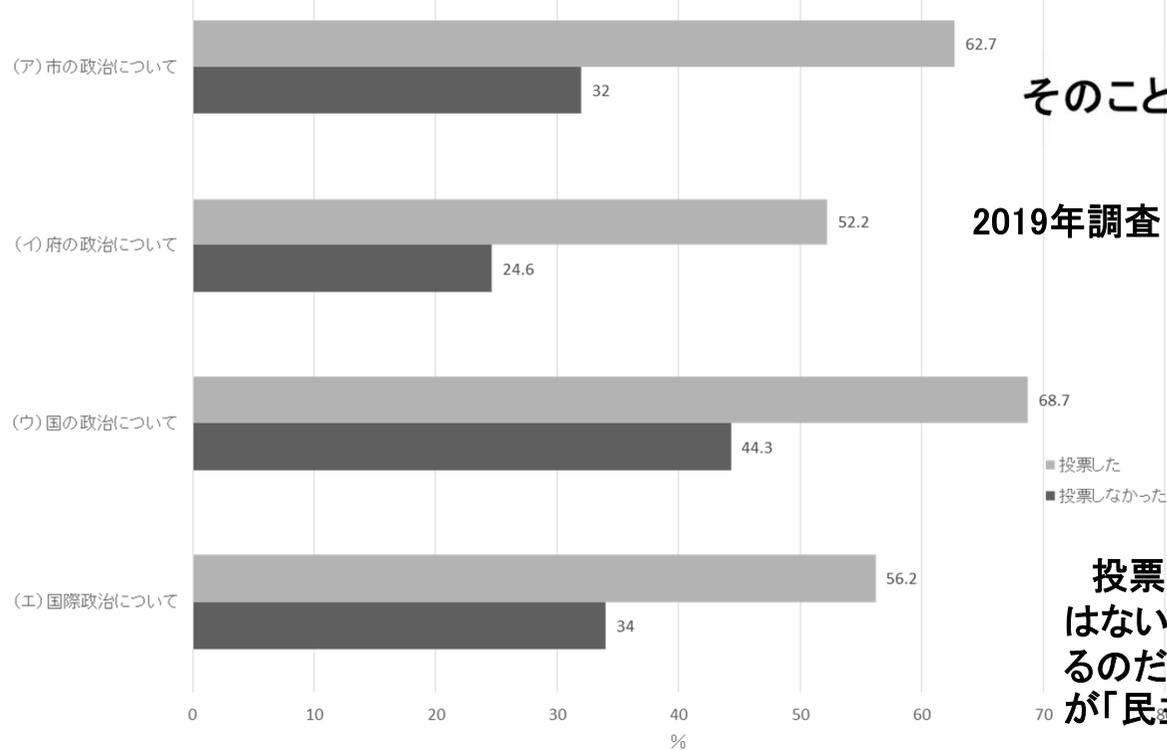
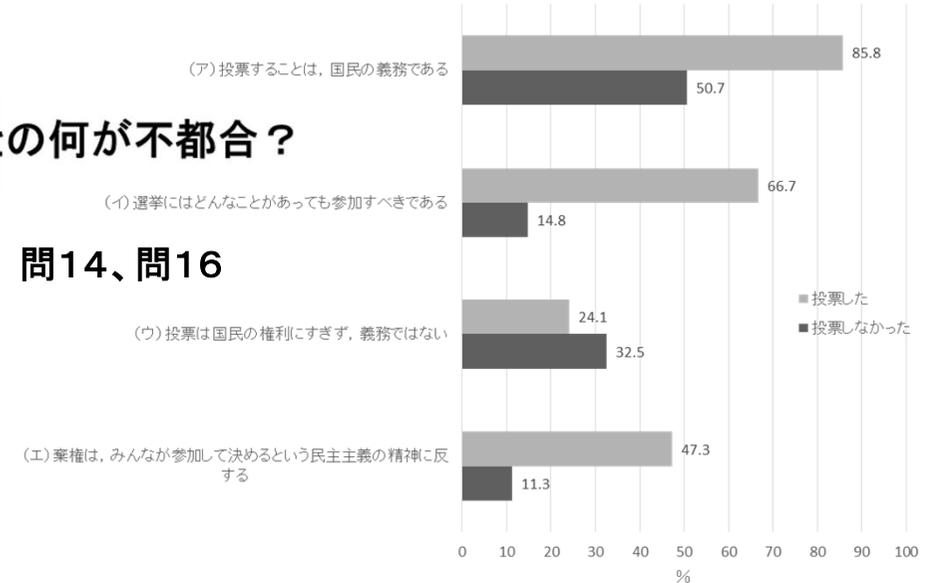


図10 投票義務感 (問16と問8)

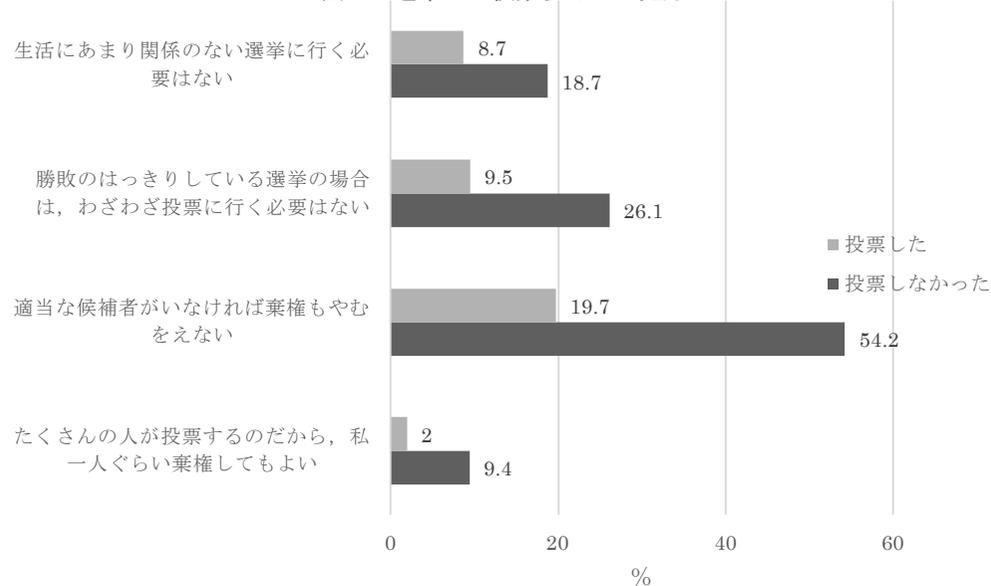
そのことの何が不都合？

2019年調査 問14、問16



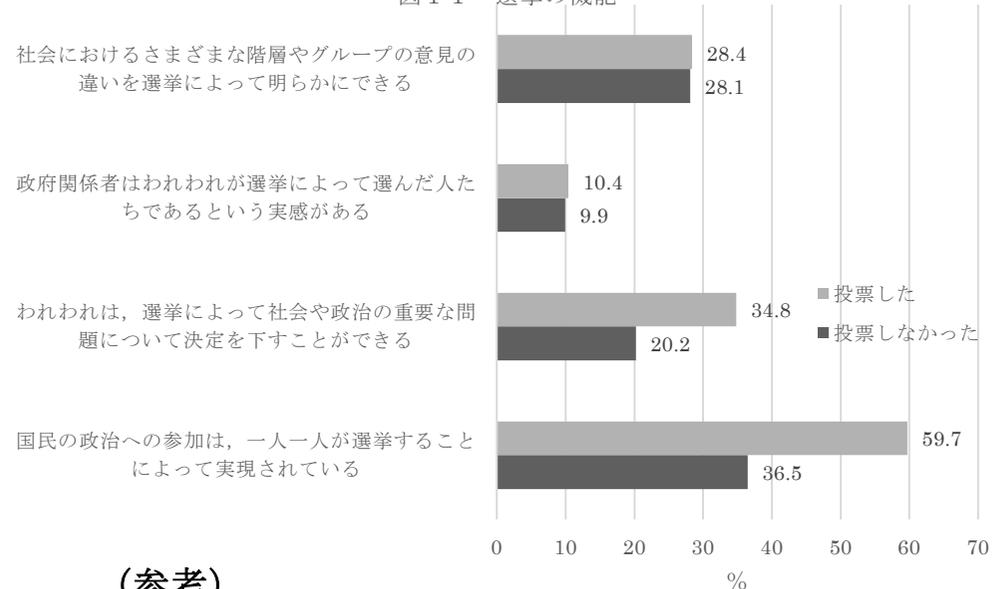
投票義務感は年齢の高い人に多く、投票は権利にすぎず義務ではないは若い人に多い。また、別の質問で「たくさんの方が投票するのだから、私一人ぐらい棄権してもよい」が若い人に多く、若い人が「民主主義での投票に積極的な見方をしない」のかもしれない。

図9 選挙での投票参加への見方



2019年調査 問15、問21

図11 選挙の機能



(参考)

表1-3 選挙の動きをどう見るかの日米独比較

	(%)		
	日本	ドイツ	アメリカ
社会での集団ごとの意見の違いを選挙によって明らかにできる	19	52	32
われわれは選挙によって政府関係者がわれわれを代表していると感じられる	15	38	29
われわれは選挙によって重要な問題について決定を下すことができる	13	44	42
一人一人の政治への参加は選挙によって集められる	35	21	19

(注) 1) 質問文は「現在の選挙の動きについての意見のうち、あなた自身の意見に比較的近いものはどれですか」の複数回答形式である。

2) データは、1993年から1994年にかけて著者が実施した日米独比較調査による。日本、ドイツ、アメリカの有効サンプル数は1386、990、998である。

問21 選挙の働きについてはいろいろの考え方があります。次にあげた意見について、あなた自身の意見に比較的近いものはどれですか。同意できるものをすべてあげてください。(○印はいくつでも)

- 1 社会におけるさまざまな階層やグループの意見の違いを選挙によって明らかにできる
- 2 政府関係者はわれわれが選挙によって選んだ人たちであるという実感がある
- 3 われわれは、選挙によって社会や政治の重要な問題について決定を下すことができる
- 4 国民の政治への参加は、一人一人が選挙することによって実現されている

京都市民の投票行動 2019年調査の集計表

クロス集計表

問8 あなたは、4月7日実施の市議会議員選挙では投票されましたか。

クロス表

		市の政治関心		合計	
		.00	1.00		
投票棄権	投票	度数	128	209	337
		投票棄権の%	38.0%	62.0%	100.0%
棄権ほか	投票	度数	186	79	265
		投票棄権の%	70.2%	29.8%	100.0%
合計	投票	度数	314	288	602
		投票棄権の%	52.2%	47.8%	100.0%

クロス表

		国の政治関心		合計	
		.00	1.00		
投票棄権	投票	度数	113	224	337
		投票棄権の%	33.5%	66.5%	100.0%
棄権ほか	投票	度数	150	115	265
		投票棄権の%	56.6%	43.4%	100.0%
合計	投票	度数	263	339	602
		投票棄権の%	43.7%	56.3%	100.0%

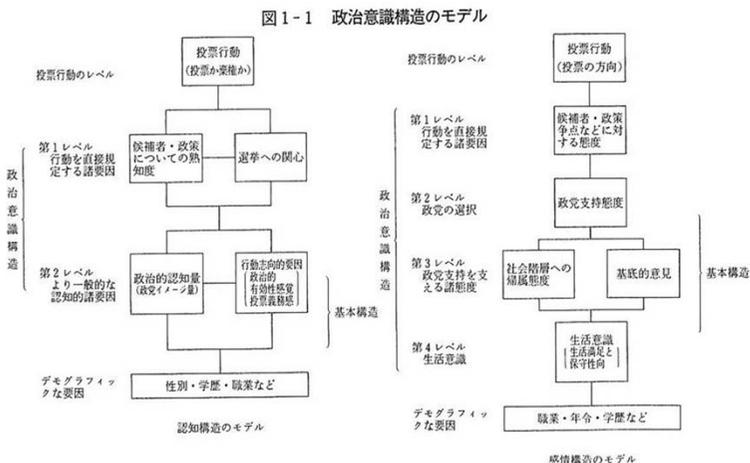
	全体	当日投票した	期日前投票をした	不在者投票をした	白票を投票した	投票しなかった	忘れた・覚えていない	無回答
全体	602 100.0	228 37.9	100 16.6	4 0.7	5 0.8	203 33.7	13 2.2	49 8.1
性・年代別								
男性 計	255 100.0	101 39.6	60 23.5	2 0.8	3 1.2	75 29.4	4 1.6	10 3.9
10・20代	29 100.0	7 24.1	4 13.8	-	-	14 48.3	3 10.3	1 3.4
30代	25 100.0	9 36.0	7 28.0	-	-	9 36.0	-	-
40代	32 100.0	12 37.5	5 15.6	-	1 3.1	12 37.5	1 3.1	1 3.1
50代	37 100.0	13 35.1	9 24.3	-	1 2.7	14 37.8	-	-
60代	54 100.0	25 46.3	14 25.9	-	1 1.9	12 22.2	-	2 3.7
70代以上	76 100.0	35 46.1	21 27.6	2 2.6	-	12 15.8	-	6 7.9
女性 計	313 100.0	115 36.7	37 11.8	2 0.6	2 0.6	123 39.3	9 2.9	25 8.0
10・20代	26 100.0	9 34.6	2 7.7	-	-	14 53.8	1 3.8	-
30代	39 100.0	15 38.5	4 10.3	-	1 2.6	14 35.9	2 5.1	3 7.7
40代	56 100.0	12 21.4	6 10.7	-	-	32 57.1	3 5.4	3 5.4
50代	48 100.0	22 45.8	5 10.4	1 2.1	-	17 35.4	1 2.1	2 4.2
60代	45 100.0	19 42.2	4 8.9	-	-	18 40.0	-	4 8.9
70代以上	84 100.0	36 42.9	14 16.7	1 1.2	1 1.2	20 23.8	2 2.4	10 11.9
無回答	34 100.0	12 35.3	3 8.8	-	-	5 14.7	-	14 41.2

投票行動における投票参加と投票方向

図表6 デモグラフィー別の政党帰属意識と投票方向

(%)

		人 種				性 別				社 会 階 級			
		白 人		黒 人		男 性		女 性		労働者階級		中上層階級	
		カーターに投票	レーガンに投票										
民主党支持	強 い	86.4	13.6	93.8	6.3	87.4	12.6	90.2	9.8	88.1	11.9	88.1	11.9
	弱 い	58.9	41.1	100.0	0.0	61.5	38.5	66.1	33.9	65.6	34.4	60.0	40.0
支持政党なし	民主党に近い	56.9	43.1	100.0	0.0	52.5	47.5	68.3	31.7	59.0	41.0	60.0	40.0
	どちらにも近くない	24.3	75.7	50.0	50.0	15.9	84.1	41.4	58.6	27.8	72.2	22.2	77.8
	共和党に近い	13.4	86.6	0.0	100.0	11.3	88.7	15.6	84.4	18.2	81.8	10.3	89.7
共和党支持	弱 い	5.1	94.9	該当者なし		4.8	95.2	5.3	94.7	4.1	95.9	6.3	93.8
	強 い	3.8	96.2	50.0	50.0	4.8	95.2	4.5	95.5	11.4	88.6	0.0	100.0



(出所) 三宅一郎・木下富雄・間場寿一「異なるレベルの選挙における投票行動の研究」創文社、1967年。

問8 あなたは、4月7日実施の市会議員選挙では投票されましたか。(○印は1つ)

1 当日投票した	付問へ	4 白票を投票した	問9へ
2 期日前投票をした		5 投票しなかった	
3 不在者投票をした		6 忘れた・覚えていない	

付問1 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。) このたびの市会議員選挙では、政党を重くみて投票されましたか。それとも候補者を重くみて投票されましたか。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(○印は1つ)

1 政党を重くみて	3 いちがいにいいない
2 候補者を重くみて	4 わからない

付問2 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。) 市会議員選挙で、あなたが投票された人は何党の人でしたか。さしつかえなければ、お教えください。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(○印は1つ)

1 京都党	5 自由民主党	9 立憲民主党
2 幸福実現党	6 日本維新の会	10 無所属
3 公明党	7 日本共産党	113 忘れた・覚えていない
4 国民民主党	8 日本第一党	

(三重クロス表分析の結果)

独立変数(原因変数) → 従属変数(結果変数)

↑

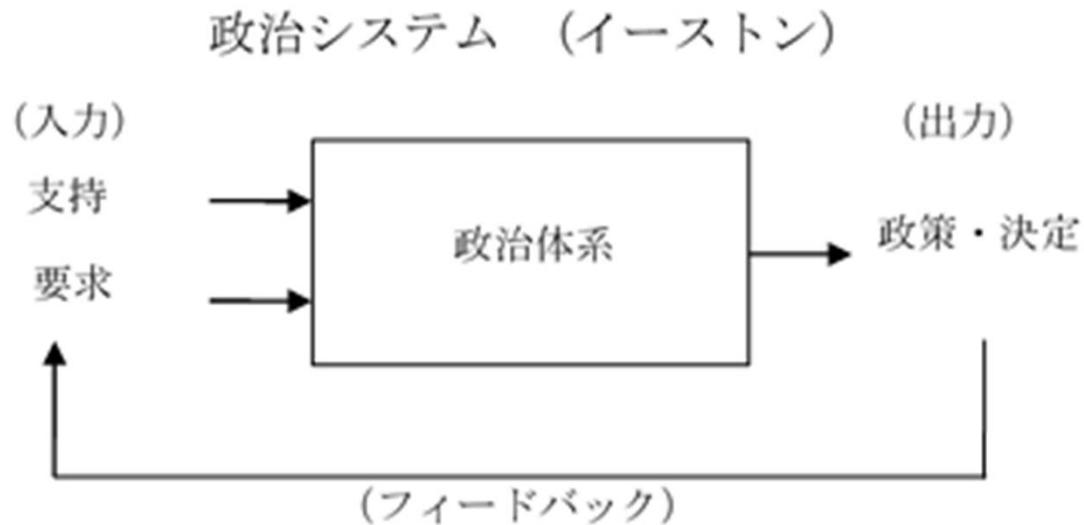
媒介変数(コントロール変数) : 上記の関係を左右するもの

2020年大統領選挙の投票行動調査 (メディア共同出口調査)

種別	バイデン	トランプ	割合
全体の得票率	51	47	100
イデオロギー			
リベラル	89	10	24
中道	64	34	38
保守	14	85	38
政党			
民主党員	94	5	37
共和党員	6	94	36
無党派	54	41	26
性別			
男性	45	53	48
女性	57	42	52

選挙は政治システムのフィードバック（政治体系の入出力とフィードバックの政治過程）

一般的な感覚：投票率の低下は民主主義にとってなんとなくよくない気がするのはなぜ？



人々からの支持や要求がうまく入力されなければ、民主政のシステムがうまく機能しないかもしれない

政府の権力はある程度強くなければ効果的な統治ができないし、強すぎると市民による政府のコントロールができなくなる(マジソン・ジレンマ)

民主主義のもともとの意味は「人民による統治」である。具体的には、民主主義とは、「候補者らが選挙によって、獲得した主導権のもとで政治的決定を行うことを可能にする制度的な取り決め」と定義できる(シュンペーター、エリート民主主義の定義であるが、民主主義と非民主主義を分ける境界線を競合的な選挙の有無で明確にする利点がある)

民主化は全体主義(権威主義)体制から民主主義体制への移行(ハンティントンの第三の波)
全体主義体制の主要要素: 一元的支配、公式なイデオロギーの存在、積極的動員(リンス)

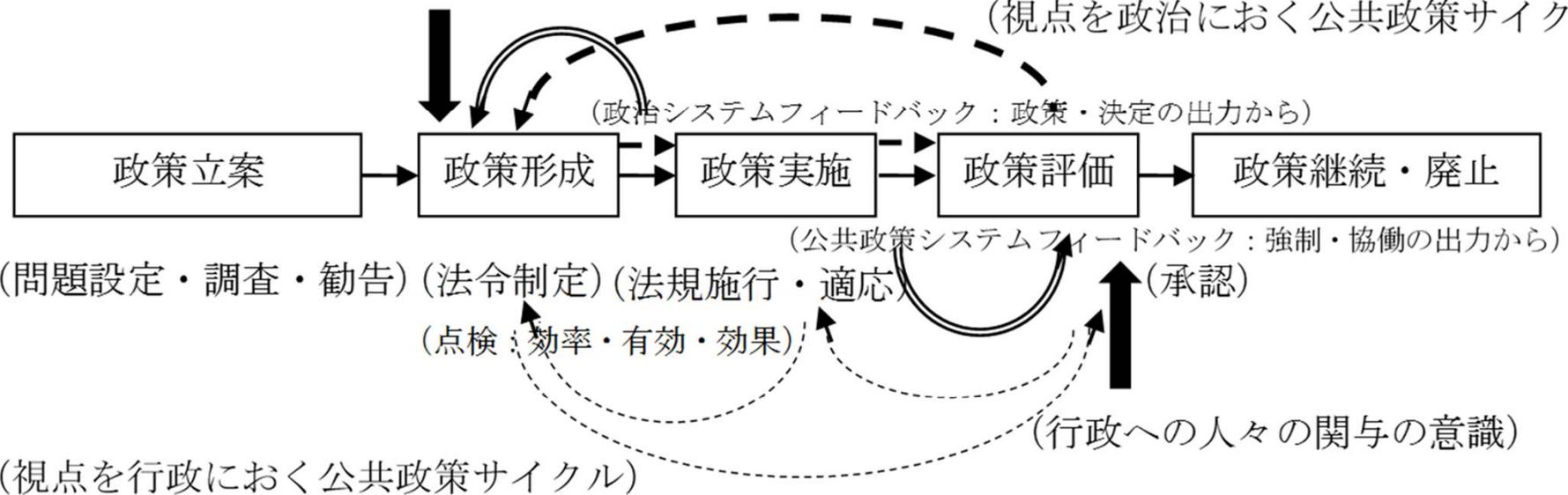
段階モデルの政策過程

(ラスウェルの政策過程の構成段階を参考に、人々の関与のフィードバックを加味した村山のモデル)

(政治への支持・要求の入力：参加の集約の代議の機能：民権を基盤)

(政治への人々の関与の意識)

(視点を政治におく公共政策サイクル)



(行政への異議・賛意の入力：評価の分散の応答の機能：自由権を基盤)

(私見) 民主政での人々と政治行政の関係における政治と行政の区別に注目 (次回の「投票参加と政治・行政への意識」へ)

民主主義と政治意識の洗練

主題 「選挙の投票率の低下は何を意味しているのか」

(基本疑問)

- ①選挙の投票率が低下することの不都合は何か (What)
- ②代議制民主主義の選挙の投票率が低下するのは何故か (Why)
- ③投票率低下の不都合をどのように回避できるのか (How)

(疑問への解答)

- A. 選挙(参加)民主主義の弱体化(選挙参加の投票率の低下)から
- B. 投票(評価)民主主義の多様化(評価投票の関与率の向上)へ

(考え方)

- ・選挙(投票)は国家・市民(国民、住民)関係の表象(シンボル)としての民主主義(民主政)の基盤
- ・投票率の低下を現実の表れと受け止めたうえで、もし人々にとって不都合があれば、不都合をなくす方策を考えればよい(人々の幸福、人間の尊厳、個人の自由の政策価値を阻害する阻害する不都合に対して)

(授業での課題) 「日本で役立つ民主政のフィードバックの制度化をどのようにすればよいのか」

洗練された政治意識の市民力に向けて不都合をなくす方策を知る材料として選挙時の意識調査の必要性

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第三回授業 「投票参加と政治・行政への意識」

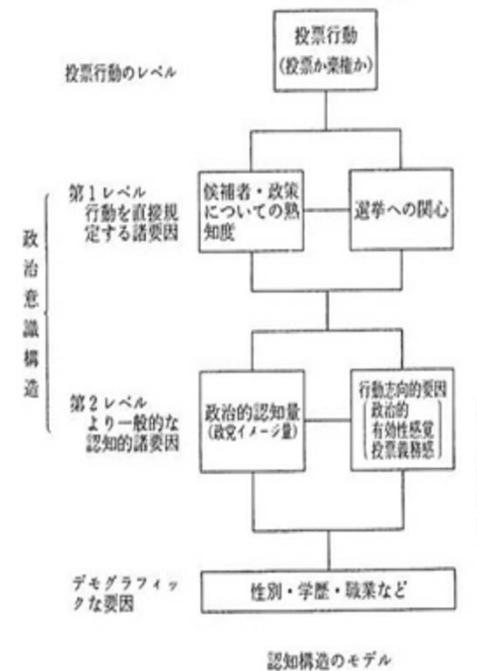
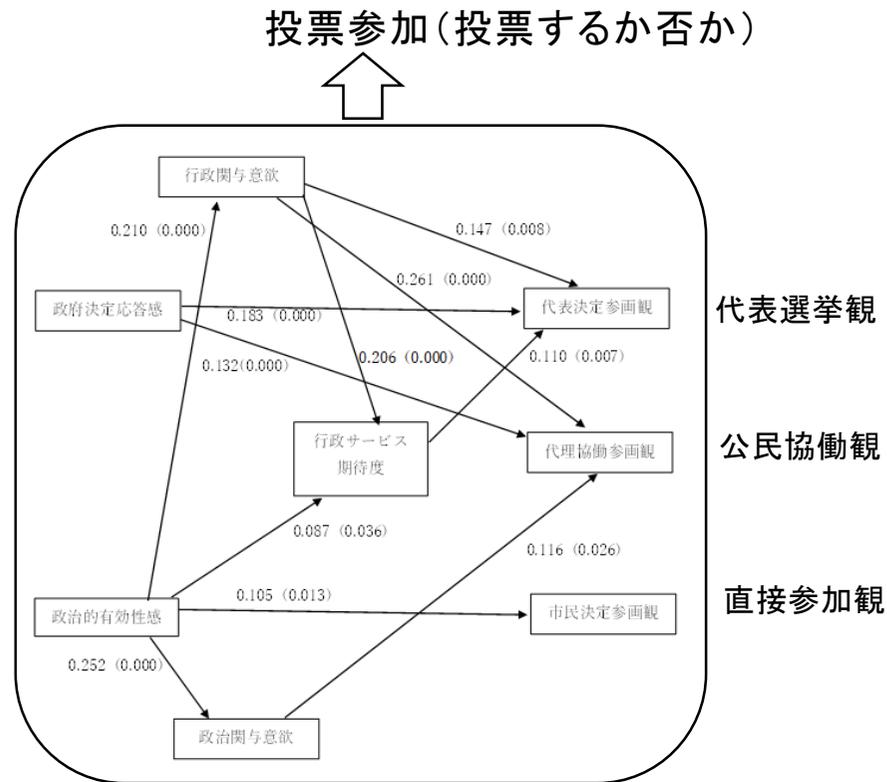
(授業の方法)

- ・これまでの授業: 広範囲の授業内容への視野のため、全体像と用語の提供の一方向的講義
- ・これからの授業: いくつかの事柄の理解を深めるため、改めて詳細な説明とディスカッション

(授業の目標)

- ・ミニマム: 2019年報告書の該当部分の説明を、できるだけ理解できるようになる
- ・マキシマム: データ分析の知見を踏まえて、民主政の市民力の洗練について議論できる

(授業の構成) 政治意識の構造と選挙参加のパス図

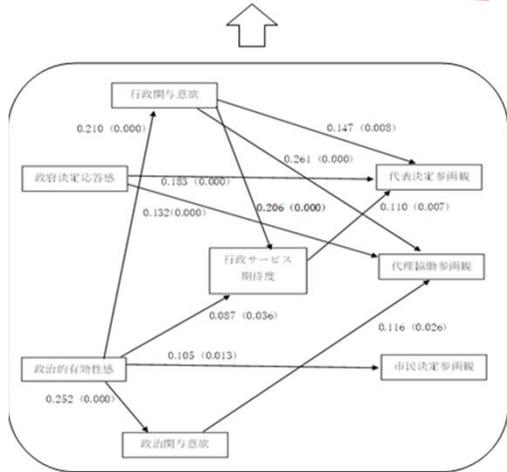


* 代表選挙観が代表者選出選挙を通じての慣習的政治参加での投票行動の心理的側面

デモグラフィーと投票参加(報告書図1、図2)

(授業の構成)

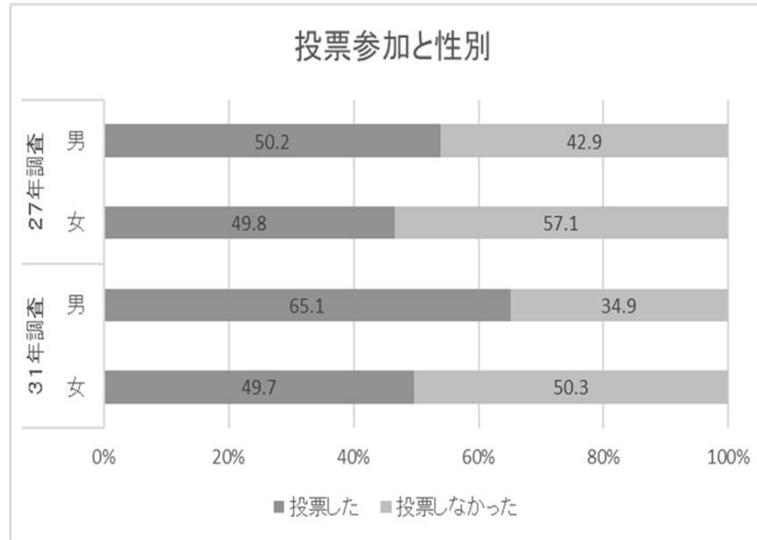
投票参加(投票するか否か)



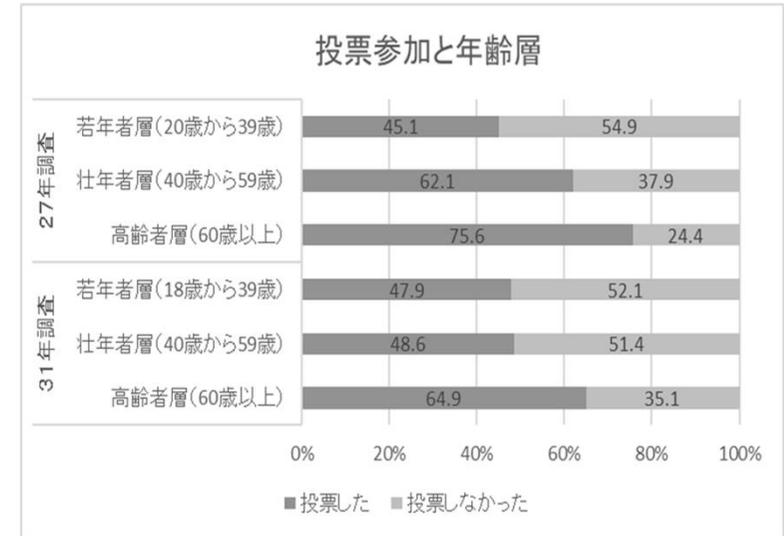
デモグラフィー(性別、年齢層)

分析のためのパスダイアグラム

性別(独立変数)→投票参加(従属変数)



年齢層(独立変数)→投票参加(従属変数)



(分析結果の知見) 性別・年齢層によって投票参加に違いがある(多様と流動)

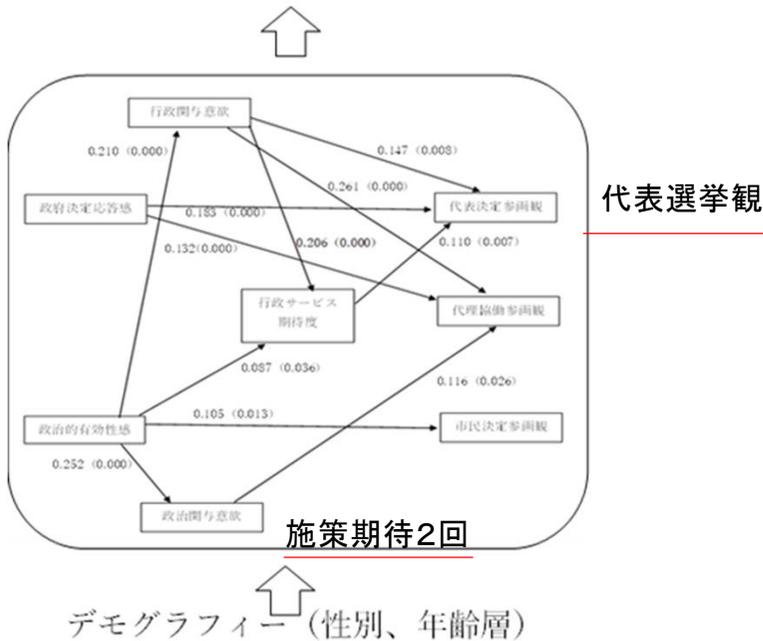
- ・ %差0.4(27年)、5.4(31年)で女性より男性の投票傾向
- ・ 他の年齢層より高齢者層の投票傾向
- ・ 27年と比較して、31年には、性別差が大きくなったが、年齢層差は小さくなったようだ

(ディスカッション)

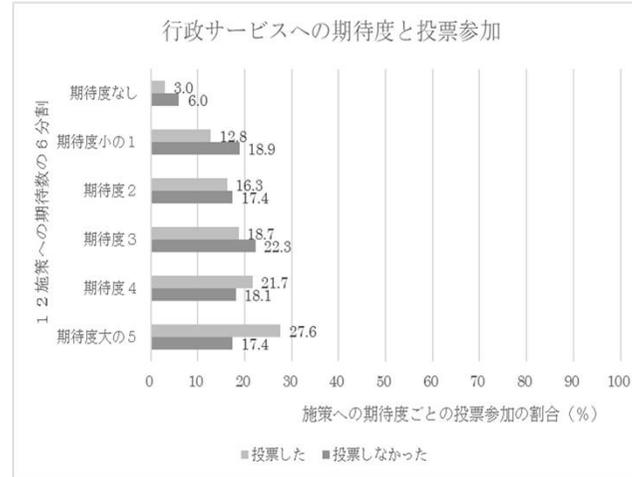
このようにデモグラフィーによって投票参加に違いがあるのはよくないのか?
(すべてが50%になるのが洗練された市民参加力の選挙参加意識か?)

第二回授業での授業での分析の詳細な説明

投票参加（投票するか否か）



分析のためのパスダイアグラム 行政サービスへの期待度→投票参加



(分析結果の知見)

- 投票した人では期待度が増すほど投票する傾向
- 性別と年齢層を合わせて分析すると壮年者層男性0.368、壮年者層女性0.283で行政サービスへの期待の程度が大きくなるほど投票に行く傾向

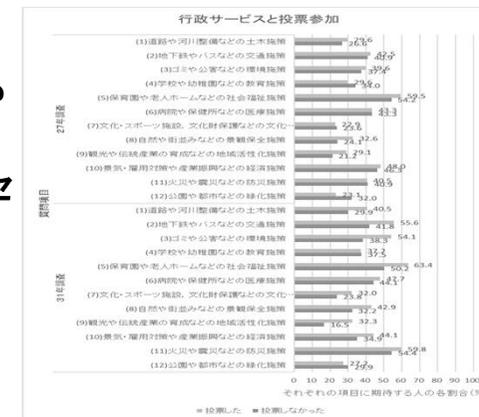
(ディスカッション)

- 行政サービスへの期待度が高い人ほど投票する選挙参加意識の市民力はよいことなのか？
- 期待度3までは投票しない傾向が投票する傾向を上回るが、期待度4以上になると逆転するのは当然のことか？

(施策ごとの分析結果の知見)

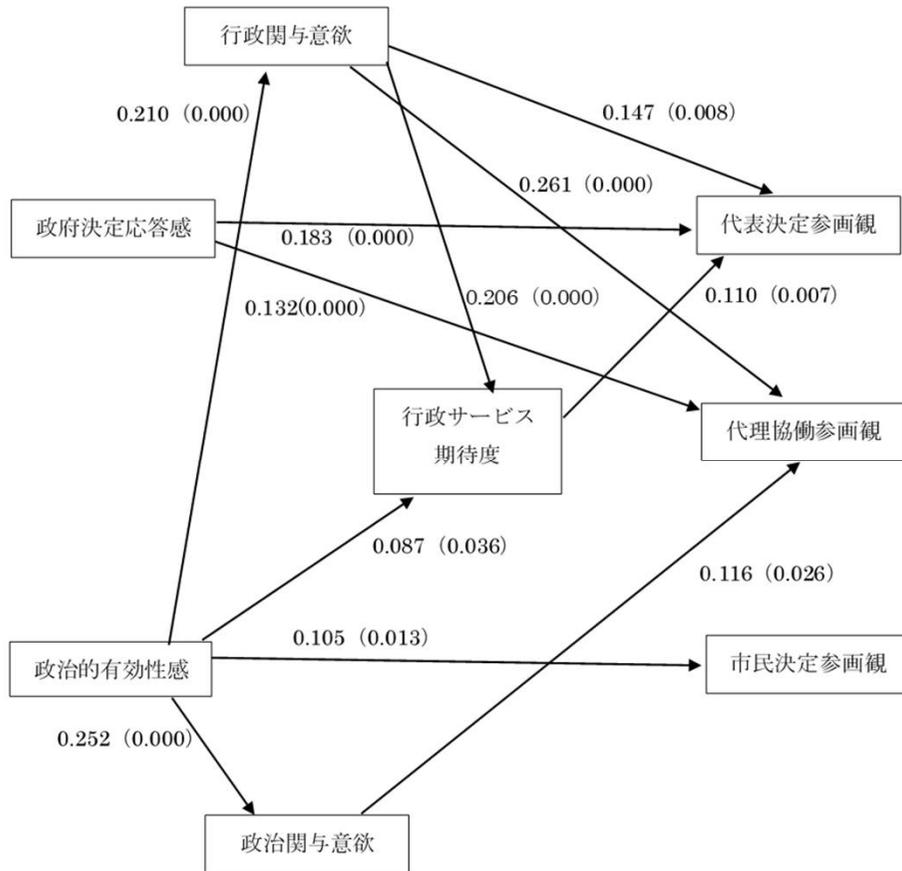
- 投票しなかった人がより期待するかもしれない行政施策として(12)公園や都市などの緑化施策や(4)学校や幼稚園などの教育施策もあるが、(3)ゴミや公害などの環境施策への期待と投票参加との関係(相関係数0.157)と(9)観光や伝統産業の育成などの地域活性化施策への期待と投票参加との関係(0.181)でのパーセントの差が大きく期待者が投票する傾向が目立つ。
- 性別と年齢層を考慮して投票参加との関係を見ると、壮年者層の女性での施策への期待が投票参加に結びつきがあり、また若年層男性で結びつきやすい行政サービスもあり、それらの施策での選挙との関係がより明らかになれば、そのような投票参加の傾向がさらに進むかもしれない。

(ディスカッション) 期待する施策によって異なる選挙参加意識の市民力はよいことなのか？



第二回授業での行政サービスの期待度のパス解析の詳細

2019年度の京都市民の行政サービスの期待度と政策の託し方の因果パス



(注) 意識調査の分析でよく使われるデータ解析ソフトSPSSの回帰分析の強制投入法を使った。

パス係数はベータ、 $p < 0.05$ 、変数はダミー変数

(分析結果の知見)

- 距離感から託し方への直接のパスにおいて、政府決定応答感については代理決定参画観へが0.183と高く、代理協働参画観へも0.132と影響がある。しかし、市民決定参画観へのパスは認められない。一方、政治的有効性感については、市民決定参画観へのパス0.105のみある。

- 距離感から託し方への間接のパスにおいて、政府決定応答感についてはなく、政治的有効性感からは複数のパスが確認できる。そこでは、政治行政への関与意欲と行政サービス期待度の意識を媒介変数として、参画観の意識に影響している。

有効性感覚があると行政関与意欲が加われば、代表決定参画につながるし、さらに行政サービス期待度を経由してもつながる。また、有効性感覚が行政サービスの期待を直接に經由して代表決定参画観につながる。

有効性感覚が代理協働参画観を左右するのは、行政関与意欲を経由する0.261と政治関与意欲を経由する0.116の両者が確認できる。

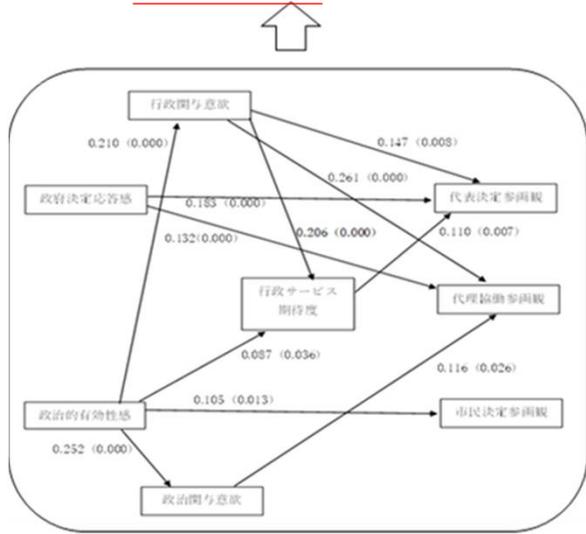
(ディスカッション)

- 人々と政治行政での行政サービス政策(施策への期待)を通しての人々の託し方(関与の制度)への意識について、ここみられる民主政の市民力のどこが洗練され、どこが洗練されていないと思うか？

(具体的には、どのパスがさらにあり、どのパスがない方がいいと思うか？あるいは、どのパスの影響力がより強ければいいと思うか、より弱ければいいと思うか？)

第三回授業での関与の意欲の詳細

投票参加 (投票するか否か)



関与意欲3回

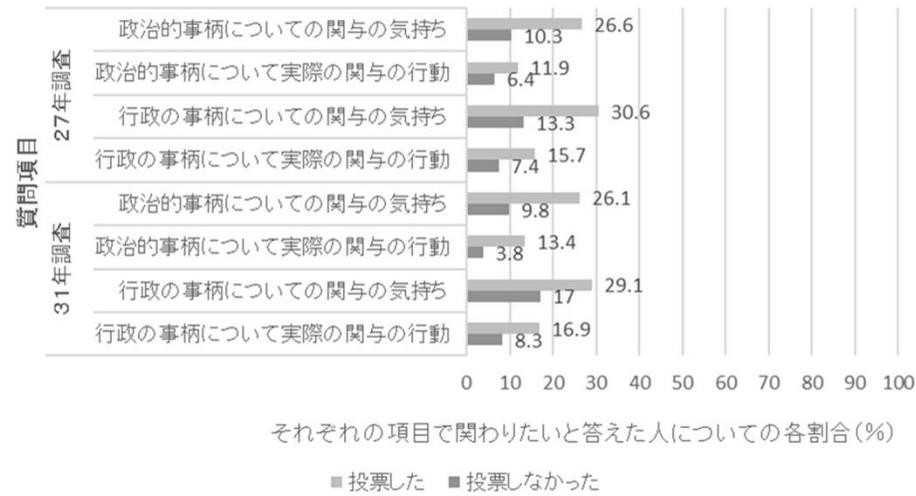
デモグラフィック (性別、年齢層)

代表決定参画観が政治、代理協働参画観を行政に関わる意識と見て、パス図から政治と行政への意欲を分けることで、政治への関心だけよりもさらに理解を進められる。

分析のためのパスダイアグラム

政治と行政への関与の意欲(気持ち・行動)→投票参加

報告書図10 政治行政への関与と投票参加

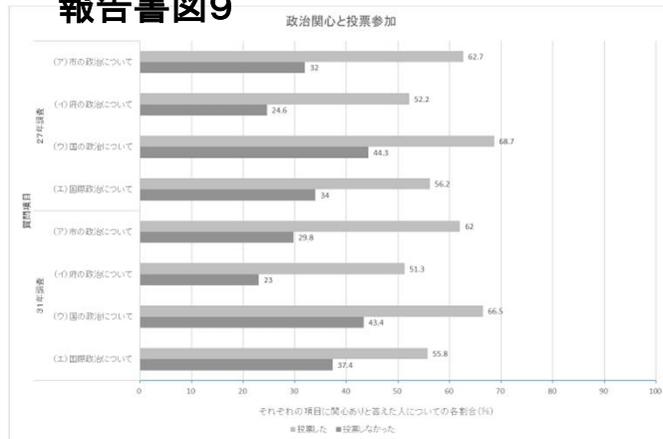


2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の「3 政治と行政への関心や関与や不信の意識と投票参加 (2)」を熟読すること(相関係数の違いにも注目)

(図10)関与の気持ちと行動を政治と行政に分けてみることで投票率向上の方策を検討できる。年齢層や性別を踏まえるとさらに詳細を知ることができる。

政治と行政のいずれへの関与の気持ちと行動のどちらにおいても、関わっていききたいと思う人ほど選挙の投票に参加する傾向がある。

報告書図9

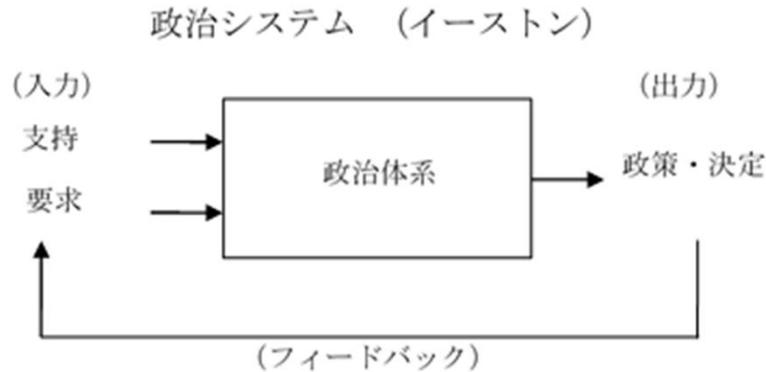


(ディスカッション)

- ・政治への関心が投票参加につながるのと知見に加えて、政治への関与の意欲(気持ちと行動)にさらに注目することで、どのような新たな知見がえられるか?
- ・さらに、政治への関与の意欲に加えて、行政への関与の意欲についての分析は、市民力の洗練とそれへの制度化にどのような視点をもたらすのか?

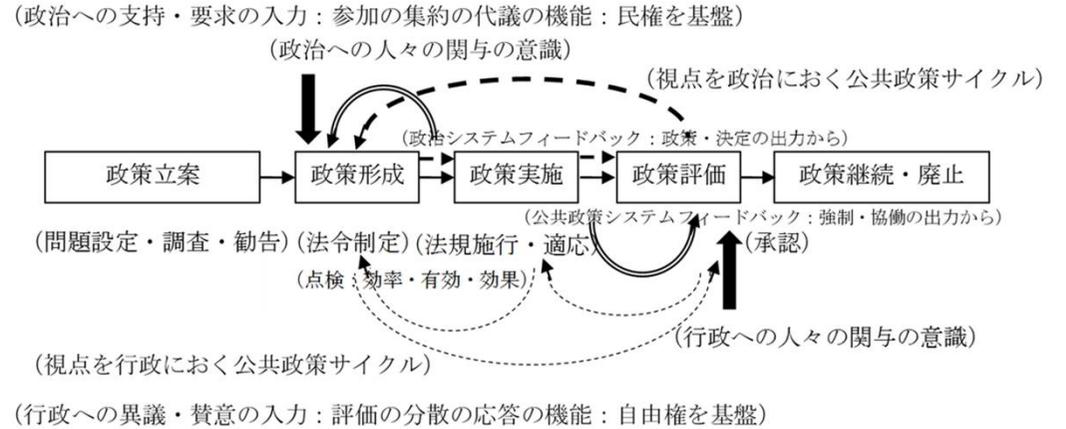
政治と行政への意識を区別する分析の意義 (研究枠組み)

選挙は政治システムの(慣習的な)フィードバック
(政治体系の入出力とフィードバックの政治過程)

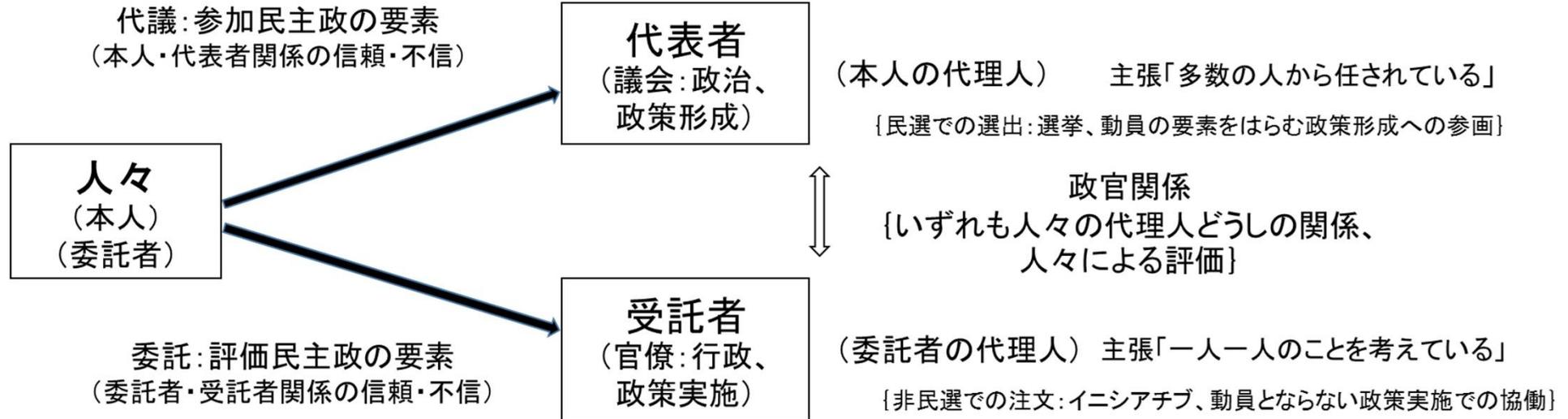


段階モデルの政策過程

(ラスウェルの政策過程の構成段階を参考に、人々の関与のフィードバックを加味した村山のモデル)



人々と政治行政の関係(村山の区別)



2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第四回授業 「議会や議員への見方」 & 「政治行政への距離感」

2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の「4 議員や議会への見方と議会や行政との新たな関係(1)(2)」を熟読すること。加えて、「3 政治と行政への関心や関与や不信の意識と投票参加(3)政治との距離感や政治行政への信頼感と投票参加」を熟読すること。
(ポイント)

(1) 議員や議会への役割への見方(図13)

- ・市民が期待できるような議員活動が投票参加を促す。
- (2) 議会や行政と京都市民の新たな関係(図14、図15)
- ・住民投票に意見を持っている人の投票参加傾向
- ・行政との協働に肯定的な市民の投票参加傾向

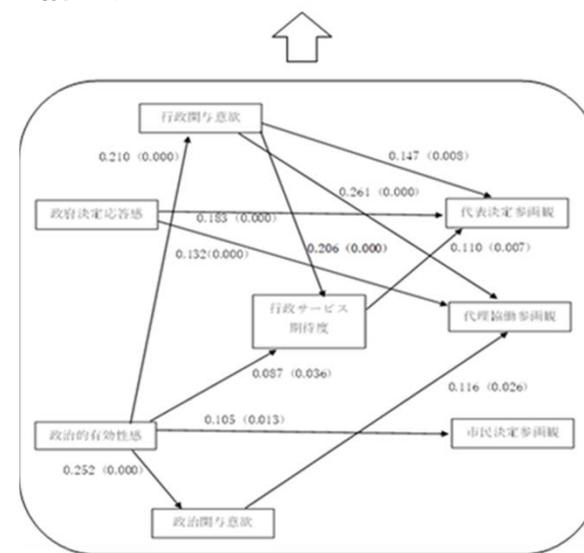
(3) 距離感や信頼感(図11、図12)

- ・疎外感のような政治との市民の距離感の様々な側面

(ディスカッション)

- ・議会や行政と市民のどんな新たな関係が可能か？
- ・政府への市民のどのような距離感の変化が投票率の向上につながる可能性があるか？ (ヒント: 政治的有効感、政策指向)

(授業の構成) 投票参加 (投票するか否か)

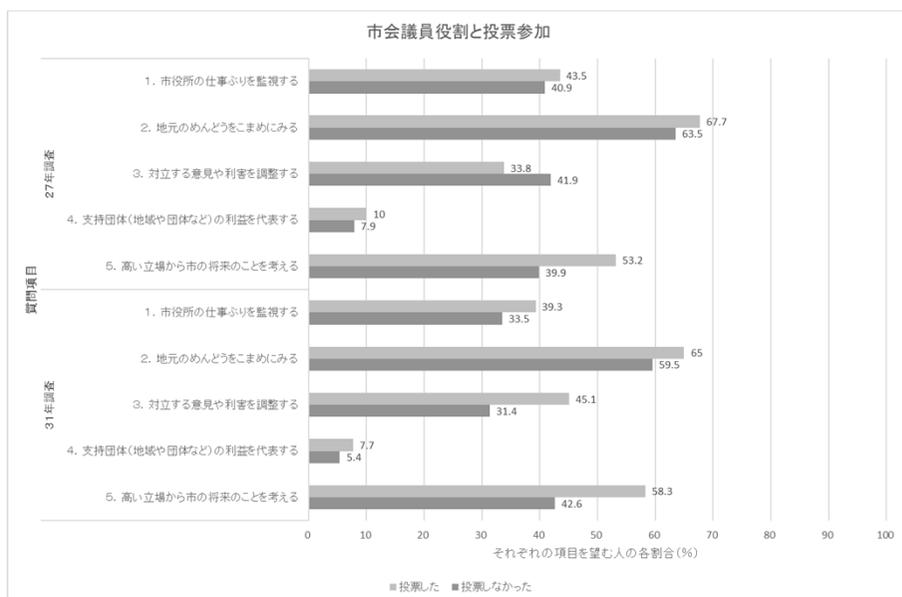


代表選挙観
(問22項目2)
第五回へ
公民協働観
図15

直接参加観
図14

距離感4回 図11 デモグラフィック (性別、年齢層) 制度化(託し方)1・2回

(1) 議員や議会への役割への見方(図13)



問4 あなたは市会議員に対して、どのような役割を望まれますか。
 ア. 次の中から重要だと思われるものを選んでください。(○印はいくつでも)
 イ. その中でも特に重要だと思われるものを1つだけ選んで、○印を付けてください。(○印は1つ)

	ア. 重要 (○印はいくつでも)	イ. 特に重要 (○印は1つ)
1. 市役所の仕事ぶりを監視する	1	1
2. 地元のめんどろをこまめにみる	2	2
3. 対立する意見や利害を調整する	3	3
4. 支持団体(地域や団体など)の利益を代表する	4	4
5. 高い立場から市の将来のことを考える	5	5
6. その他()	6	6
7. とくに期待するものはない	7	7

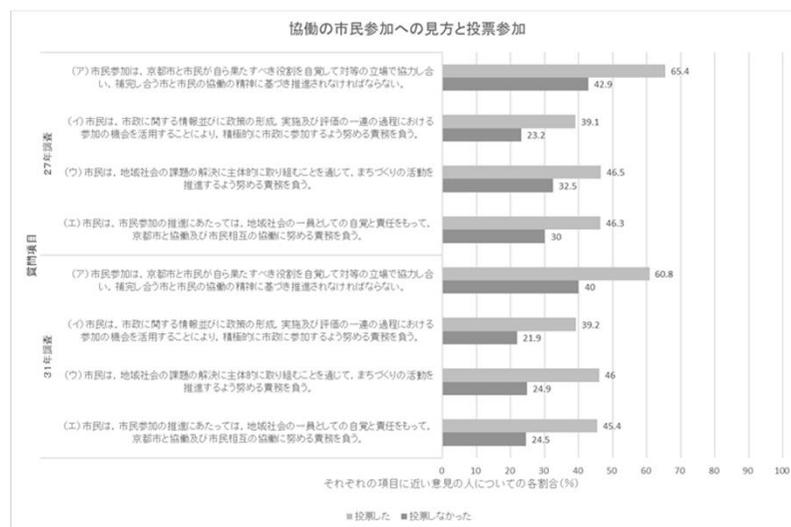
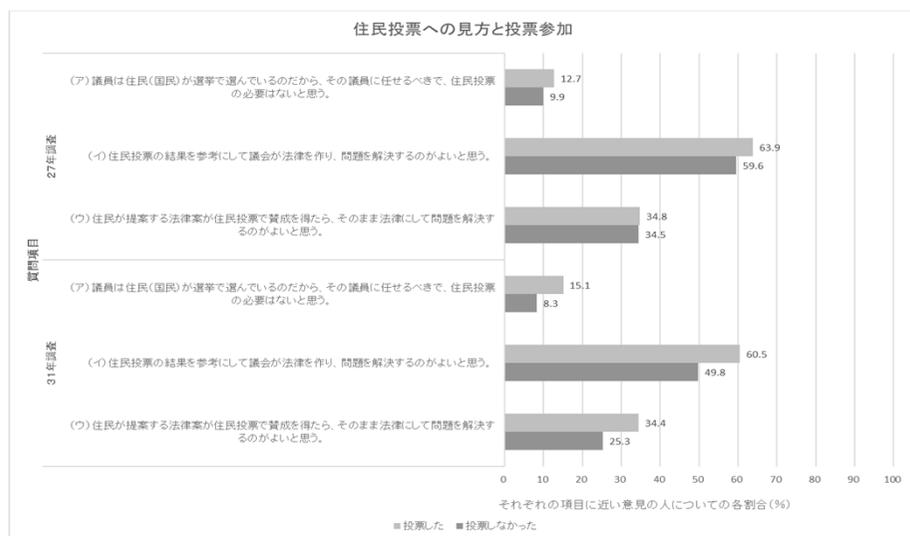
(ディスカッション) 分析結果から投票率の向上のどのような方策が考えられるか?

市会議員の役割として何を望むかの問4についてみると、59.1%(66.3%)の人が「地元のめんどろをこまめにみる」ことを望んでおり、次に「高い立場から市の将来のことを考える」の48.7%(48.8%)、「対立する意見や利害を調整する」の37.0%(36.5%)、「市役所の仕事ぶりを監視する」の34.7%(42.6%)と続く。平成27年に比べて平成31年では、以前から最も期待が続いてきた「地元のめんどろをこまめにみる」(平成23年調査58.3%と平成19年調査50.7%でも一番期待されている)が、**前回の大きな期待からは減少し**、「市役所の仕事ぶりを監視する」(平成23年調査43.7%。平成19年調査45.3%)も**かなり減少した**。

そのような市会議員の役割への市民の期待の有無が投票参加にどのように影響するかを、平成31年調査の結果で示したのが図13である。これに関して有意な相関係数が確認できるのは、利害の調整の役割で0.139(壮年者層0.191, 高齢者層0.194, 女性0.178, 壮年者層女性0.256, 高齢者層女性0.195)であり、高い立場から考える役割で0.156(高齢者層0.171, 男性0.177, 高齢者層男性0.250)である。括弧内の各カテゴリーでの相関係数を見ると、利害の調整の役割に期待する女性が投票に行く傾向や、高い立場からの役割に期待する高齢者が投票に行く傾向があるのが注目される。これらの傾向に沿って選挙広報の対象を考える方策が投票率の向上につながるが、いずれの項目においても市民が市会議員に期待できるような議員活動が市民の投票参加を促すだろう。

(2) 議会や行政と京都市民の新たな関係(図14、図15)

地方行政の争点についての住民投票をも視野に置きながら、選挙での投票行動を検討することからも、地方選挙の投票率の向上への方策を考える手がかりが得られるかもしれない。代表者を選ぶ選挙の投票を通じて間接的に政策形成に関わる代議制での政治への関与と、行政の政策実施に直接に影響するような住民投票を通じての行政への関与が、市民と政治行政の関係については考えられる。しかし、**市民はそれらを並存する制度であると意識しているわけではない。**それは直接民主制が間接民主制の補完であると考えがちなことによる。もし今日の投票率の低下と政府への不信が同時進行する状況から脱出できるなら、人々の議会や行政との新たな関係として住民投票は一考に値する。代表者選出の選挙投票と政策争点への住民(国民)投票が、人々が政治行政に関与できる二種類のものとして使い分けることが、**翻って議員選出の選挙での投票参加の意義に改めて気づいて投票率の向上につながるかもしれない。**直接民主制がよりよい結果への保障にもならないし、直接民主制の投票が人々の投票参加を常に増すわけでもない。しかし、**間接と直接の両制度を時として柔軟に使い分けて、投票参加が魅力的になるような京都市民と政治行政との関係も想像できなくもない。**



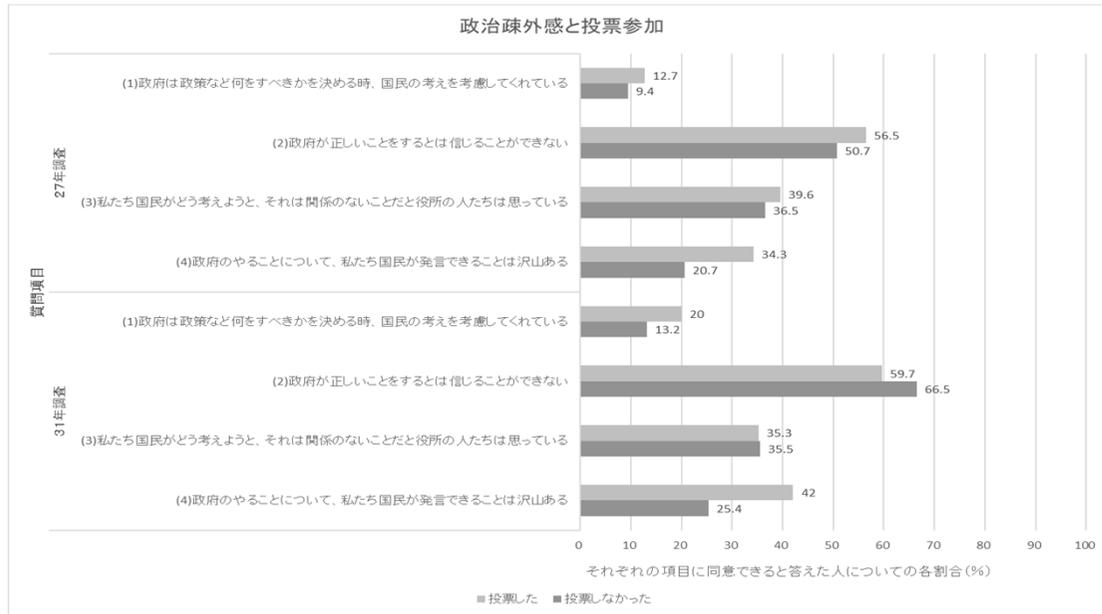
いずれの年度の行政との協働への意見と市民参加の関係についても、4項目のすべてにおいて、協働に肯定的な見方の人が投票参加する傾向がある。

投票率の向上には選挙時の具体的な啓発活動に加えて、代表者の選出選挙とは別の政治行政への人々の関与の動きをも視野におく必要がある。協働の市民参加は、議会の政策形成や行政の政策実施での人々の関与の今後への新たな動きとなるだろうし、住民投票とともに、地域での人々と政治行政の関係を深める方策が求められる。**その具体的な契機となるのは地域での政策争点であるかもしれない。**

(3) 距離感や信頼感(図11、図12)

政治的有効性感覚の増加が投票参加の向上につながる可能性がある。

なぜなら、31年調査において、分析結果の「国民が発言できることは沢山ある」での投票した人のうち有効性感ありの人が42%、投票しなかった人のうち有効性感ありの人が25.4%で、その%差は16.6と他と比べて大きい。27年調査においても%差は13.6と他と比べて大きい。政治疎外感の中で自らの有効性感覚の増大による投票参加への影響が期待できる。



有効性感覚の低下が止まる

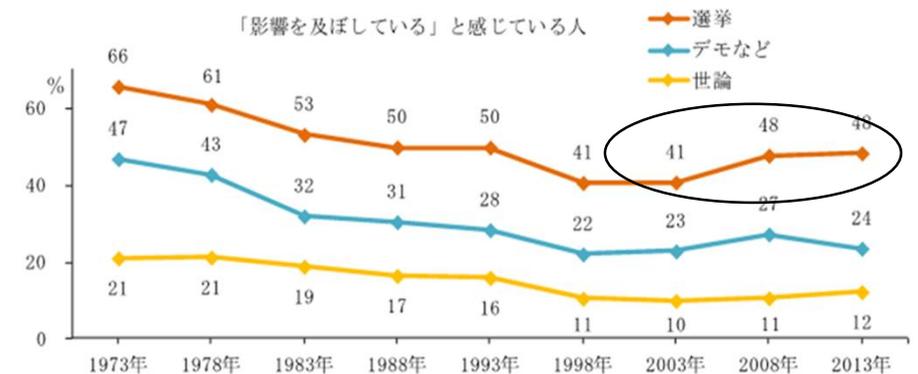
NHK放送文化研究所編 『現代日本人の意識構造』(第八版) NHK出版、2015年。日本人の意識・40年軌跡

第9回「日本人の意識」調査(2013) 結果の概要

調査目的: 5年ごとに、同じ質問、同じ方法で世論調査を重ねることによって、日本人の生活や社会についての意見の動きをとらえる。1973年石油ショック直前の第1回から数えて今回が9回目になる。
 調査時期: 2013年10月19日(土)・20日(日)
 調査相手: 全国の16歳以上の国民5,400人(層化無作為二段抽出)
 調査方法: 個人面接法
 有効数(率): 3,070人(56.9%)

⑤国民の行動が国の政治に影響を及ぼすと感じている人は減り続けていたが、2000年前後からその傾向が止まっている。

まず、選挙については、前回大きく増加して約半数まで回復し、今回もその水準を保っている。ついで、国民のデモや陳情、請願行動については、有効だと感じている人が今回は減ったものの、03年と同じ水準を保っている。そして、世論については今回若干増加した。このように、政治に及ぼす影響についての考え方は、90年代末までと変わりつつある。



(ディスカッション) 距離感はどのように多様化か? ヒント: 政府不信は参加に関わる認知よりも方向に関わる感情か

各国の民主政(政治行政と人々の関係)は様々(収束ではなく拡散)
 選挙参加の投票率の低下(選挙民主主義の弱体化)
 ↓ (民主政のシステムの入力の変化)
 評価投票の関与率の向上(投票民主主義の多様化)

比較文化研究アプローチ

図表 2-1 市民の政治制度に対する信頼 (アジア)

%	日本	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	インドネシア	タイ	フィリピン
80-90				警察 裁判所 政府 公務員制度 軍隊 指導者			軍隊	
70-80				国会 大企業 政党 メディア		公務員制度		メディア
60-70				政府 裁判所 軍隊 指導者 公務員制度	軍隊 メディア 政府 国会	大企業 公務員制度 メディア		
50-60		軍隊	公務員制度	警察 国会 メディア 大企業 政党	警察	裁判所	軍隊 公務員制度 政府 裁判所	
40-50	軍隊 裁判所 警察 公務員制度	メディア	軍隊 指導者 政府 大企業		指導者 政党	警察	国会 警察	
30-40		警察 裁判所 公務員制度	警察 メディア 裁判所		裁判所 大企業	指導者 国会	指導者 大企業 政党	
20-30	大企業 メディア 国会	政府	政党			政府 政党		
10-20	政府 政党 指導者	大企業	国会					
0-10		指導者 政党 国会						

資料：日本リサーチセンター「アジア・ヨーロッパ世論調査」
 この世論調査は文科省科学研究費(特別推進 1999-2003 年、課題番号は 11102001)によって可能となった。
 代表者は猪口孝である。

図表 2-2 市民の政治制度に対する信頼 (ヨーロッパ)

%	イギリス	アイルランド	フランス	ドイツ	スウェーデン	イタリア	スペイン	ポルトガル	ギリシャ
80-90									
70-80			軍隊	大企業 公務員制度				軍隊	軍隊
60-70	警察	警察 軍隊	警察 軍隊	警察		警察 大企業		メディア 公務員制度 大企業 警察	
50-60		公務員制度 裁判所	メディア		警察 裁判所	軍隊	警察 国会		
40-50	裁判所 大企業 公務員制度	メディア	裁判所 国会 政府	裁判所 軍隊	大企業	メディア	軍隊 裁判所 政府 メディア 公務員制度	国会 政府 裁判所 指導者	警察 裁判所
30-40	国会	大企業 政府 国会		国会 大企業 指導者	軍隊 国会 公務員制度		政党 指導者 大企業		政府 大企業
20-30	メディア 政府	指導者 政党	指導者	政府 公務員制度 メディア	メディア 政府 指導者	公務員制度 裁判所 政府 国会		政党	メディア 国会 公務員制度
10-20	指導者 政党		政党	政党	政党	指導者 政党			指導者 政党
0-10									

資料：日本リサーチセンター「アジア・ヨーロッパ世論調査」
 この世論調査は文科省科学研究費(特別推進 1999-2003 年、課題番号は 11102001)によって可能となった。
 代表者は猪口孝である。

信頼と民主主義のパラドックス
 非民主的組織により信頼あり

権力とは、多くの場合、何かを
 強要する能力を意味する

日本、韓国、台湾の東北アジアの民主体制グループの様々な組織への信頼度が低く、他方、第三の波グループの民主的組織への信頼度は高い

アメリカの慣習的政治参加(選挙登録、住民投票の手続き)

以前のサンフランシスコの選挙の事前登録の例

MyVoteCounts

STATE OF CALIFORNIA
VOTER REGISTRATION FORM

USE BLACK OR BLUE INK—PLEASE PRINT CLEARLY

1 LAST NAME (Only)
FIRST NAME (Only) MIDDLE NAME (Only)

2 ADDRESS where you live: (Number, Street, Ave., Road, Drive, including N, S, E, W) (NO PO BOX/BUSINESS ADDRESS) APT#/SP#/UNIT#

3 CITY STATE ZIP CODE COUNTY
C A

4 IF NO STREET ADDRESS, describe where you live: (Cross Streets, Route, Section, Range, N, S, E, W)

5 MAILING ADDRESS: (If different from the address where you live, or PO BOX)
CITY STATE ZIP CODE FOREIGN COUNTRY

6 DATE OF BIRTH Month Day Year PLACE OF BIRTH - (U.S. State or Foreign Country Only)

7 CA DRIVER'S LICENSE OR CA ID CARD # SOCIAL SECURITY NUMBER (SSN) - (Last 4 digits)

8 TELEPHONE E-MAIL ADDRESS

9 POLITICAL PARTY - Fill in one oval
 American Independent Party
 Democratic Party
 Green Party
 Libertarian Party
 Natural Law Party
 Peace and Freedom Party
 Republican Party
 I Decline to State a Political Party
 Other (Specify)

10 HAVE YOU EVER BEEN REGISTERED TO VOTE? Yes No If you have previously been registered to vote, you must provide your prior voter registration information in Item 10 below.
 LAST NAME FIRST NAME MI
 STREET ADDRESS CITY
 STATE ZIP CODE COUNTY POLITICAL PARTY

11 PERMANENT ABSENTEE VOTER
 Fill in the oval and initial here to become a Permanent Absentee Voter. State Law now allows any voter, who so requests, to be a Permanent Absentee Voter. Once enrolled you will automatically receive an absentee ballot for every election in which you are entitled to vote. Failure to vote in a statewide general election, however, will cancel your Permanent Absentee Status (not your voter registration) and you will need to reapply for Permanent Status.
 (FOR OFFICE USE)

12 If someone helps fill out or keeps this form, see special instructions below.
 (a) (b)
 (c) (d)
 (e) (f)
 (g) (h)

13 OPTIONAL: Please check your ethnic background.
 American Indian or Alaskan Native
 Asian
 Black
 Hispanic
 Filipino
 Pacific Islander
 Other (specify)

14 OPTIONAL SURVEY: Can you help in the following area(s)?
 Provide a Polling Place Site
 Polling Place Worker
 Bilingual Polling Place Worker
 Language

15 NOTICE: It is a felony if you sign this statement even though you know it is untrue; you can be fined and imprisoned for up to three years.
 Yes No Are you a citizen of the United States of America?
 Yes No Will you be 18 years of age on or before election day?
 If you checked "no" in response to either of these questions, do not complete this form.
 VOTER DECLARATION—Read, sign, and date below.
 I am a U.S. Citizen, will be at least 18 years old on or before the next election, and am not in prison or on parole for a felony conviction. I certify under penalty of perjury under the laws of the State of California that all the information on this form is true and correct.
 SIGNATURE—You must sign and date in box below.
 X Signature Today's Date
 59 BE 176744 MMDDYY

400001

Moisten edge to seal — DO NOT TAPE OR STAPLE! Remember to sign and date in Item 15.

支持政党記載



DEPARTMENT OF ELECTIONS
City and County of San Francisco
1 Dr. Carlton B. Goodlett Place
San Francisco, CA 94102-4608
Telephone: (415) 554-4375
TTY: (415) 554-4306
elections.org



NONPROFIT ORG.
U.S. POSTAGE
PAID
TOWNE, INC.

ELECTRONIC SERVICE REQUESTED

Your polling place address: Mailing Address:

La dirección de su lugar de votación: / 您的投票站地址: /
 Address ng inyong lugar ng botohan:

*****ECRL0T**C006 BT 15 P C383461V
 96980 ABBAS LARIZADEH 21/0/04
 1935 32ND AVE
 BETWEEN PACHECO & ORTEGA
 YOUR PRECINCT IS 9431 SAN FRANCISCO CA 94116-1149

投票場所



Are the entryway and the voting area accessible? / Son accesibles la entrada y el área de votación? /
 入口和投票區是否方便出入? / Madali bang makarating at makapasok sa pasukan at sa lugar ng botohan?

YES 4.4% slope

Political Party Preference: / Preferencia por partido político: / 政黨傾向: / Kinakatangang Partidong Politikal Democratic Party

Vote-by-Mail Application for the June 7, 2016, Consolidated Presidential Primary Election
 Must be in the Department of Elections office by May 31 at 5 p.m.

Name: ABBAS LARIZADEH

If "PERM" is printed above, DO NOT send in this application. You are a Permanent Vote-by-Mail Voter. A ballot will be sent to you automatically.
 Si aparece impreso "PERM" arriba, NO envíe esta solicitud. Usted ya es un Elector de Voto por Correo Permanente. Se le enviará una boleta automáticamente.
 如果以上印有「PERM」字樣，您不必寄送本申請表。您已是永久郵寄投票選民。我們會主動寄投票給您。/ Kung nakasulat ang "PERM" sa taas, HUWAG ipadala ang aplikasyong ito. Kayo ay isang Permanenteng Vote-by-Mail na Botante. Automatikong ipadadala sa inyo ang isang balota.

Check here if you wish to become a Permanent Vote-by-Mail Voter. / Marque aquí si quiere hacerse un Elector de Voto por Correo Permanente. / 如果您想申請成為永久郵寄投票的選民，請勾選此句的方格。/ Markahan ng check dito kung nais ninyong maging Permanenteng Vote-by-Mail na Botante.

Residential Address		Mailing Address (if different from Mailing Address printed above)	
Street	Apt.	Street	Apt.
City, State, ZIP Code		City, State, ZIP Code	
Phone		Country	

I certify under penalty of perjury that this information is true and correct. / Certifico bajo pena de perjurio que esta información es verídica y correcta. / 本人依照法律聲明此項資訊屬實無誤。/ Aking sinseripika, alinsunod sa parusang pagsinunungaling sa sinumpaang salaysay, na totoo at tama ang impormasyong ito.

Sign here / Firme aquí / 在此簽名 / Pamirma dito / 16

We must have your signature - Do not print / Necesitamos recibir su firma - No escriba en letra de molde / 我們一定要有您的簽名——不要印刷 / Kailangan namin ang inyong firma - Huwag isulat ang pangalan.

- Marque aquí si en el futuro quiere recibir el Folleto de Información para los Electores en español.
- 如果您想在將來的選舉中收到中文版的《選民資料手冊》，請勾選此句的方格。
- Lagyan ng check dito kung gusto ninyong makatanggap ng Pamplam ng Impormasyon para sa mga Botante sa wikang Filipino sa hinaharap.

郵便投票



選挙公報

Consolidated Presidential Primary Election * City and County of San Francisco

Voter Information Pamphlet & Sample Ballot

Tuesday, June 7, 2016
from 7 a.m. to 8 p.m.



Did you know you can read this pamphlet online?

You can choose to stop mail delivery. See inside for details.



voterguide.sfelections.org

Las boletas y otros materiales electorales están disponibles en español. Vea el dorso de la portada para más información.

選務處提供中文版選票和其他選舉資料。詳細資訊請看封面內頁。

Makakukuha ng mga balota at iba pang mga materyales para sa eleksyon sa wikang Filipino. Tingnan ang loob ng pabalat para sa karagdagang impormasyon.

This Voter Information Pamphlet contains sample ballots for the following:
本選民資料手冊包含以下各種選票樣本：

American Independent Party
美國獨立黨

Democratic Party
民主黨

Green Party
綠黨

Libertarian Party
自由論黨

Peace and Freedom Party
和平自由黨

Republican Party
共和黨

Voters who did not disclose a preference for a qualified political party
拒絕透露政黨傾向的選民



Published by:
Department of Elections
City and County of San Francisco
sfelections.org

BT 15 P CD 12 AD 19 SUP 4 C

住民投票 以前のサンフランシスコの住民投票の例

資料3 サンフランシスコの1998年6月選挙のプロポジション

提案番号	案件テーマ	目的	提案者	住民投票結果 (%)
A	ディ・ヤング・ミュージアムの改築	起債	議会提案	賛成 64.3 (3分の2の賛成必要)
B	水道・電気施設の利用料収入の使途の優先順位の変更	憲章修正	議会提案	賛成 58.2
C	市議会議員のサラリー値上げ	憲章変更	議会提案	反対 58.2
D	州および連邦政府からの環境保全のための資金借入れ	憲章修正	議会提案	賛成 64
E	小規模賃貸住居の明け渡し要求制限法令の例外規定	法令の改正	市民提案	反対 61
F	シティーホール修理後の地震以前と同様のオフィスの利用など	法令制定	市民提案	賛成 59.3
G	市議会議員の有給スタッフの3人から2人への縮小	法令制定	市民提案	反対 53.4
H	水道・下水料金の2006年までの凍結	法令制定	市民提案	賛成 58.8
I	市の施設の移転についての公への告知義務の要求	法令制定	市民提案	賛成 62.5
J	ゴールデンゲートパークの地下駐車場の建設と公共交通の整備	法令制定	市民提案	賛成 58.1
K	海軍基地トレジャー島の民間利用のためのカジノの禁止など	政策宣言	市民提案	賛成 55.5
L	プレシディオ・パークの土地利用の既存建物の賃貸政策の推進	政策宣言	4名以上の議員提案	賛成 53.1

(注) 直接発案住民投票 (イニシアチブ) は、議会を経ることなく投票結果によって条例が制定され施策が実施される

提案C：増税することなく、耐震住宅リフォームの支援

- ・ サンフランシスコ市の住民投票（2016年8月8日）
- ・ 政治家や有力紙クロニクルの賛成意見

YES ON C
PAID FOR BY THE COALITION TO SAVE AFFORDABLE HOUSING. YES ON C FINANCIAL DISCLOSURES AVAILABLE AT SFETHICS.ORG

2352 MARKET STREET, SUITE B
SAN FRANCISCO, CA 94114

ENDORSED BY U.S. SENATOR DIANNE FEINSTEIN

"After Loma Prieta, voters passed a bond to seismically retrofit buildings at risk in an earthquake. Today, we can expand that 24 year-old program to save more at-risk buildings. Save housing, without new taxes, by voting Yes on C."

U.S. Senator Dianne Feinstein

Paid for by the Coalition to Save Affordable Housing, Yes on C. Major funding by Kilroy Realty, LP and PG&E Corporation. Financial disclosures available at SFETHICS.ORG.

2352 Market St., Suite B
San Francisco, CA 94114

PSRST STD U.S. POSTAGE PAID PSP

Chronicle recommends: Yes on SF Prop. C

<p>PROTECTS NEIGHBORHOODS</p> <p>"By allowing nonprofit housing developers to rehabilitate and repair existing at-risk buildings, Prop C protects neighborhoods and creates affordable housing without new construction."</p> <p>George Wooding Coalition for San Francisco Neighborhoods</p>	<p>MAXIMIZES RETURN FOR TAXPAYERS</p> <p>"To address our housing crisis, we need innovative strategies that provide housing without raising taxes. Prop C is a smart solution."</p> <p>State Senator Mark Leno</p>	<p>NO NEW TAXES</p> <p>"Prop C makes use of existing bonding capacity, meaning it will have no impact on the general fund or property taxes. It's a creative way to provide more affordable housing in San Francisco."</p> <p>Supervisor Katy Tang</p>	<p>A SMART SOLUTION</p> <p>"As a revolving loan program, Prop C maximizes returns for taxpayers, multiplying the impact of bond funds and helping San Francisco provide affordable housing for years to come."</p> <p>Board of Supervisors President London Breed</p>
--	---	---	--

<p>YES ON C: A FISCALLY RESPONSIBLE SOLUTION</p> <p>San Francisco Democratic Party Coalition for San Francisco Neighborhoods Council of District Merchants Association San Francisco Labor Council San Francisco Moderates San Francisco Women's Political Committee San Francisco Chinese Chamber of Commerce Senior and Disability Action Affordable Housing Alliance HomeownershipSF Veterans Equity Center</p>	<p>U.S. Senator Dianne Feinstein Mayor Ed Lee State Senator Mark Leno Board of Equalization Member Fiona Ma Fire Chief Joanne Hayes-White Former Mayor Art Agnos Board of Supervisors President London Breed Supervisor Aaron Peskin Supervisor Katy Tang Supervisor Jane Kim Supervisor Norman Yee</p>
---	---

YES ON C SAVE AFFORDABLE HOUSING WITH NO NEW TAXES

- **Expands the eligible uses from a 1992 seismic safety bond** to include fire, safety and code upgrades of other at-risk residential buildings.
- **Stronger oversight provisions** than for the original bond with greater taxpayer accountability
- **Protects neighborhoods** by increasing the safety of older buildings while preserving neighborhood character
- **Saves affordable housing** in multi-story buildings that could otherwise be destroyed or converted

SAN FRANCISCO IS UNITED TO PROTECT OUR NEIGHBORHOODS AND HOUSING. JOIN US AND VOTE YES ON C.



U.S. SENATOR DIANNE FEINSTEIN MAYOR ED LEE STATE SENATOR MARK LENO BOARD OF EQUALIZATION MEMBER FIONA MA FIRE CHIEF JOANNE HAYES-WHITE FORMER MAYOR ART AGNOS



BOARD OF SUPERVISORS PRESIDENT LONDON BREED SUPERVISOR AARON PESKIN SUPERVISOR KATY TANG SUPERVISOR JANE KIM SUPERVISOR NORMAN YEE SCHOOL BOARD VICE-PRESIDENT SHAMANN WALTON

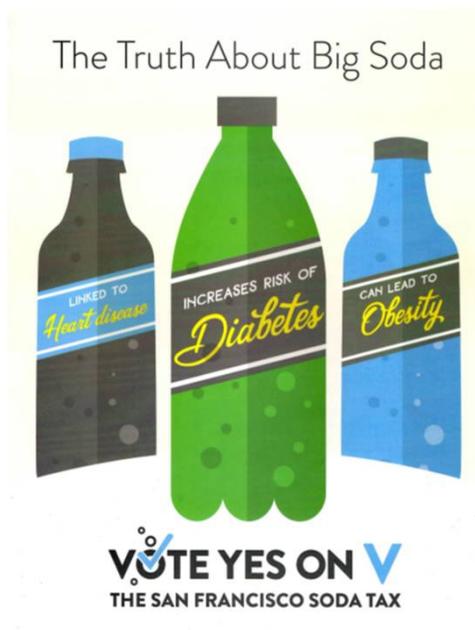
ORGANIZATIONS

- San Francisco Democratic Party
- Coalition for San Francisco Neighborhoods
- Council of District Merchants Association
- San Francisco Labor Council
- San Francisco Moderates
- San Francisco Women's Political Committee
- San Francisco Chinese Chamber of Commerce
- Senior and Disability Action
- Affordable Housing Alliance
- HomeownershipSF
- Veterans Equity Center

Vote November 8th
or vote by mail

YES ON C
SAVE AFFORDABLE HOUSING

提案V：大型ボトルへの
物品課税（肥満対策）
・賛成広告と反対広告



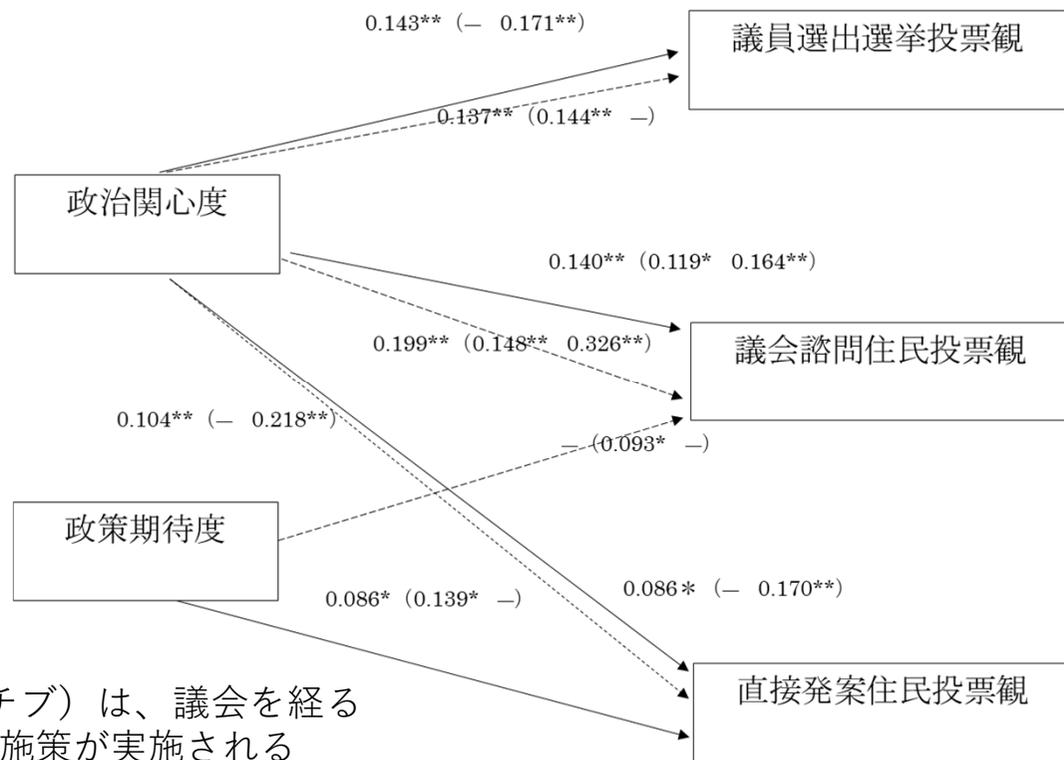
(再確認) 直接発案住民投票（イニシアチブ）は、議会を経ることなく投票結果によって条例が制定され施策が実施される

(ディスカッション)

・議員選出選挙と住民投票（イニシアチブ）が併存するような、政治行政への人々の関与の制度化によって、人々と政治行政の距離感はどのように変わる可能性があるか？

(参考 住民投票への意識のパス解析)

1999年(破線)と2015年(実線)を比較するパス図(若壮年-59歳 高齢者60-) (京都市民政治意識調査データ)



(参考 政治文化論アプローチ)

人々の意識(考え方、感じ方、行動の仕方)と民主主義の洗練

- ・脱物質主義価値観とエリート対抗型政治政治参加
- ・ソーシャルキャピタルと市民的積極参加
- ・混合型市民文化(シビックカルチャー)

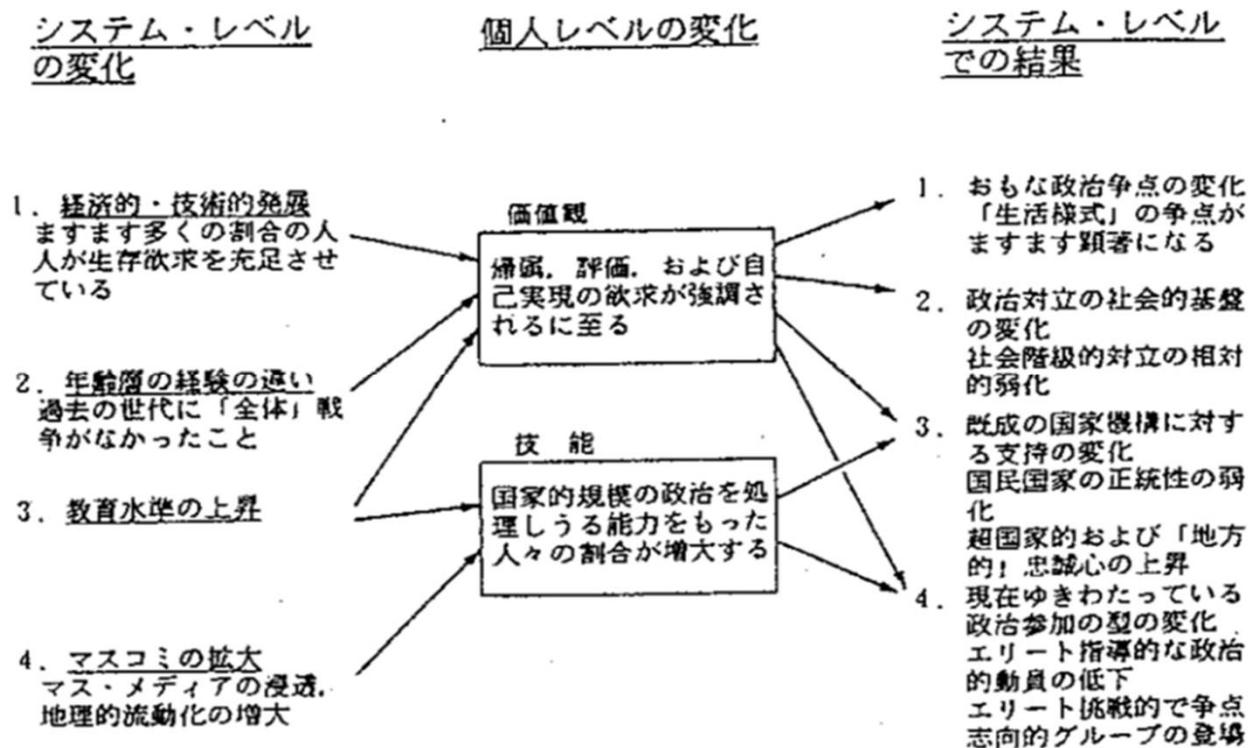
(ディスカッション)

今日では、以前よりエリートに挑戦する政治意識は少ないのか？

システムレベルの結果のところを確認して、今日の状況を検討してみる。4は異なるが、1、2、3は言えるかもしれない。加えて、今日ではシステムレベルの変化での「情報革命」への視点が重要だろう。

(脱物質主義的価値観:生存欲求より自己実現欲求を優先)

図 0-1 本書で扱う変化のプロセスの概略



(出所) Inglehart, *The silent revolution: Changing values and political styles among Western publics*, Princeton University Press, 1977, p. 5.

市民的積極参加と政治参加(社会関係資本) ロバート・パットナム、河田潤一訳『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』(Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy)、NTT出版、2001年

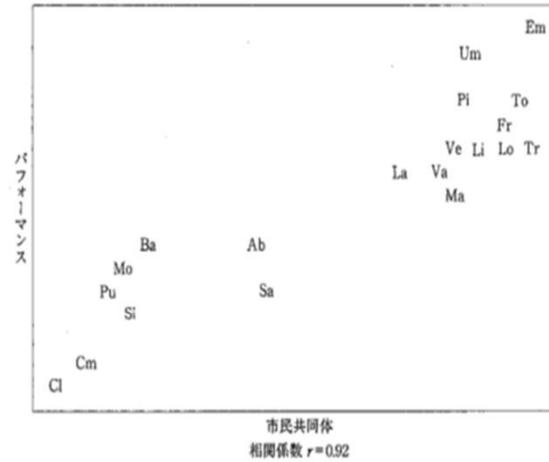
図4-4 イタリア各州の市民共同体



図4-1 イタリア各州の制度パフォーマンス (1978-81)



図4-5 市民共同体と制度パフォーマンス



われわれの市民共同体イメージが想定しているように、右に見た四つの指標は、国民投票への参加度が高く、私的な優先投票をあまり使わない州は、互いに緊密に編まれた市民の自発的組織のつづれ織りに恵まれ、新聞購読率も高い州とほぼ重なるという意味で、実際に強く相関し合っている。こうしたことから、四つの指標を単一の「市民共同体」指数にうまく総合しうる(表4-4に要約)。「市民度」の指標は、どれも単独ではもちろん判断を誤らせる可能性がないとはいえないが、総合的なこの複合指数は、重要かつ整合的な一つの症候群を表している。

表4-4 《市民共同体》指数

成分判定基準	因子負荷量
優先投票 (1953-79年)	-0.947
国民投票への参加度 (1974-87年)	0.944
新聞購読 (1975年)	0.893
スポーツ・文化団体の不足 (1981年)	-0.891 ^a

^a 本文に示されているように、この変数は数値が大きいほど団体量が少なくなるようにスコアリングされている。

表3-2 《制度パフォーマンス》指数 (1978-85年)

パフォーマンス指標	因子負荷量
改革立法 (1978-84年)	0.874
保育所 (1983年)	0.851
住宅・都市開発 (1979-87年)	0.807
統計情報サービス (1981年)	0.797
立法でのイノベーション (1978-84年)	0.779
内閣の安定性 (1975-85年) ^a	0.681
家庭医制度 (1978年)	0.640
官僚の応答性 (1983年)	0.625
産業政策の手段 (1984年)	0.580
予算過程の開始時期 (1979-85年) ^a	0.577
地域保健機構の支出 (1983年)	0.545
農業支出の規模 (1978-80年)	0.468

^a 内閣の安定性と予算過程の開始時期のスコアリングは、本文中のものとは逆になっている。従って、高スコアほど高パフォーマンス。

社会関係資本の基盤: 信頼、互酬性

市民文化の政治意識 G. アーモンド & S. ヴァーバ

政治システム(人々と政治行政の関係)

図表 1-2 政治文化の理念的諸類型

(1は積極的な方向づけ, 0は消極的な方向づけを表す)

対象としての政治システム 政治文化の類型と指向性	一般的対象としての政治体系	政治体系の入力対象	政治体系の出力対象	政治的行為者(積極的参加者)としての自己
パロキアル型 (未分化型)	0	0	0	0
服従型 (臣民型)	1	0	1	0
参加型	1	1	1	1

- 注
- 一般的政治体系 : 国家および一般的な意味での政治システムについて、その歴史、規模、位置、権力、「憲法上」の特性等に関してどのような知識を持っているか。このようなシステムの諸特性にどのような感情を抱いているか。そして、こうしたものについてのある人の見解や判断はどうか。
 - 入力対象 : 政策形成への入力構造や政治エリートや政策案件について、どのような知識を持っているか。これらの構造や指導者や政策案件に対する感情やそれらの意味がどのように理解されているか。
 - 出力対象 : 政策施行の出力構造やその決定についてどのような知識を持っているか。それらについての感情と見解はどうか。
 - 対象としての自己 : 政治システムの構成員として自分自身をどう捉えているか。自己の権利や影響力や義務についての知識はどのようなものか。参加者としての自分に関して、どのような感情を抱き、いかなる評価を下すのか。

(出所) G. アーモンド他著, 石川一雄他訳『現代市民の政治文化』勁草書房, 1974年を参照。

五カ国における政治的態度と民主主義
 「イギリスおよびアメリカにおいては、**安定的な民主主義を支えている政治的態度のパターンを示すことができる**」
 「ドイツ、イタリア、メキシコでは必ずしもそうではない」
「参加政治システムの民主的形態には、制度以上に、それに見合った政治文化が必要」
 (批判)
 ・民主主義の先進的な国を想定。
 ・合理主義＝能動型の政治行動モデルを想定
 (本書の結論において、**能動性と受動性のサイクルの必要性を**アーモンドも指摘している)

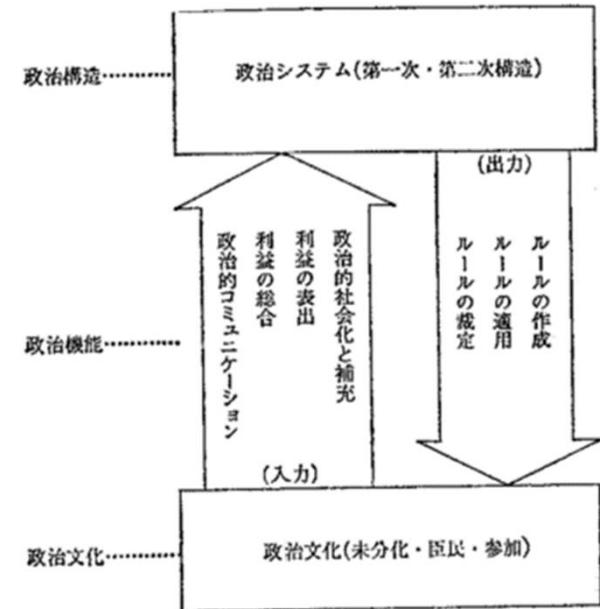
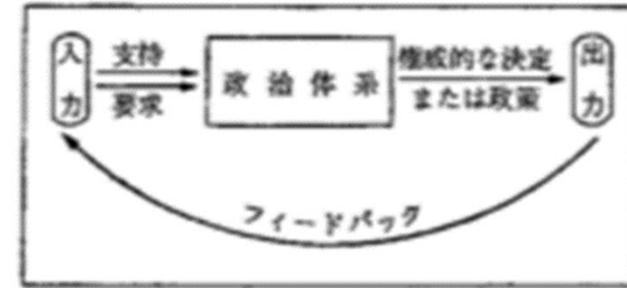


図 2-1 アーモンドの前期の整理図

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第五回授業 「アンケート調査データの分析方法」

(ポイント)

- (1) 2019年京都市民の政治意識調査の概要
- (2) 質問票から変数の作成(変数の変換: 値の再割り当て、欠損値の処理、変数の計算)
- (3) 二重クロス表分析、三重クロス表分析

(データマトリックスの例)

分析のための調査結果のデータは、エクセルの行が被質問者(サンプル)で列が変数(質問文から作成)の縦×横のデータマトリックスになっている

サンプル	Q1.1_7	Q1.1_9	F1: 性別
1	1	0	2
2	0	0	2
3	1	0	2
4	0	0	2
5	0	0	1
6	0	0	2
7	0	0	1
8	0	0	2
9	0	0	2
10	0	0	2
11	0	1	1
12	0	0	1
13	0	0	1
14	0	1	2
15	1	1	1
16	0	0	1

(参考) 仮説、検証、モデル

(仮説: 検証の対象) 例えば AがBに影響する

(分析モデル: パス・ダイアグラム) B by A by C

独立変数(原因変数 A) → 従属変数(結果変数 B)

↑

媒介変数(コントロール変数 C) : 上記の関係を左右するもの

(検証:) Q1.1.9 By Q1.1.7 By F1

二重クロス表分析 Q1.1.7 By F1 Q1.1.9 By F1

三重クロス表分析 Q1.1.9 By Q1.1.7 By F1

(データ分析)
・分析ソフトSPSS
を利用
・エクセルのピ
ボットテーブルな
どを利用

(ディスカッション)
どの変数の分析モ
デルに興味がある
か?

(1)2019年京都市民の政治意識調査の概要

この調査報告書は、平成31年4月7日執行の京都市議会議員選挙における、京都市民の政治意識及び投票行動の分析をまとめたものである。京都市明るい選挙推進協議会の小委員会「京都市民の政治意識研究部会」は、京都市選挙管理委員会からの委託を受けて、選挙終了直後に調査を実施し、その分析を行った。

昭和44年以来、私たち研究部会は各種レベルでの選挙調査を続けてきた。市議会議員選挙調査もこれまで11回行っており、京都市民の投票行動の変化と連続性を示すデータが蓄積されている。今回の調査においても、これまでの調査で用いた質問項目をできるだけ継続し、京都市民の投票行動の資料が充実することを心掛けた。もちろんそれだけでなく、各回の選挙ごとにおける政策や争点への意識についても注目した。

この報告書で分析した京都市民の政治意識や投票行動は、他都市の有権者の意識や行動を考える上でも役立つと思われる。できるだけ多くの方々に、今後の啓発活動の基礎資料として活用していただければ幸いである。巻末に調査の集計表を掲載しているが、そのデータは豊富な調査結果の一部に過ぎない。今後さらに、これまでの調査データの蓄積を生かした多角的な検討を行うつもりである。この調査及びデータの詳細については、本研究部会へ問い合わせいただきたい。

I 選挙の概要

今回の京都市議会議員選挙は、全国統一地方選挙の一部として、平成31年4月7日(日)に実施された。市議会議員の定数は67人、立候補者数は93人で、倍率は1.4倍である。立候補者の党派別内訳を、各区ごとに表1に示した。

有権者数は、1,153,801人、投票者数は439,187人で、投票率は38.06パーセントであった。前回の投票率より2.89ポイント下落している。各区別の投票者数と投票率は表2のとおりである。

なお、今回の選挙でも、前回同様、無投票となった区はなかった。一方、同日に執行された府議会議員選挙においては、上京区、左京区、中京区、下京区、南区の5区が無投票となった。

選挙の結果67人の議員が当選した。当選者の党派別内訳を、各区ごとに表3に示した。

表1 立候補者の党派別内訳

選挙区	定数	自民党	共産党	公明党	京都党	国民民主党	立憲民主党	日本維新の会	幸福実現党	日本第一党	無所属	立候補者合計
北区	6	2	2	1			1	1			1	8
上京区	4	2	1		1	1						5
左京区	8	3	3	1	1	2	1	1		1	2	15
中京区	5	2	2	1	1		1	1				8
東山区	2	1				1					1	3
山科区	6	2	2	1		1			1			7
下京区	4	1	1	1	1		1				1	6
南区	5	2	2	1	1		1	1				8
右京区	9	3	3	1	1	1	1	1				11
西京区	6	2	2	1	1	1			1		1	9
伏見区	12	4	3	3		1	1	1				13
合計	67	24	21	11	7	8	7	6	2	1	6	93

表2 各区別の投票者数と投票率

選挙区	当日有権者数(人)			投票者数(人)			投票率(%)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北区	42,082	49,050	91,132	17,002	19,321	36,323	40.40	39.39	39.86
上京区	28,075	34,699	62,774	11,209	13,002	24,211	39.93	37.47	38.57
左京区	57,489	66,632	124,121	25,674	29,003	54,677	44.66	43.53	44.05
中京区	39,064	48,311	87,375	15,125	17,903	33,028	38.72	37.06	37.80
東山区	13,151	16,700	29,851	5,071	6,179	11,250	38.56	37.00	37.69
山科区	50,866	57,726	108,592	19,825	22,994	42,819	38.97	39.83	39.43
下京区	28,852	34,893	63,745	10,591	12,254	22,845	36.71	35.12	35.84
南区	39,020	40,350	79,370	12,766	13,642	26,408	32.72	33.81	33.27
右京区	75,429	85,876	161,305	29,251	32,941	62,192	38.78	38.36	38.56
西京区	57,674	64,632	122,306	22,256	24,003	46,259	38.59	37.14	37.82
伏見区	106,049	117,181	223,230	37,233	41,942	79,175	35.11	35.79	35.47
合計	537,751	616,050	1,153,801	206,003	233,184	439,187	38.31	37.85	38.06

表3 当選者の党派別内訳

選挙区	定数	自民党	共産党	公明党	地域政党 京都党	国民民主党	日本維新の会	立憲民主党	幸福実現党	日本第一党	無所属
北区	6	1	2	1				1			
上京区	4	2	1		1						
左京区	8	2	3	1	1			1			
中京区	5	2	1	1	1						
東山区	2	1				1					
山科区	6	2	2	1		1					
下京区	4	1	1		1						1
南区	5	2	2	1							
右京区	9	3	2	1	1			1		1	
西京区	6	2	1	1		1					1
伏見区	12	3	3	3		1	1	1			
合計	67	21	18	10	5	4	4	3	0	0	2

II 調査の方法

1 調査対象の抽出

(1) 母集団

京都市在住の有権者1,173,322名
(平成31年3月28日現在の選挙人名簿による。)

(2) 標本抽出法

標本数を1,000として無作為二段抽出法による抽出を行った。まず、京都市全域から40地点(町)を無作為に抽出し、抽出された地点の有権者名簿から、それぞれ25名を無作為に抽出し、合計1,000の標本を得た。

2 調査方法

(1) 調査主体

京都市明るい選挙推進協議会の小委員会「京都市民の政治意識研究部会」が調査主体であるが、調査の実査部分については株式会社サーベイリサーチセンターに委託した。

(2) 調査方法

調査対象者に依頼状、調査票及び返送用封筒を郵送し、締切日までに記入済みの調査票の返送のみられなかった対象者へ調査員が訪問して回収、または訪問時に不在の場合は郵便受けに改めて調査票を投函し返送の依頼を行う方法をとった。

用いた調査票の見本を巻末に添付する。

(3) 調査期間

依頼状、調査票及び返送用封筒を令和元年5月24日(金)に発送し、6月10日(月)を返送期限として回収を行った。そのうえで、返送のみられなかった対象者に対し、調査員が6月18日(火)から7月20日(土)までの間に訪問し、回収を行った。また、訪問では会えない対象者には調査票等を投函し返送を依頼した。

(4) 有効回収数

有効回収数は602名で、回収率は60.2パーセントであった。また、調査不能は398名であり、その理由と内訳は表4のとおりである。

(5) 標本構成

以上の方法で行った調査の標本構成を表5に示した。

表4 調査不能の内訳

理由	人数	全標本 (%)	不能数 (%)
拒否	50	5	12.5
転居	13	1.3	3.2
住所不明	58	5.8	14.6
その他	7	0.7	1.7
未返送	270	27	67.8

※ 拒否は調査票の返送・回収について明確な拒否の意思を示した者の数である。

※ 住所不明のうち5件は部屋番号不明、53件は表札無し・所在地不明確。

※ その他のうち2件は対象者死亡、5件は長期出張中・単身赴任中。

※ 未返送は返送期日までに調査票の返送がなく、その後の訪問時に不在であったため、ポスト投函等により再度調査票の返送を依頼したものの返送がなかった者の数である。

表5 京都市の人口と標本数

性別	年代	人口		抽出		回収	
		数(人)	比率(%)	数(人)	比率(%)	数(人)	比率(%)
男性	18～19歳	14,132	1.17%	7	0.7	4	0.7
	20歳代	78,916	6.51%	67	6.7	25	4.2
	30歳代	80,437	6.63%	71	7.1	25	4.2
	40歳代	103,583	8.54%	93	9.3	32	5.3
	50歳代	87,242	7.19%	80	8.0	37	6.1
	60歳代	79,758	6.58%	92	9.2	54	9.0
	70歳代以上	122,756	10.12%	94	9.4	76	12.6
	年齢無回答					2	0.3
	男性計	566,824	46.75%	504	50.4	255	42.4
女性	18～19歳	13,664	1.13%	8	0.8	3	0.5
	20歳代	81,213	6.70%	46	4.6	23	3.8
	30歳代	84,019	6.93%	70	7.0	39	6.5
	40歳代	107,992	8.91%	106	10.6	56	9.3
	50歳代	92,098	7.60%	74	7.4	48	8.0
	60歳代	87,571	7.22%	64	6.4	45	7.5
	70歳代以上	179,174	14.78%	128	12.8	84	14.0
	年齢無回答					15	2.5
	女性計	645,731	53.25%	496	49.6	313	52.0
その他	30歳代					1	0.2
	その他計					1	0.2
無回答	70歳代以上					1	0.2
	年齢無回答					32	5.3
	無回答計					33	5.5
合計	1,212,555	100.0	1,000	100.0	602	100.0	

※ 人口は平成31年4月現在の住民基本台帳登録者数

III 調査結果

はじめに

人々が政治や行政に関わる選挙は、政治参加の最も一般的な手段である。近年は投票率が低下し、特に、政治や行政に高齢者の意見がより反映されるとの指摘があるなど若い世代の低投票率が問題視される。身近な市議会議員選挙は、市長選挙とともに市民が政治行政に関与する民主主義の基礎をなす。平成31年の京都市議会議員一般選挙(平成31年4月7日執行)では、選挙後に京都市民の意識調査が実施された。昭和44年以来、京都市の各種の選挙において調査がなされており、特に市議会議員選挙の時の調査では今日まで継続している質問も多く、今回の調査はその中の一つと位置づけられる。この報告書は、今後の選挙啓発の基礎資料となるように、選挙にまつわる京都市民の政治行政への意識と行動の調査結果の概略を示す。この調査では、報告書の末尾のV調査票にあるように市民の意識についての30質問と回答者の属性に関する8質問がなされている。そこには多くの複数回答形式の質問が含まれており、質問項目の一つ一つが回答となるので、問題数以上に多くの資料が得られる。それらすべての調査結果を説明する紙面の余裕もないので、ここで取り上げた主な質問はこの報告書での説明順に、問8、問26、問9、問10、問11、問6、問16、問21、問14、問5、問23、問24、問3、問4、問22、問25、問27、問1、問28、問29である。調査での質問項目への回答の分布は、分量が多くて省略した問28のクロス集計表以外のすべてを後のIV集計表に掲げている。

この調査結果では、投票率の低下への対応策の資料となる分析結果に注目した。そこでは、4年前の前回調査で得られた知見【「京都市民の投票行動—京都市議会議員一般選挙(平成27年4月12日執行)を素材として—」,京都市選挙管理委員会,平成28年3月発行】をさらに深めることを意図した。例えば、地方行政への関与の気持ちから投票を促す可能性についての前回の知見が、今回の調査でどのように変化したかなどに言及した。報告書は一般の読者を想定しているため、統計はあまり使わずグラフで示すように心がけ、詳細はIV集計表からわかると思ったが、前回と今回との比較のための参考として相関係数のタウ係数(名義尺度にクラマーV係数もあるが特に明記しないかぎりタウbもしくはタウc)を用いた。相関係数は二つのことの相互関係の強さを示し、このような意識調査の分析では、係数値は0.05から0.30ぐらい(今回の分析では相関係数は有意確率 $P<0.03$ の信頼度の高いもののみ記載)の値をとる。明確な基準はないが、0.10前後でそれなりの関係があり、0.20でかなり関係があり、0.30になると強い関係があると見なせるだろう。例えば、政治的な事柄について関与の気持ちが強い人ほど投票に参加するという関係が、前回調査での相関係数が0.146だったのが今回調査では0.207と強くなった。

豊かな知見の得られる調査データだが、紙面の関係で詳細を述べなかつたものも多く、この調査結果と末尾にある質問票から、さらに多くのどのような知見が得られるかを、IV集計表の回答結果を参考にして考えていただきたい。

2019年報告書「京都市民の投票行動」の所在
< 京都府関係 >

- ・京都府議会事務局図書館 1冊
- ・京都府立京都学・歴彩館 1冊
- ・京都府立図書館 1冊

< 京都市関係 >

- ・情報公開コーナー 2冊
- ・市立図書館（市内20箇所） 各1冊
- ・ひとまち交流館（図書コーナー） 1冊
- ・ウイングス京都 1冊

日本の選挙意識調査 レヴァイアサン・データバンク
木鐸社内 (有)エル・デー・ビー

1. 日本人の政治意識と行動(JABISS)調査 CD-ROM 有 30000円
2. 日本人の選挙行動(JES I)調査 CD-ROM 有 30000円
3. 明推協衆議院選挙後調査(1972,76, 79, 83, 90, 93)
19. 日本人の選挙行動時系列データJABISS・JES・JES II 50000円
20. 明推協衆議院議員総選挙時系列データ1972-2000 50000円

ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research)

社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集、保存し、学術目的での二次分析のために提供するサービス。

Study Title/Investigator Released/Updated

1. American National Election Study: 2016 Pilot Study (ICPSR 36390)

American National Election Studies; Stanford University; University of Michigan 2016-03-16

2. American National Election Study, 2004: Panel Study (ICPSR 4293) University of Michigan.

Center for Political Studies. American National Election Study 2006-08-08

(2) 質問票から変数の作成(変数の変換: 値の再割り当て、欠損値の処理、変数の計算)

問8 あなたは、4月7日実施の市会議員選挙では投票されましたか。(〇印は1つ)



付問1 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。)
 このたびの市会議員選挙では、政党を重くみて投票されましたか。それとも候補者を重くみて投票されましたか。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(〇印は1つ)

1 政党を重くみて	3 いちがいにいえない
2 候補者を重くみて	4 わからない

付問2 (問8で「当日投票した」、「期日前投票をした」、「不在者投票をした」人だけお答えください。)
 市会議員選挙で、あなたが投票された人は何党の人でしたか。さしつかえなければ、お教えください。(同封の「候補者氏名一覧表」を参考にしてください。)(〇印は1つ)

1 京都党	5 自由民主党	9 立憲民主党
2 幸福実現党	6 日本維新の会	10 無所属
3 公明党	7 日本共産党	113 忘れた・覚えていない
4 国民民主党	8 日本第一党	

問8 市会議員選挙の投票状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	当日投票した	228	37.9	41.2	41.2
	期日前投票をした	100	16.6	18.1	59.3
	不在者投票をした	4	.7	.7	60.0
	白票を投票した	5	.8	.9	60.9
	投票しなかった	203	33.7	36.7	97.6
	忘れた・覚えていない	13	2.2	2.4	100.0
合計		553	91.9	100.0	
欠損値	無回答	49	8.1		
合計		602	100.0		

投票参加変換済

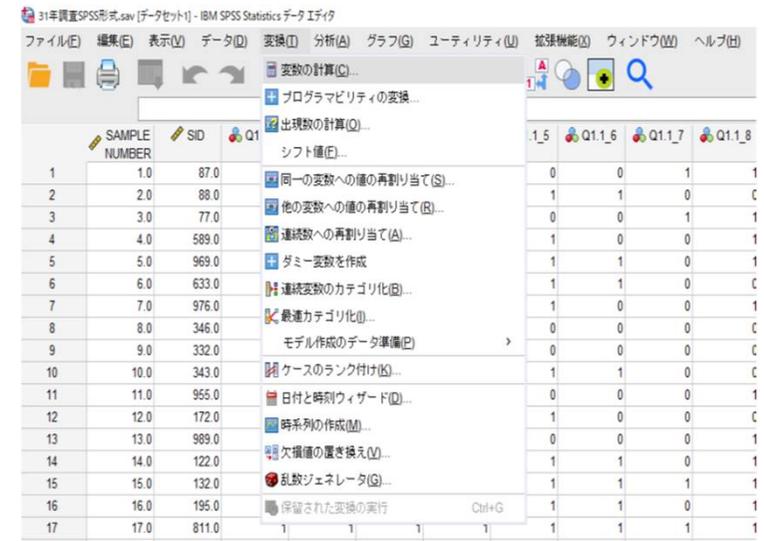
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	その他	265	44.0	44.0	44.0
	投票者	337	56.0	56.0	100.0
合計		602	100.0	100.0	

(ディスカッション)

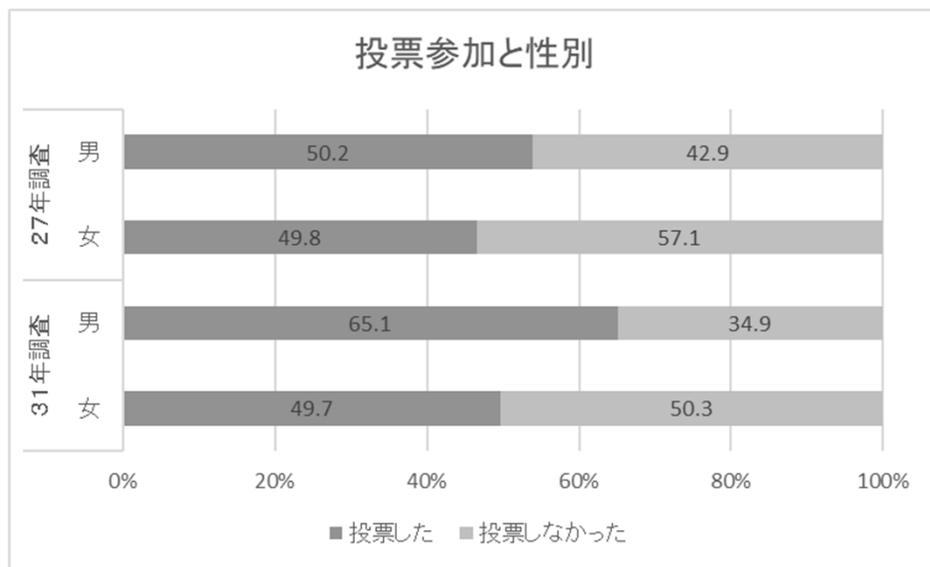
投票した者とそうでない者をどのように分ければよいのか?

SAMPLENUM	Q8	Q8.1	Q8.2	F1	F2
1.0	5	#NULL!	#NULL!		2 43.0
2.0	5	#NULL!	#NULL!		2 44.0
3.0	2	1		5	2 38.0
4.0	1	4		11	2 37.0
5.0	2	1		5	1 74.0
6.0	5	#NULL!	#NULL!		2 40.0
7.0	5	#NULL!	#NULL!		1 74.0

(SPSSによる変数の変換: 値の再割り当て)



(3) 二重クロス表、三重クロス表分析



		問8	
		投票した	投票しなかつた
31年調査	女	49.7	50.3
	男	65.1	34.9
27年調査	女	49.8	57.1
	男	50.2	42.9

処理したケースの要約

	有効数		ケース欠損		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
rq * rf1	568	94.4%	34	5.6%	602	100.0%

投票参加変換済と性別欠損処理済のクロス表

		性別欠損処理済		合計	
		男性	女性		
投票参加変換済	その他	度数	89	157	246
		性別欠損処理済の%	34.9%	50.2%	43.3%
	投票者	度数	166	156	322
		性別欠損処理済の%	65.1%	49.8%	56.7%
合計		度数	255	313	568
		性別欠損処理済の%	100.0%	100.0%	100.0%

対称性による類似度

		値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
順序と順序	Kendallのタウ b	-0.153	.041	-3.710	.000
有効なケースの数		568			

- a. 帰無仮説を仮定しません。
- b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

		F1 性別			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	255	42.4	44.8	44.8
	女性	313	52.0	55.0	99.8
	その他	1	.2	.2	100.0
合計		569	94.5	100.0	
欠損値	無回答	33	5.5		
合計		602	100.0		

(数値誤差の原因: その他の処理)

二重クロス表分析

仮説の検証
(エクセルのピボットテーブル
で可能)

- 左の項目（行）と上の項目（列）と関係があるかどうかを分析することができる分析方法
(列が独立変数、行が従属変数の仮説の検証)

上：地域活性化施策を重視する

左：①文化施策を重視する

	地域活性化施策を重視しない	地域活性化施策を重視する	計
文化施策を重視しない	378	74	452
文化施策を重視する	56	94	150
計	434	168	602

- 地域活性化施策を重視しない人ほど文化施策を重視しないという関係がある。

地域活性化を重視しない×文化を重視しない人
→最も多い

- 地域活性化施策を重視する人ほど文化施策を重視する

地域活性化施策を重視×文化施策を重視
→2番目に多い

投票参加で重視する施策と社会活動参与の二重クロス表
(頻度の分布)

二重クロス表－仮説の検証（横％とパーセント差）

仮説：地域文化施策を重視するか否かが文化施策を重視するか否かに影響する。

② 横で %を 算出 する	①クロス表の作成	地域活性化施策を重視しない	地域活性化施策を重視する	計
	文化施策を重視しない	378 (70%)	74 (30%)	452 (100%)
	文化施策を重視する	56 (37%)	94 (63%)	150 (100%)
	計	434	168	602

③縦で比較し、%差を算出する。例：%差：30%-63%=33%

④解釈：33%の差で地域活性化政策を重視する人ほど文化政策を重視する。33%の差で地域活性化施策を重視しない人ほど文化施策を重視しない。
→地域活性化施策を重視するかどうかは文化施策を重視するかどうかに影響する。
→仮説が正しいといえる。

期待値と相対的ズレの計算方法(例：2×2の二重クロス表)

- 期待値：左側の項目（従属変数）と上側の項目（独立変数）とで相関関係がない時の数値
- 相対的ズレ：各セルでの期待値と観測度数のズレにどの程度の凸凹（差÷期待値×100）があるかがわかる
- ズレの総和（各セルの二乗の合計のルート）が相関関係の強さを示す
- 相関係数**はそのような相関の統計的な計算数値（尺度によって異なる係数）で、確率的な信頼度が有意水準

	社会活動なし	社会活動あり	総計
投票してない	度数：61 横%：24% ②期待値：265×0.17= 45 ③相対的ズレ： (61-45)÷45*100= 35%	度数：204 横%：76% ②期待値：265×0.83= 220 ③相対的ズレ： (204-220)÷220*100= -2%	265 ①44%
投票した	度数：44 横%：13% ②期待値：337×0.17= 57 ③相対的ズレ： (44-57)/57*100= -23%	度数：293 横%：87% ②期待値：337×0.83= 280 ③相対的ズレ： (293-280)/280*100= 5%	337 ①56%
総計	105 ①17%	497 ①83%	602

代表的な相関係数
 ピアソン r（間隔尺度）
 タウ b、c（順位尺度）
 ラムダ（名義尺度）

（ディスカッション）
 データ解析ソフトSPSSを用いて、どのような変数について相関係数を出してみたいか？

(ディスカッション)

2019年の調査結果の分析から政治関心が投票参加を左右するとの仮説は正しいか？ (代議制民主主義と投票参加)

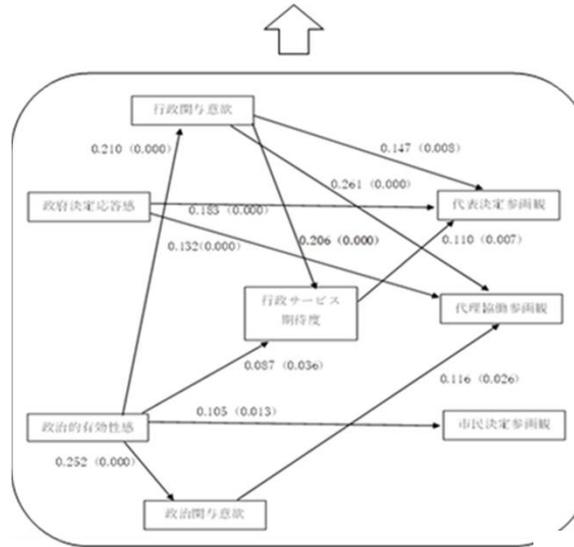
クロス表

			市の政治関心		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	128	209	337
		投票棄権の%	38.0%	62.0%	100.0%
棄権ほか	投票	度数	186	79	265
		投票棄権の%	70.2%	29.8%	100.0%
合計	投票	度数	314	288	602
		投票棄権の%	52.2%	47.8%	100.0%

クロス表

			国の政治関心		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	113	224	337
		投票棄権の%	33.5%	66.5%	100.0%
棄権ほか	投票	度数	150	115	265
		投票棄権の%	56.6%	43.4%	100.0%
合計	投票	度数	263	339	602
		投票棄権の%	43.7%	56.3%	100.0%

投票参加 (投票するか否か)



代表選挙観
(問22項目2)
国の議会および地方の議会は「われわれの代わりに政策を決定する」

(ディスカッション)

2019年の調査結果の分析から政治関心が代表選挙観と結びついて投票参加につながる可能性はあるのか？

デモグラフィック (性別、年齢層)

対称性による類似度

問14 政治への関心の有無/ウ。国の政治について	値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率	
非常に関心がある	順序と順序 Kendallのタウ b	-.189	.107	-1.745	.081
	有効なケースの数	77			
関心がある	順序と順序 Kendallのタウ b	.140	.064	2.172	.030
	有効なケースの数	217			
どちらともいえない	順序と順序 Kendallのタウ b	-.053	.089	-.593	.553
	有効なケースの数	110			
関心がない	順序と順序 Kendallのタウ b	-.071	.209	-.340	.734
	有効なケースの数	20			
まったく関心がない	順序と順序 Kendallのタウ b	.201	.261	.769	.442
	有効なケースの数	13			
わからない	順序と順序 Kendallのタウ b	-.493	.250	-1.974	.048
	有効なケースの数	12			
合計	順序と順序 Kendallのタウ b	.040	.045	.896	.370
	有効なケースの数	449			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

三重クロス表分析(統計解析ソフトSPSS)

(パスダイアグラム) 分析モデル: 独立変数、従属変数、コントロール変数



(分析結果)
コントロール変数の影響なし

(分析結果)
コントロール変数の影響あり

議会の代理決定

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なし	130	21.6	28.6	28.6
	少しはある	135	22.4	29.7	58.2
	ある	190	31.6	41.8	100.0
	合計	455	75.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	147	24.4		
合計		602	100.0		

2分議会代理決定

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	比較なしその他	277	46.0	46.0	46.0
	比較的あり	325	54.0	54.0	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

問22項目2のアとイの合成尺度(SPSS出現数の計算)

上記合成尺度の「なし」と「欠損値」を0に、「少し」と「ある」を1に変換(SPSS値の再割り当て)

行政サービス期待度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	.00	26	4.3	4.3	4.3
	1.00	39	6.5	6.5	10.8
	2.00	54	9.0	9.0	19.8
	3.00	101	16.8	16.8	36.5
	4.00	122	20.3	20.3	56.8
	5.00	71	11.8	11.8	68.6
	6.00	50	8.3	8.3	76.9
	7.00	36	6.0	6.0	82.9
	8.00	25	4.2	4.2	87.0
	9.00	12	2.0	2.0	89.0
	10.00	15	2.5	2.5	91.5
	11.00	7	1.2	1.2	92.7
	12.00	44	7.3	7.3	100.0
合計	602	100.0	100.0		

2分行政サービス期待度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	比較なし	342	56.8	56.8	56.8
	比較的あり	260	43.2	43.2	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

3分行政サービス期待度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小なし	119	19.8	19.8	19.8
	中	294	48.8	48.8	68.6
	大	189	31.4	31.4	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

議会の代理決定 → 投票参加

↑
行政サービス期待度(2分割)

対称性による類似度

2分行政サービス期待度			値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
比較的なし	順序と順序	Kendallのタウ b	.147	.053	2.740	.006
	有効なケースの数		342			
比較的あり	順序と順序	Kendallのタウ b	.150	.063	2.390	.017
	有効なケースの数		260			
合計	順序と順序	Kendallのタウ b	.168	.040	4.175	.000
	有効なケースの数		602			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

(知見)

行政サービス期待度(2分割)によって変わることなく、議会の代理決定の認識が投票参加に影響する。

投票参加変換済と2分議会代理決定と2分行政サービス期待度のクロス表

2分行政サービス期待度			2分議会代理決定		合計	
			比較なしその他	比較的あり		
比較的なし	投票参加変換済	その他	度数	104	67	171
			投票参加変換済の%	60.8%	39.2%	100.0%
	投票者	その他	度数	79	92	171
			投票参加変換済の%	46.2%	53.8%	100.0%
	合計	その他	度数	183	159	342
			投票参加変換済の%	53.5%	46.5%	100.0%
比較的あり	投票参加変換済	その他	度数	43	51	94
			投票参加変換済の%	45.7%	54.3%	100.0%
	投票者	その他	度数	51	115	166
			投票参加変換済の%	30.7%	69.3%	100.0%
	合計	その他	度数	94	166	260
			投票参加変換済の%	36.2%	63.8%	100.0%
合計	投票参加変換済	その他	度数	147	118	265
			投票参加変換済の%	55.5%	44.5%	100.0%
	投票者	その他	度数	130	207	337
			投票参加変換済の%	38.6%	61.4%	100.0%
	合計	その他	度数	277	325	602
			投票参加変換済の%	46.0%	54.0%	100.0%

議会の代理決定 → 投票参加

↑
行政サービス期待度(3分割)

対称性による類似度

3分行政サービス期待度			値	漸近標準誤差 ^a	近似 t 値 ^b	近似有意確率
小なし	順序と順序	Kendall のタウ b	.119	.092	1.300	.193
	有効なケースの数		119			
中	順序と順序	Kendall のタウ b	.160	.058	2.771	.006
	有効なケースの数		294			
大	順序と順序	Kendall のタウ b	.120	.074	1.609	.108
	有効なケースの数		189			
合計	順序と順序	Kendall のタウ b	.168	.040	4.175	.000
	有効なケースの数		602			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

(知見)

行政サービス期待度(3分割)が中程度の人においてだけ、議会の代理決定の認識が投票参加に影響する。

(ディスカッション)

3分割の中程度の行政サービス期待者で、他と異なり、議会の代理決定意識が投票参加への影響が確認できるのはなぜだろうか？

投票参加変換済と2分議会代理決定と3分行政サービス期待度のクロス表

3分行政サービス期待度			2分議会代理決定			
			比較なしその他	比較的あり	合計	
小なし	投票参加変換済	その他	度数	45	21	66
			投票参加変換済の%	68.2%	31.8%	100.0%
	投票者	その他	度数	30	23	53
			投票参加変換済の%	56.6%	43.4%	100.0%
	合計	その他	度数	75	44	119
			投票参加変換済の%	63.0%	37.0%	100.0%
中	投票参加変換済	その他	度数	76	62	138
			投票参加変換済の%	55.1%	44.9%	100.0%
	投票者	その他	度数	61	95	156
			投票参加変換済の%	39.1%	60.9%	100.0%
	合計	その他	度数	137	157	294
			投票参加変換済の%	46.6%	53.4%	100.0%
大	投票参加変換済	その他	度数	26	35	61
			投票参加変換済の%	42.6%	57.4%	100.0%
	投票者	その他	度数	39	89	128
			投票参加変換済の%	30.5%	69.5%	100.0%
	合計	その他	度数	65	124	189
			投票参加変換済の%	34.4%	65.6%	100.0%
合計	投票参加変換済	その他	度数	147	118	265
			投票参加変換済の%	55.5%	44.5%	100.0%
	投票者	その他	度数	130	207	337
			投票参加変換済の%	38.6%	61.4%	100.0%
	合計	その他	度数	277	325	602
			投票参加変換済の%	46.0%	54.0%	100.0%

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第六回授業 「選挙広報と投票」 & 「政党重視と候補者重視」

2019年選挙調査報告書「」の「2 選挙広報と選挙への見方(1)選挙時の投票参加の呼びかけ図6、(2)選挙への投票義務感と選挙の機能についての見方図8」を熟読すること。加えて、「1 選挙での投票(1)投票参加と投票方向の図3、(2)投票に行きだれに投票するかを決めるのに役立つもの図4と図5)を熟読すること。

(ポイント)

(1) 図6の投票参加の呼びかけ(広報)と投票参加、図4の接した情報で投票に役立ったもの

- ・選挙時啓発として市民の印象に残った広報と役立った情報

(2) 図5の役立った話し合い

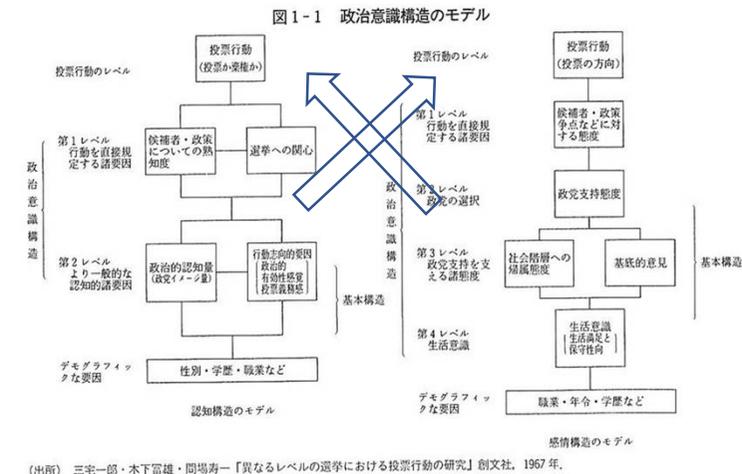
- ・常時啓発にも関係する選挙の話題

(3) 図3の投票参加での政党重視と候補者重視

- ・投票参加と投票方向の交差(青色矢印:意欲?)

(4) 選挙の意義と機能、争点の意識を加えたモデル

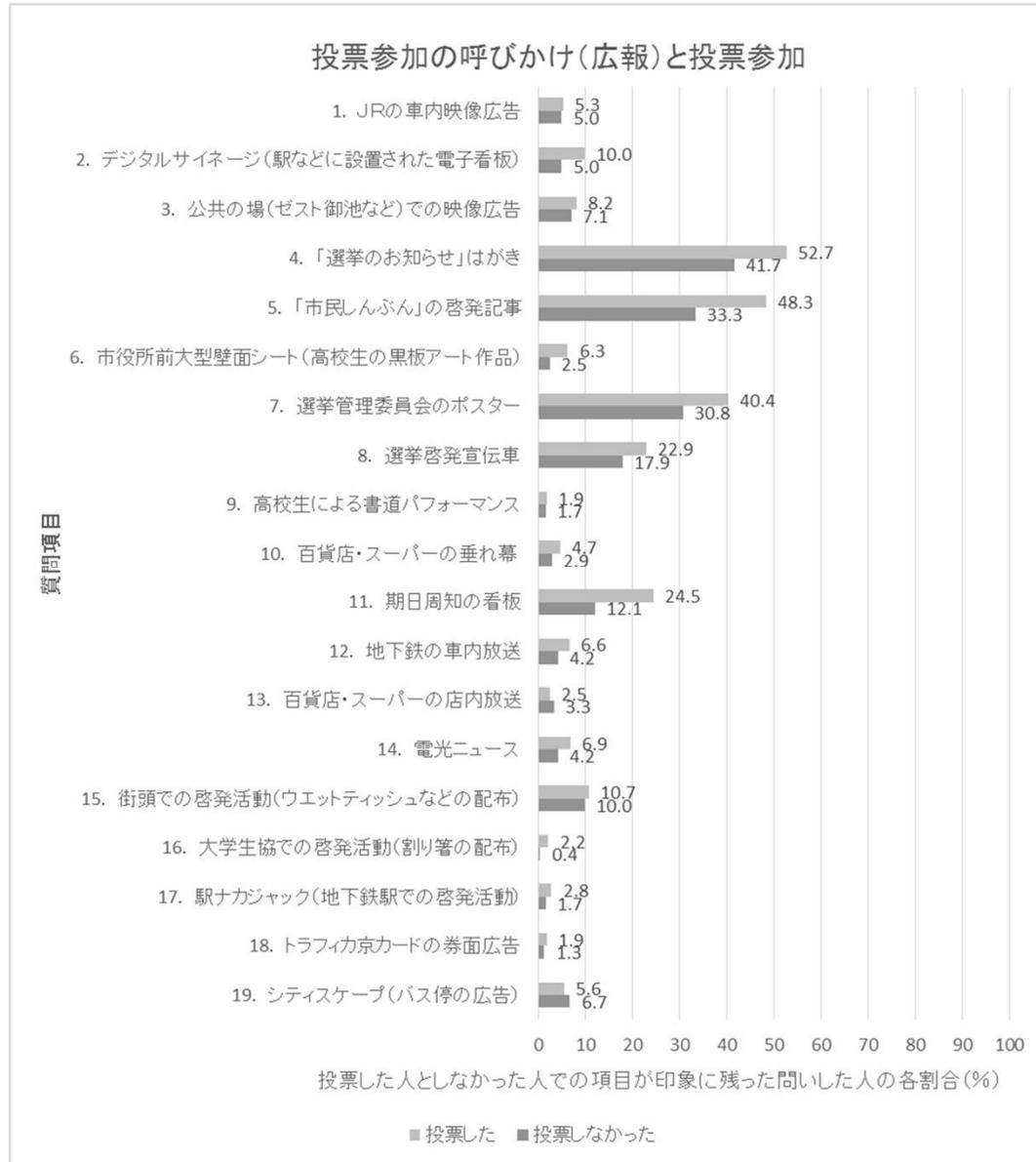
(ディスカッション) 認知と感情に分ける政治意識構造は選挙参加意識の市民力の考察に重要か?



The American Voter ミシガンPIDモデル(社会化)
Angus Campbell, Philip E. Converse, Warren E. Miller,
and Donald E. Stokes The University of Chicago Press, 1960

Here is the classic theoretical study of voting behavior, originally published in 1960. It is a standard reference in the field of electoral research, presenting formulations of the theoretical issues that have been the focus of scholarly publication. No single study matches the study of *The American Voter*.

図6 選挙広報の印象に残ったものと投票参加



一般的には投票に行く人に印象に残る呼びかけがあると予想されるが、比較的に印象に残っている人が多い呼びかけの中で、投票した人と投票しなかったとの間で印象の残り方が異なるのが興味を引く。27年調査では、「選挙のお知らせはがき」、「市民しんぶんの啓発記事」、「期日周知の看板」では投票した人の方がより印象に残っており、「選挙管理委員会のポスター」、「選挙啓発宣伝車」では多少ではあるが投票しなかった人の方に印象が見られたが、これに対して、今回の31年調査での印象に残った投票参加との関係は、「選挙のお知らせはがき」0.109、「市民しんぶんの啓発記事」0.150、「期日周知の看板」0.156、「選挙管理委員会のポスター」0.099でそれぞれの広報が印象に残ったと答える人ほど投票に行く傾向が確認できる。「選挙啓発宣伝車」についてはそのような関係が統計上は確認できない。数は少ないが今回新たに統計上関係が確認できるものに、「2. デジタルサイネージ(駅などに設置された電子看板)」と「6. 市役所前大型壁面シート(高校生の黒板アート作品)」がある。

図4 投票するかしないか、あるいはだれに投票するか決定に役立った情報

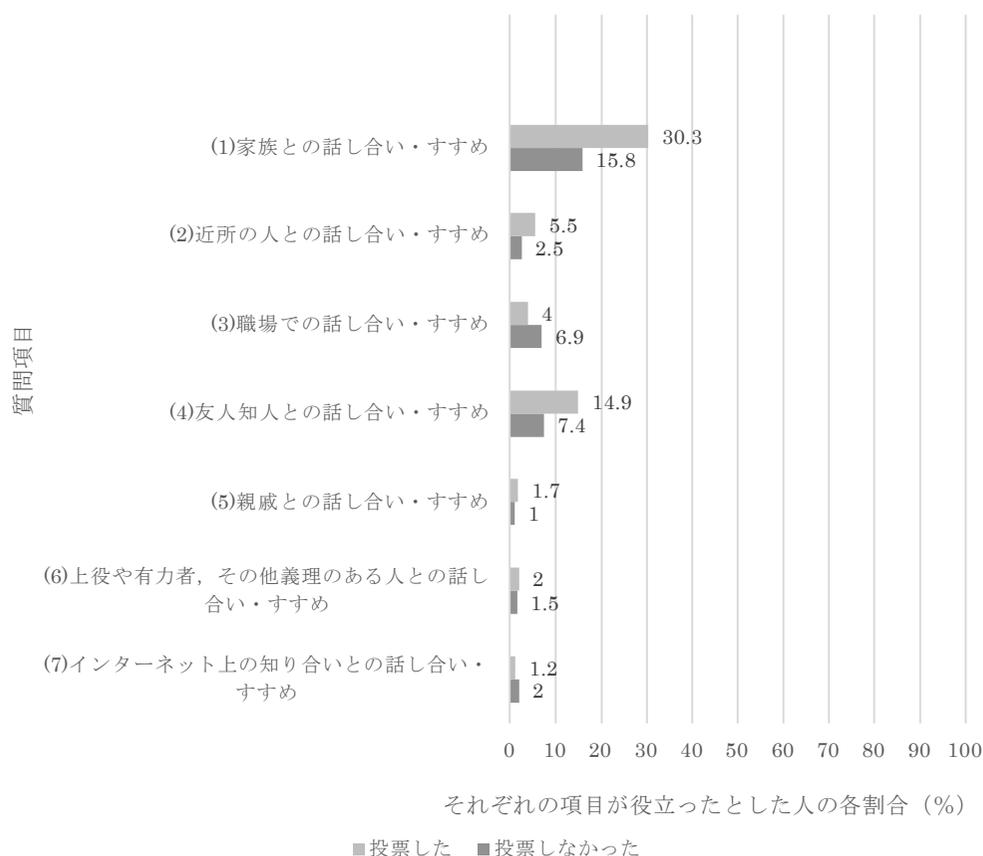


投票するかしないか、あるいはだれに投票するかしないかを決めるのに役立った情報について見ることで、京都市民の選挙での投票への考え方や感じ方や行動の仕方について知ることができる。回答者が役立ったとあげたものは、以下のようなものである。「選挙公報」の19.9% (27年調査21.2%) がもっとも多く、次いで「掲示板に貼った候補者のポスター」が15.9% (27年調査19.5%)、「街頭演説」が12.3% (27年調査16.5%)、「新聞の選挙報道」が12.1% (27年調査14.0%)、「政党のビラ・ポスター」が11.6% (27年調査10.4%)、「候補者の新聞広告」9.8% (27年調査13.1%)、「テレビ・ラジオの選挙報道」が7.8% (27年調査9.8%)、「個人演説会」が7.5% (27年調査10.6%)と続き、31年度の質問で新たに加わった「候補者のビラ」は6.3%である。「選挙公報」が最も役立つ情報と思われるのは同じだが、「政党のビラ・ポスター」での増加以外はいずれも減少しており、図4は、そのような役立つ情報が、有権者の投票参加にどのように結びついているかを示している。例えば、もっとも多くの19.9%の人が役立つとした「選挙公報」では、投票した人の26.6%が役立つと言い投票しなかった人の10.3%が役立つと言っている。そこからは、役立つと考える人ほど投票に行っているのがわかる。

(ディスカッション)これは認知と感情構造の交差か？

図5 投票するかしないか、あるいはだれに投票するかの決定に役立った話し合い・すすめ

役立った話し合い・すすめで投票参加に役立ったもの



先の図4の役立つ情報と投票参加の関係を、統計上確認できる相関係数で見た結果は以下のものであった。役立つと考える人ほど投票に行く傾向があるのは「個人演説会」(0.135)、「候補者の新聞広告」(0.090)、「選挙公報」(0.279)、「候補者のはがき」(0.097)、「政党の新聞広告」(0.098)、「政党のビラ・ポスター」(0.099)、「政党の機関誌」(0.146)、「候補者・政党が開設するホームページ、ブログ、SNS」(0.139)である。さらに、性別と年齢層を一緒にして役立つ情報と投票参加の関係をまとめて検討すると、「個人演説会」では高齢者層の女性(0.175)で、「街頭演説」では若年層の男性(0.335)と壮年層の男性(0.299)で、「選挙公報」では若年層の女性(0.334)と壮年層の男性(0.277)と壮年層の女性(0.356)と高齢者層の女性(0.247)で、「候補者のはがき」では高齢者層の女(0.219)で、「政党のビラ・ポスター」では若年者層の女性(0.334)で、「政党の機関誌」では高齢者層の男性(0.152)で、「候補者・政党が開設するホームページ、ブログ、SNS」では高齢者層の男性(0.116)で関係がある。それらから様々な興味深い特徴がわかる。

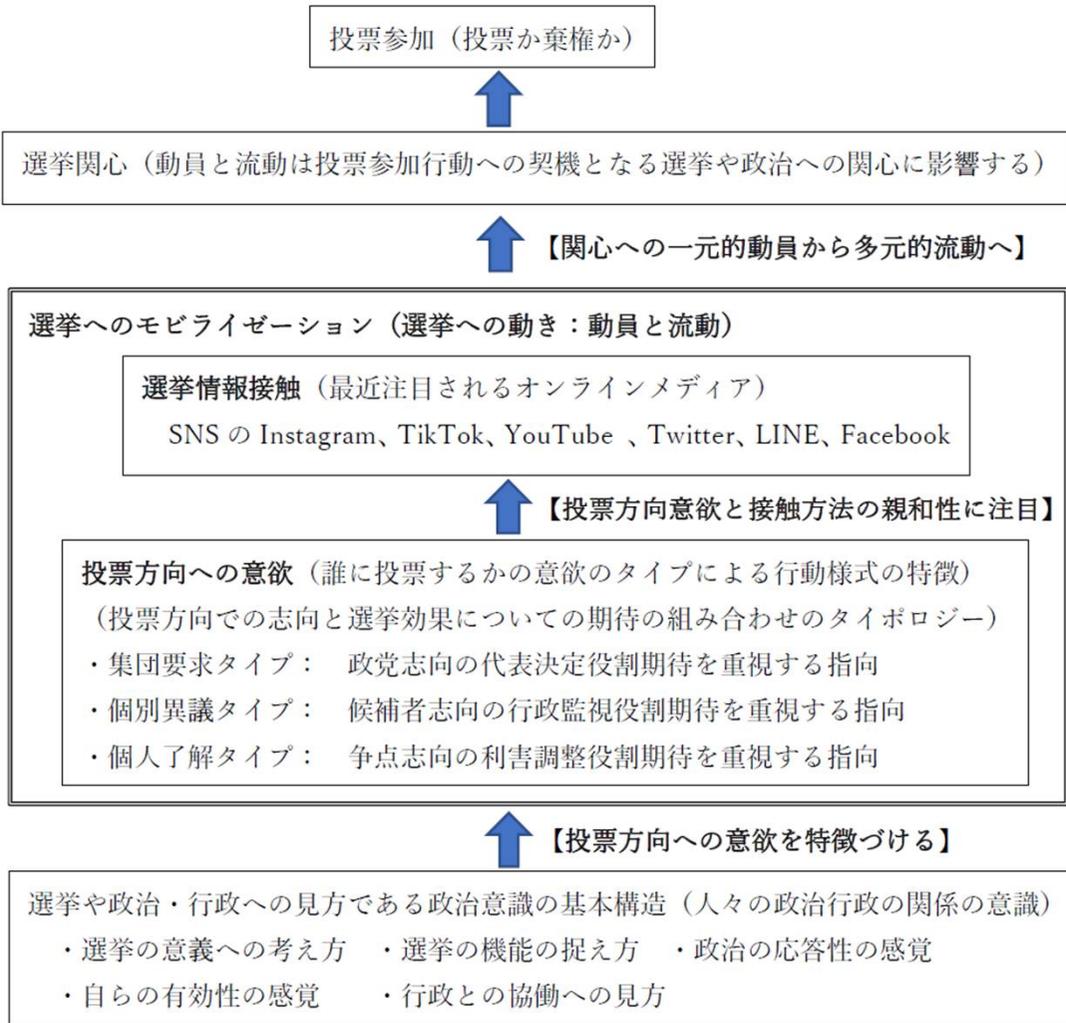
例えば、旧来から議論されてきた「役立つ話し合い」は図5の状況であり、今後に向けて注目される「候補者・政党が開設するホームページ、ブログ、SNS」は今後は役立つとする人の数は少ない。しかし、「候補者・政党が開設するホームページ、ブログ、SNS」では男性(0.127)、女性(0.125)で関係が確認でき、若年者層(0.209)と高齢者層(0.102)で関係が確認でき、それらを合わせて見ると高齢者層の男性(0.116)で関係が特徴としてわかり、これらは今後の選挙情報の提供を考える資料となる。

(ディスカッション) オンラインメディアでの選挙情報接触をどのように検討すればよいか? 参考:以下の4スライド

投票意欲とオンライン情報接触—京都市議会議員選挙での選挙啓発運動の可能性—

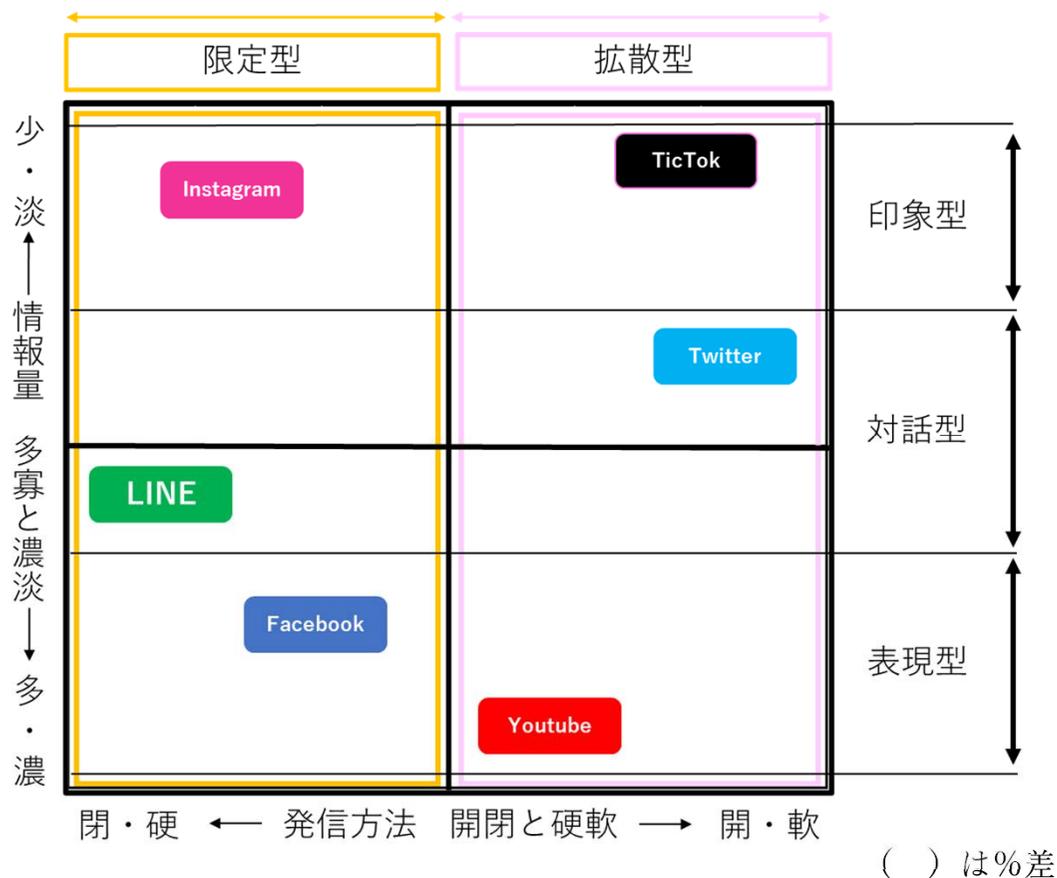
村山皓・市瀬比呂 『政策科学』29巻2号(2022年2月)

投票参加の認知構造に投票意欲を導入する新たな政治意識構造のモデル



投票参加の認知構造モデルに投票方向への意欲と選挙情報接触で構成できる選挙へのモビライゼーションを導入する。その政治意識構造を示したのが図である。

投票方向への意欲は、選挙や政治・行政への見方である政治意識の基本構造に影響される。その意欲は投票参加行動への契機となる選挙への関心に影響する。ここでの基本構造は、人々と政治行政の関係に関わる行動の要因といえる選挙の機能の捉え方、選挙の意義への考え方、政治の応答性感覚および政治的有効性感覚、行政との協働への見方などを想定している。注目する選挙へのモビライゼーションについては、二つの要素で捉えることにした。第一の投票方向への意欲は、投票方向での志向と議員や議会の役割への期待の指向での、集団要求タイプ、個別異議タイプ、個人了解タイプの違いの市民文化に関わる特徴で示した。第二は、選挙情報への接触手段について、ここでは従来からの選挙広報や家族や知人との話し合いよりも、最近注目されるソーシャルメディアのInstagram、TikTok、YouTube、Twitter、LINE、Facebookのオンラインアクセスを取り上げた。そのような選挙へのモビライゼーション (動員、流動) には善し悪しがあると思っており、**感情的動員** (Affective mobilization) よりも **認知的流動** (Cognitive mobilization) がより好ましいと見るなら、**意欲** (Behavioral intension) の動員も視野におき、どのような情報接触の可能性があるかの知見がこの新たなモデルから得られればよい。それによって、感情対立、認知分裂、あるいは投票への意欲自体の亀裂への動員に対する緩和の流動化の方策が検討できる。



(因子分析)

	因子 1	因子 2
個人了解タイプ	0.652	0.173
個別異議タイプ	0.606	0.111
行政との協働への見方	0.582	0
自らの有効性の感覚	0.572	0
選挙の意義への考え方	0.511	0
オンライン選挙情報接触	0.310	0.161
集団要求タイプ	0	0.750
政府の応答性の感覚	0	0.740
選挙機能の捉え方	0.361	0.526

投票方向への意欲のタイプ、選挙情報へのオンライン接触、選挙を通じての人々と政治行政の関係についての基本構造の5種類の意識の主成分因子分析の2因子抽出のバリマックス回転の分析結果である。これらの変数の共通性では、オンライン情報接触にも最も低い0.122ではあるが有意な値が得られた。

相関係数	集団要求タイプ	個別異議タイプ	個人了解タイプ
タイプの特徴	政府応答性 選挙機能	選挙意義 有効性感覚	行政との協働
オンラインアクセス	0.09 (21.1)	0.2 (43.1)	0.176 (42.1)
オフラインアクセス	なし	なし	0.142 (14.3)

ソーシャルメディアの各プラットフォームを利用する選挙啓発運動の可能性

プラットフォーム	特徴の分類	利用の想定対象	情報発信の量と方法	混合型の情報
TikTok	拡散・印象型	個別了解タイプ	少・淡・開・軟型	多様な争点の拡散情報
Instagram	限定・印象型	個別了解タイプ	少・淡・閉・硬型	多様な争点の限定情報
Twitter	拡散・対話型	集団要求タイプ	少・淡・開・軟型	多様な党派の拡散情報
LINE	限定・対話型	集団要求タイプ	多・濃・閉・硬型	多様な党派の限定情報
Facebook	限定・表現型	個別異議タイプ	多・濃・閉・硬型	多様な候補の限定情報
YouTube	拡散・表現型	個別異議タイプ	多・濃・開・軟型	多様な候補の拡散情報

基本疑問：選挙啓発運動（参加・方向）でのSNS（オンラインアクセス）の利用の効果は、人々の政治意識（考え方、感じ方、行動の仕方）によって異なるのではないか（オンラインアクセスでの人々の選挙情報接触の選挙民主主義にとっての利点と危惧）

投票方向への意欲のあり方のタイプ（投票決定要因の志向と選挙効果の期待要因の指向の二次元の組み合わせ）によって、選挙民主主義（選挙を通じての人々と政治行政の関係）への危惧は違ってくる（この仮説の検証からの知見からのSNS利用の指針）。

- ・集団要求タイプの人々では感情対立への動員が危惧される。 ・個別異議タイプの人々では認知分断への動員が危惧される。
- ・個人了解タイプの人々では意欲亀裂への動員が危惧される。

（意欲亀裂はその他大勢の人々の意欲そのものの扇動への危惧）

注記 対立、分断、亀裂は多元性を排除する一元化への傾向を内在し、選挙民主主義の空洞化につながる。一方、SNSの利用は一元化による「動員」のみではなく、多様な「流動」の市民文化の醸成変可能性も持っている（動員と流動のモビライゼーション）

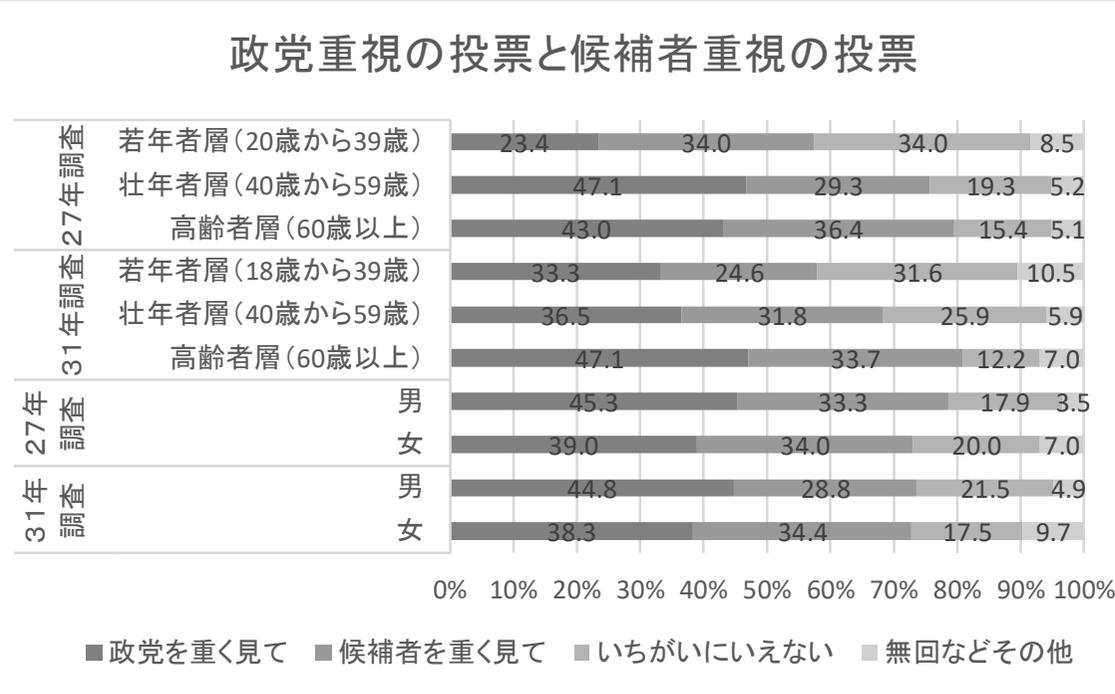
- （例えば、流動化へ） ・集団要求タイプでは民間メディアの事実報道の情報 ・個別異議タイプでは第三機関のファクトチェックの情報
- ・個人了解タイプでは公的機関の政策評価の情報

各投票方向への意欲タイプでの選挙啓発運動の情報の特徴

選挙啓発運動の 情報	集団要求タイプへの情報	個別異議タイプへの情報	個人了解タイプへの情報
一元的な情報	一元的情報による単一政党への動員（感情対立の増幅）	一元的情報による単一候補者への動員（認知分断の増幅）	一元的情報による単一争点への動員（意欲亀裂の増幅）
多元的な情報	多元的な情報による多様な政党への関心の流動化がもたらす感情対立の緩和	多元的な情報による多様な候補者への関心の流動化がもたらす認知分断の緩和	多元的な情報による多様な争点への関心の流動化がもたらす意欲亀裂の緩和
混合型の市民文化に資する 情報	Twitter （多様な党派の拡散情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによるファクトチェックが可能な対話型の情報 （特性は少・淡・開・軟型）	Facebook （多様な候補の限定情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによる出自チェックが可能な表現型の情報 （特性は多・濃・閉・硬型）	TikTok （多様な争点の拡散情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによるファクトチェックが可能な印象型の情報 （特性は少・淡・開・軟型）
	LINE （多様な党派の限定情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによる出自チェックが可能な対話型情報 （特性は多・濃・閉・硬型）	YouTube （多様な候補の拡散情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによるファクトチェックが可能な表現型情報 （特性は多・濃・開・軟型）	Instagram （多様な争点の限定情報） 新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによるファクトチェックが可能な印象型情報 （特性は少・淡・閉・硬型）

見たい情報を求める集団要求タイプや理解したい情報を求める個別異議タイプでは、選挙啓発運動の情報接触により選挙への態度は補強されるが変化する流動性は低いかもしれない。一方、そのような占有傾向の乏しい個人了解タイプの選挙へのモビライゼーションの流動性はより高いだろう。個人了解タイプの流動性の高さが、政策での意見の違いにとどまらず民主主義の選挙の正当性が根源的な争点となるようなポピュリズムの動員を増幅しかねない。そのような危惧に対して、人々の間での「有意義」な感情対立、認知分断、意欲亀裂での選挙民主主義に資する個人了解タイプの**混合型の市民文化への寄与が特に注目される**。能動的な態度と受動的な態度が混在する混合型市民文化は、選挙へのモビライゼーションの流動化が一元的な動員への危惧をはらむなかで、時には能動的な行動様式をとり、時には受動的行動様式をとる個人了解タイプの人々によって、一元的な動員への緩衝となる可能性がある。個人了解タイプの人々へのソーシャルメディアを利用する選挙啓発運動が、多様な争点に関する多元的な情報による争点評価への見方の流動化を促進するなら、民主主義の根幹に関わる選挙自体への意欲の亀裂が、能動と受動が流動的に混在する混合型市民文化の下で「有意義」なものとなるだろう。そのような混合型市民文化の醸成に資する情報提供の具体例として、新聞、テレビ、大学、研究所等の公器と言われるものによるTikTokでのファクトチェックが可能な印象型の情報提供とInstagramでの出自チェックが可能な印象型の情報提供を促進する財政支援を示した。そのような支援を実際にどのように行いうるかの検討は残された課題である。

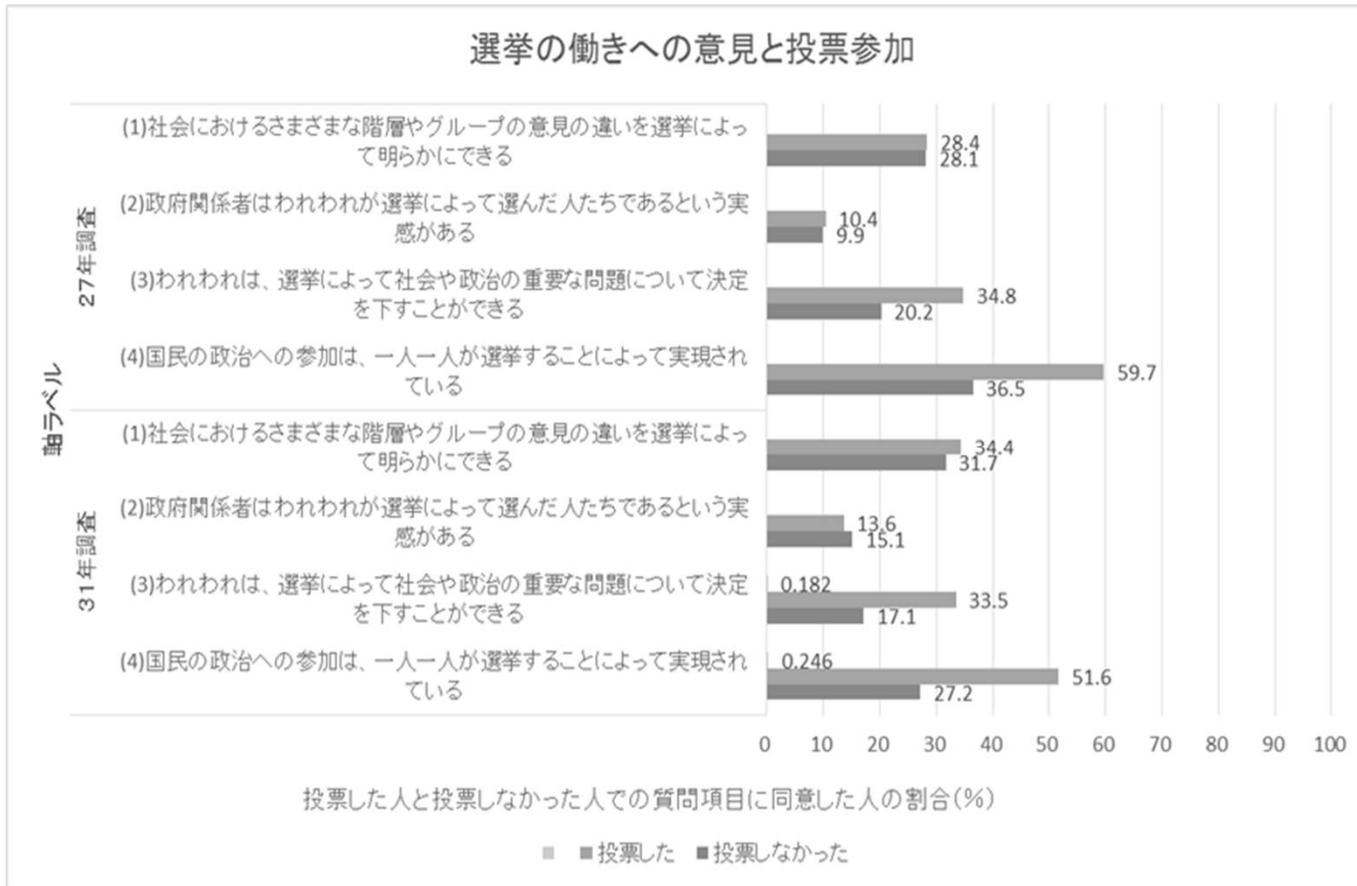
図3 投票での政党重視と候補者重視の31年と27年の比較



投票方向について興味深い質問は、今回の市会議員選挙で投票したと答えた人に聞いた問8の付問1の、政党を重くみて投票したか候補者を重くみて投票したかの質問である。31年調査での重視の割合は括弧内の27年調査と比較して、政党重視が40.7%(42.1%)、候補者重視が31.3%(33.7%)であり、どちらの重視も少し減少しているようだが、その割合はあまり変わらない。

詳細に見ると、全体のうち男性52.7%に対して政党重視の男性55.3%、候補者重視の男性47.0%、「いちがいにいえない」の男性56.5%、一方、全体のうち女性47.3%に対して政党重視の女性44.7%、候補者重視の女性53.0%、「いちがいにいえない」の女性43.5%である。投票者のうちわからないと答えた人と回答がない欠損値を除外した投票者249人について有意な相関係数クラマーVは確認できないが、男性の政党重視の傾向、女性の候補者重視の傾向および女性より男性に「いちがいにいえない」と考える傾向がありそうに見える。また、若年者層、壮年者層、高齢者層の年齢層との関係については、投票者のうちわからないと回答がない欠損値を除外した投票者291人について相関係数クラマーVは0.159で関係があり、その詳細は以下のようなものである。全体のうち若年者層17.5%に対して政党重視の若年者層14.5%、候補者重視の若年者層14.1%、「いちがいにいえない」の若年者層29.5%、また、全体のうち壮年者層27.5%に対して政党重視の壮年者層23.7%、候補者重視の壮年者層27.3%、「いちがいにいえない」の壮年者層36.1%である。さらに、全体のうち高齢者層55.0%に対して政党重視の高齢者層61.8%、候補者重視の高齢者層58.6%、「いちがいにいえない」の高齢者層34.4%である。高齢者層では若年者層や壮年者層に比べて、いちがいにいえないと答える人がかなり少なく、どちらかと言えば高齢者層の男性の政党重視傾向の特徴を見てとれる。

図8 選挙の機能についての意識が投票参加にどのように関わるか



選挙の機能についての市民の意識を知ることは、投票参加に結びつく選挙時啓発や常時啓発を考える手がかりとなるだろう。図8は問21の選挙の働きについての市民の見方と投票参加の関係を示している。

「国民の政治への参加は、一人一人が選挙することによって実現されている」0.312 (0.260)は建前のように、あまり積極的な投票参加の理由とは言えないかもしれないが、この見方は比較的に高齢者層に多い。これに対して、より積極的と思われる「(3)われわれは、選挙によって社会や政治の重要な問題について決定を下すことができる」が若い人に多いわけではないが、この考え方が「(2)政府関係者はわれわれが選挙によって選んだ人たちであるという実感がある」以上に人々に受け入れられ、投票した人がよりこのように考えている。いずれにしても、現状は、「(3)われわれは、選挙によって社会や政治の重要な問題について決定を下すことができる」は男性0.217、高齢者層で0.168であり、「(4)国民の政治への参加は、一人一人が選挙することによって実現されている」は高齢男性で0.241、高齢女性で0.345であり、選挙機能への意識が投票参加につながるのは高齢者層が中心である。特に若い世代での選挙の機能についての新たな意識の醸成が望まれるだろう。

選挙の機能についての京都市民の政治行動の動態 (選挙の機能の変数を用いた頻度分析、二重クロス表分析、三重クロス表分析、パス解析)

問21 選挙の働きについてはいろいろの考え方があります。次にあげた意見について、あなた自身の意見に比較的近いものはどれですか。同意できるものをすべてあげてください。(○印はいくつでも)

問21 選挙の機能についての考え方〔社会におけるさまざまな階層やグループの意見の違いを選挙によって明らかにできる〕

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非選択	280	46.5	46.5	46.5
	選択	200	33.2	33.2	79.7
	無回答	122	20.3	20.3	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

問21 選挙の機能についての考え方〔政府関係者はわれわれが選挙によって選んだ人たちであるという実感がある〕

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非選択	394	65.4	65.4	65.4
	選択	86	14.3	14.3	79.7
	無回答	122	20.3	20.3	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

問21 選挙の機能についての考え方〔われわれは、選挙によって社会や政治の重要な問題について決定を下すことができる〕

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非選択	321	53.3	53.3	53.3
	選択	159	26.4	26.4	79.7
	無回答	122	20.3	20.3	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

問21 選挙の機能についての考え方〔国民の政治への参加は、一人一人が選挙することによって実現されている〕

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非選択	234	38.9	38.9	38.9
	選択	246	40.9	40.9	79.7
	無回答	122	20.3	20.3	100.0
	合計	602	100.0	100.0	

(二重クロス表分析) 投票参加 B Y 選挙機能

クロス表

			機能グループ		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	221	116	337
		投票棄権の%	65.6%	34.4%	100.0%
棄権ほか	棄権ほか	度数	181	84	265
		投票棄権の%	68.3%	31.7%	100.0%
合計	合計	度数	402	200	602
		投票棄権の%	66.8%	33.2%	100.0%

クロス表

			機能重要問題		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	224	113	337
		投票棄権の%	66.5%	33.5%	100.0%
棄権ほか	棄権ほか	度数	219	46	265
		投票棄権の%	82.6%	17.4%	100.0%
合計	合計	度数	443	159	602
		投票棄権の%	73.6%	26.4%	100.0%

クロス表

			機能選んだ実感		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	291	46	337
		投票棄権の%	86.4%	13.6%	100.0%
棄権ほか	棄権ほか	度数	225	40	265
		投票棄権の%	84.9%	15.1%	100.0%
合計	合計	度数	516	86	602
		投票棄権の%	85.7%	14.3%	100.0%

クロス表

			機能参加		合計
			.00	1.00	
投票棄権	投票	度数	163	174	337
		投票棄権の%	48.4%	51.6%	100.0%
棄権ほか	棄権ほか	度数	193	72	265
		投票棄権の%	72.8%	27.2%	100.0%
合計	合計	度数	356	246	602
		投票棄権の%	59.1%	40.9%	100.0%

(三重クロス表分析) 投票参加 B Y 選挙機能 B Y 政治関心 (国の)

クロス表

				機能グループ		合計
				.00	1.00	
.00	投票棄権	投票	度数	83	30	113
			投票棄権の%	73.5%	26.5%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	112	38	150
			投票棄権の%	74.7%	25.3%	100.0%
	合計	投票	度数	195	68	263
			投票棄権の%	74.1%	25.9%	100.0%
1.00	投票棄権	投票	度数	138	86	224
			投票棄権の%	61.6%	38.4%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	69	46	115
			投票棄権の%	60.0%	40.0%	100.0%
	合計	投票	度数	207	132	339
			投票棄権の%	61.1%	38.9%	100.0%
合計	投票棄権	投票	度数	221	116	337
			投票棄権の%	65.6%	34.4%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	181	84	265
			投票棄権の%	68.3%	31.7%	100.0%
	合計	投票	度数	402	200	602
			投票棄権の%	66.8%	33.2%	100.0%

クロス表

				機能選んだ実感		合計
				.00	1.00	
.00	投票棄権	投票	度数	100	13	113
			投票棄権の%	88.5%	11.5%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	133	17	150
			投票棄権の%	88.7%	11.3%	100.0%
	合計	投票	度数	233	30	263
			投票棄権の%	88.6%	11.4%	100.0%
1.00	投票棄権	投票	度数	191	33	224
			投票棄権の%	85.3%	14.7%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	92	23	115
			投票棄権の%	80.0%	20.0%	100.0%
	合計	投票	度数	283	56	339
			投票棄権の%	83.5%	16.5%	100.0%
合計	投票棄権	投票	度数	291	46	337
			投票棄権の%	86.4%	13.6%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	225	40	265
			投票棄権の%	84.9%	15.1%	100.0%
	合計	投票	度数	516	86	602
			投票棄権の%	85.7%	14.3%	100.0%

対称性による類似度

国の政治関心			値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
.00	順序と順序	Kendallのタウ b	-.014	.062	-.222	.824
	有効なケースの数		263			
1.00	順序と順序	Kendallのタウ b	.016	.054	.287	.774
	有効なケースの数		339			
合計	順序と順序	Kendallのタウ b	-.029	.041	-.706	.480
	有効なケースの数		602			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

対称性による類似度

国の政治関心			値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
.00	順序と順序	Kendallのタウ b	-.003	.062	-.043	.966
	有効なケースの数		263			
1.00	順序と順序	Kendallのタウ b	.067	.056	1.191	.234
	有効なケースの数		339			
合計	順序と順序	Kendallのタウ b	.020	.041	.500	.617
	有効なケースの数		602			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

(三重クロス表分析) つづき
クロス表

投票参加 B Y 選挙機能 B Y 政治関心 (国の)

クロス表

国の政治関心				機能重要問題		合計
				.00	1.00	
.00	投票棄権	投票	度数	94	19	113
			投票棄権の%	83.2%	16.8%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	129	21	150
			投票棄権の%	86.0%	14.0%	100.0%
	合計	投票	度数	223	40	263
			投票棄権の%	84.8%	15.2%	100.0%
1.00	投票棄権	投票	度数	130	94	224
			投票棄権の%	58.0%	42.0%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	90	25	115
			投票棄権の%	78.3%	21.7%	100.0%
	合計	投票	度数	220	119	339
			投票棄権の%	64.9%	35.1%	100.0%
合計	投票棄権	投票	度数	224	113	337
			投票棄権の%	66.5%	33.5%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	219	46	265
			投票棄権の%	82.6%	17.4%	100.0%
	合計	投票	度数	443	159	602
			投票棄権の%	73.6%	26.4%	100.0%

対称性による類似度

国の政治関心	値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
.00 順序と順序 Kendallのタウ b	-.039	.062	-.623	.533
有効なケースの数	263			
1.00 順序と順序 Kendallのタウ b	-.201	.050	-3.950	.000
有効なケースの数	339			
合計 順序と順序 Kendallのタウ b	-.182	.038	-4.659	.000
有効なケースの数	602			

a. 帰無仮説を仮定しません。
b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

国の政治関心				機能参加		合計
				.00	1.00	
.00	投票棄権	投票	度数	57	56	113
			投票棄権の%	50.4%	49.6%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	125	25	150
			投票棄権の%	83.3%	16.7%	100.0%
	合計	投票	度数	182	81	263
			投票棄権の%	69.2%	30.8%	100.0%
1.00	投票棄権	投票	度数	106	118	224
			投票棄権の%	47.3%	52.7%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	68	47	115
			投票棄権の%	59.1%	40.9%	100.0%
	合計	投票	度数	174	165	339
			投票棄権の%	51.3%	48.7%	100.0%
合計	投票棄権	投票	度数	163	174	337
			投票棄権の%	48.4%	51.6%	100.0%
	棄権ほか	投票	度数	193	72	265
			投票棄権の%	72.8%	27.2%	100.0%
	合計	投票	度数	356	246	602
			投票棄権の%	59.1%	40.9%	100.0%

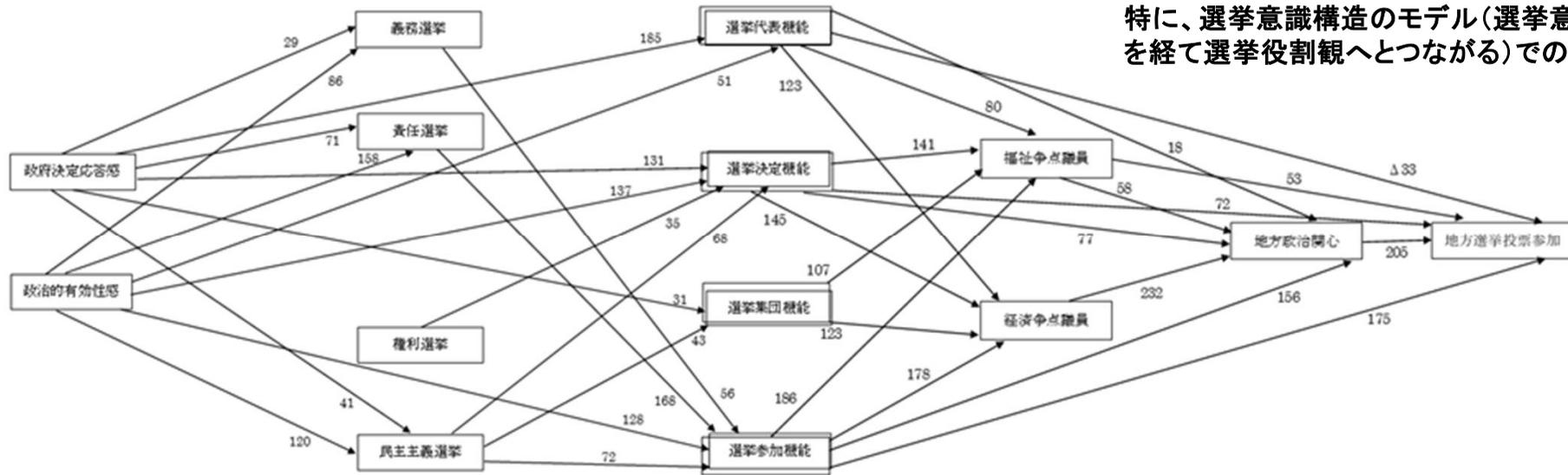
対称性による類似度

国の政治関心	値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率
.00 順序と順序 Kendallのタウ b	-.353	.058	-5.841	.000
有効なケースの数	263			
1.00 順序と順序 Kendallのタウ b	-.112	.054	-2.077	.038
有効なケースの数	339			
合計 順序と順序 Kendallのタウ b	-.247	.039	-6.330	.000
有効なケースの数	602			

a. 帰無仮説を仮定しません。
b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

選挙意識の構造における政策指向(政策重視)

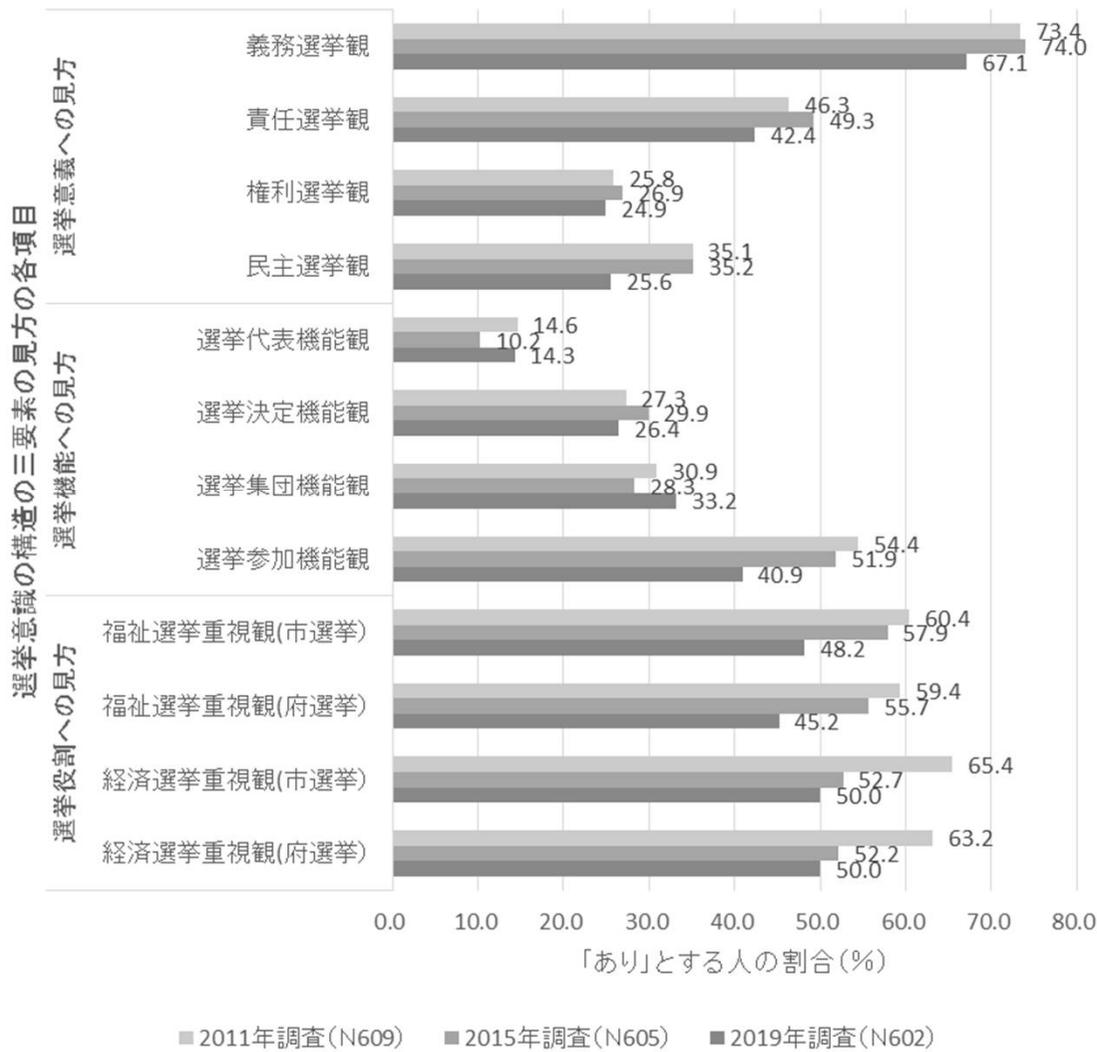
京都市民の「選挙意識」の詳細な検討(選挙の意義、選挙の機能、選挙の役割)
 村山皓「選挙意識への注目—市民による選挙の働きの認識—」、『政策科学』来年刊行予定から



特に、選挙意識構造のモデル(選挙意義観から選挙機能観を経て選挙役割観へとつながる)での選挙機能に注目

日本の選挙での投票率は確実に低下してきている。国政選挙でも地方選挙でも低下傾向が見られ、特に、地方選挙での投票率の低下は著しい。選挙に意味があり、選挙に働きがあり、選挙が役立つと、人々は思わないのだろうか。京都市議会議員選挙のときに実施された京都市民の政治意識調査から、選挙にどのような意義があり、どのような機能があり、どのような役割があると、京都市民が捉えているかを知ることができるのではないかと考えた。この調査データを用いた投票行動の分析から、選挙への基底的な意識と言える意義と機能と役割について、日本の地方選挙での人々の選挙意識の構造を知ること、選挙を取り巻く民主主義を考える一助となればと考えた。選挙への人々の見方がどのようなものであれば民主主義にとって良いのだろうか。これが、この研究の基本疑問である。選挙民主主義でのより良い選挙意識のあり方を探ろうとする。そこで、選挙意識の構造がどのような状態であることが民主主義にとって望ましいかを考える。具体的には、選挙意識の構造の三要素として、人々の選挙意義への見方、選挙機能への見方、選挙役割への見方の状況から、選挙民主主義にとっての選挙意識のあり方を判断する。選挙意義への意識については4項目に注目し、そのうち義務選挙観は選挙での投票は国民の義務と捉える見方である。責任選挙観は選挙には必ず行く責任があると捉える見方である。権利選挙観は選挙は義務というより国民の権利であると捉える見方である。民主選挙観は選挙はみんなで決めるという民主主義の精神の表れ捉える見方である。選挙機能への意識についても4項目に注目する。選挙決定機能観は代表選出の実感が得られるとの見方である。選挙決定機能観は選挙によって重要問題を決定できるとの見方である。選挙集団機能観は選挙によって社会集団の意見の違いが明らかになるとの見方である。選挙参加機能観は選挙が人々の参加の実現状況を示すとの見方である。選挙役割への意識については2項目に注目する。福祉選挙観は市議会議員選挙および府議会議員選挙で福祉政策を重視して投票するとの見方である。経済選挙観は市議会議員選挙および府議会議員選挙で経済政策を重視して投票するとの見方である。京都市民の意識調査においてそれらの選挙意識を測る12項目の各年度の頻度分布は次に示している。

選挙意識の各項目の頻度分布



選挙意識の12項目の頻度分布には、今日、人々は選挙をどのようなものと見ているかの一端が表れている。それぞれの多寡には次のような京都市民の選挙意識の特徴がある。

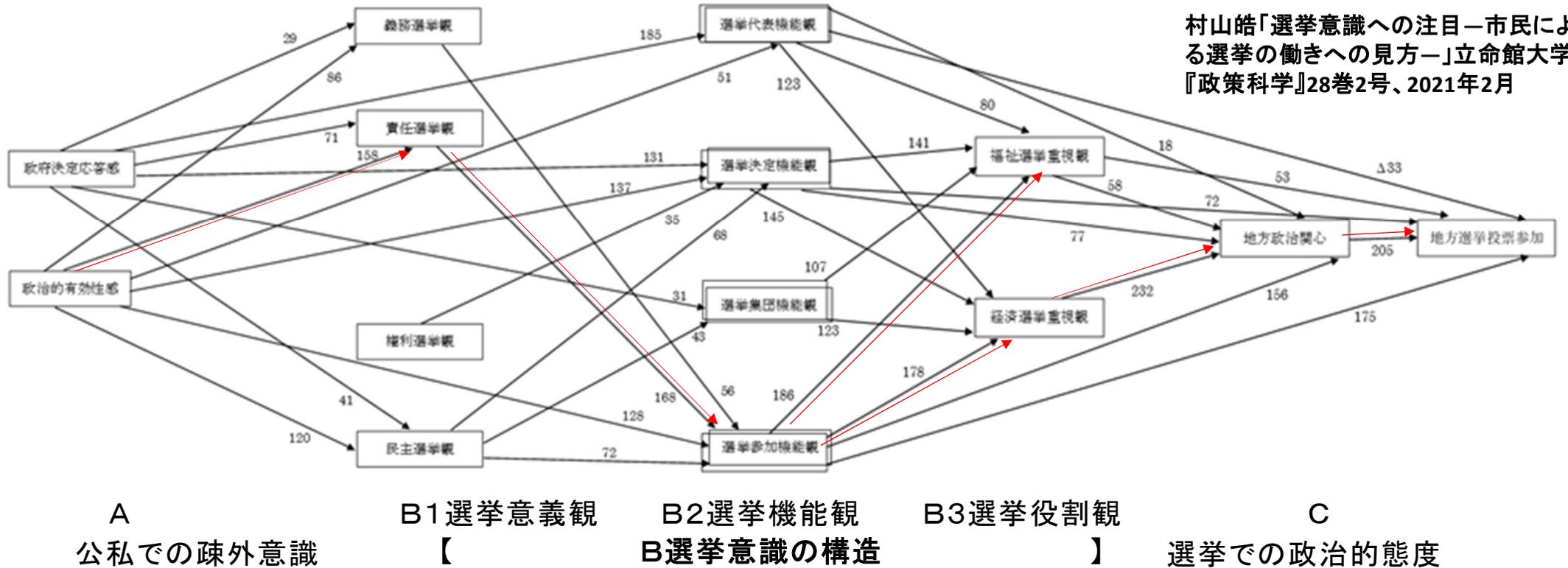
- ・2019年は選挙意識の各項目について「あり」と答える人の割合が他の年度に比べて低いと言えるが、選挙代表機能観と選挙集団機能観は例外に高い場合もある。もっとも、選挙機能への見方の各項目については年度で異なる分布が見られる。

・特に、選挙参加機能観の落ち込みが目立つ。その分、選挙代表機能観と選挙決定機能観の増加が注目される。そこに、日本の選挙意識の変化の兆しを読み取れるかもしれない。

・選挙意義への見方については、2019年の民主選挙観の落ち込みも目立つ。選挙参加機能観の落ち込みと合わせて考えると、民主的な参加としての選挙の見方のような抽象的な捉え方が減少して、どちらかと言うと具体的な選挙観に向かっているのかもしれない。しかし、選挙が政策争点に役立つとの選挙役割への見方では、以前の抽象的な選挙観で漠然役立つとの「印象」があったのに対して、具体的な選挙観が役立つとの「判断」に未だ結びついていないのだろう。加えて、福祉争点よりも経済争点のほうにより近年は役立つと見られるのは、政治経済が生活を左右する今日において、案外、市場経済への政治行政の関わりへの判断が選挙意識に見られると解釈できなくもない。

選挙の機能への京都市民の見方を中心に選挙意識の投票参加行動での位置づけ（2019年調査の分析）

村山皓「選挙意識への注目—市民による選挙の働きへの見方—」立命館大学『政策科学』28巻2号、2021年2月



責任選挙観から選挙参加機能観を経て選挙役割重視の意識へのつながりでの指標の数値の大きさが目立つ。そこに集中する京都市民の選挙意識の特徴は、様々なつながりが多角的に見られるというより、偏りのある多様性に欠ける状況を示している。選挙意識の構造を、選挙意義の意識から選挙機能の意識を経て選挙役割の意識につながる因果のモデルで捉えたと、選挙意識観から選挙機能観への因果では、民主選挙観が原因として大きい(3影響、他は1影響)。また、年度差はあるが、選挙参加機能観へは3原因から影響し、選挙決定機能観には2原因、選挙集団機能観に1原因、選挙代表機能観には選挙意義観を原因とする影響がない状況である。一方、選挙機能観から選挙役割観への因果はすべてに確認できる。しかし、因果の強さには違いがあり年度差もあるが、代表機能観から福祉選挙重視観への因果は低く、選挙参加機能観から福祉・経済選挙重視観への因果が比較的強い傾向が見られる。以上を踏まえて、もし、より多角的な偏りの少ない多様性を求めるなら、権利選挙意義観が選挙参加機能観につながり、民主選挙意義観が選挙代表機能観につながり、選挙義務意義観や選挙責任意義観から選挙代表機能観もしくは選挙決定機能観へのつながりがあっても良さそうだ。

2022 年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」第 7 回授業

「京都市選挙管理委員会における選挙啓発の取組について」

日時 令和4年7月13日 14:30～

場所 京都市選挙管理委員会事務局

1 はじめに

2 公職選挙法と選挙啓発

3 令和4年7月10日執行参議院議員通常選挙における選挙時啓発

4 令和4年度明るい選挙推進事業計画（常時啓発）

公職選挙法と選挙啓発

1 はじめに

現代の民主政治において、選挙は、国民が政治に参加する最も重要かつ基本的な機会であり方法でもある。

したがって、積極的な投票参加は、民主政治の健全な発展のために欠かすことのできないものである。

2 公職選挙法の規定

(1) 第1条（公職選挙法の目的）

公職選挙法（以下「法」という。）は、選挙が公明かつ適正に行われることを確保することで、私たち国民の意思が正しく政治に反映され、民主主義が健全に発達することを目的としている（法1）。

公職選挙法 第1条（この法律の目的）

第1条 この法律は、日本国憲法の本質に則り、衆議院議員、参議院議員並びに地方公共団体の議会の議員及び長を公選する選挙制度を確立し、その選挙が選挙人の自由に表示せる意思によって公明且つ適正に行われることを確保し、もって民主政治の健全な発達を期することを目的とする。

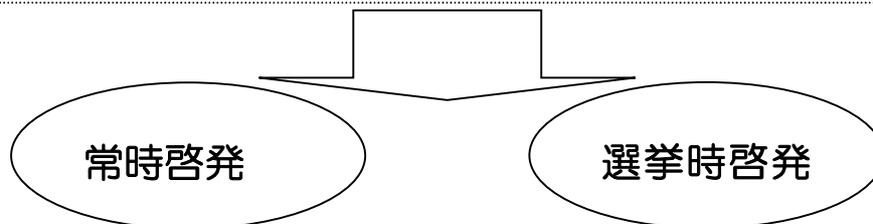
(2) 第6条（選挙啓発）

同法では、投・開票制度をはじめ、あらゆる点で制度的にその実現を期しているが、このことは法の規定のみによってその目的を達することができるものではなく、国民の政治常識の向上が重要となる。

そのため、法第6条において、選挙管理機関が、常に選挙人の政治常識の向上に努めることや、選挙に際して投票の方法や選挙違反など、選挙に関し必要とされる事項を選挙人に周知することを義務としている。

公職選挙法 第6条（選挙に関する啓発、周知等）

第6条 総務大臣、中央選挙管理会、都道府県の選挙管理委員会及び市町村の選挙管理委員会は、選挙が公明且つ適正に行われるように、常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努めるとともに、特に選挙に際しては投票の方法、選挙違反その他選挙に関し必要と認める事項を選挙人に周知させなければならない。（以下略）



第26回参議院議員通常選挙

選挙時啓発

種別	項目	内容	期間
印刷物の配布・掲示等	期日周知ポスター	市広報板,市バス・地下鉄車内, 庁舎, 大学, 商業施設, 商店街等に掲出	6月下旬～7/10
	市民しんぶん挟込み(タブロイド版) ※点字, 音声・文字拡大版も作成	全戸配布, 区役所・支所・出張所・事業所・地下鉄各駅等窓口にて配布	6/15～
	新有権者向けチラシ	選挙制度等について分かりやすく解説したチラシを, 市内高校や青少年活動センター等に配布	6/下旬～
	横型大看板, 立看板	市役所, 区役所・支所・出張所等に掲出	6月中旬～7/10
	のぼり	庁舎における掲出	6月中旬～
広報媒体	文字表示	区・市防災情報システム, 京都駅前電光掲示板等	随時
	大学コンソーシアム京都 メーリングリスト及び「KYO-DENT」アプリ	大学コンソーシアム京都のメーリングリストや学生向けアプリを活用し, 市内の大学を通じて学生に投票参加の呼びかけ等を実施	随時
	YouTube広告	若年層をターゲットとしたバンパー広告	随時
	SNS	京都市公式フェイスブック, ツイッター等に投票参加を呼び掛ける投稿を掲載	随時
街頭等呼掛け	区公用車	ボディパネルを取り付け, 啓発放送を流しながら運行	6月下旬～7/10
	庁舎内放送	市・区庁舎内	6月下旬～
	各種館内放送	商業施設, 商店街等	6月下旬～
啓発物品	丸うちわ	市・区にて配布	6月中旬～
その他	学生団体への支援	学生団体が自主的に行う啓発活動を支援(総額20万円)	5月16日～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 今回選挙では街頭啓発を実施しない。

※この他, 選挙のお知らせ(はがき)を全有権者に郵送(市外転出分含む)。

※実施内容や期間を変更する場合がある。

令和4年度京都市明るい選挙推進事業計画

令和4年度京都市明るい選挙推進事業計画を次のとおり策定する。

なお、事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底を図るとともに、出前授業のオンライン化や情報発信におけるSNSの活用など、人と人とが密集・密接せずに実施できる啓発に積極的に取り組むこととする。

1 基本方針

(1) 将来の有権者に対する啓発

小さい頃から政治や選挙に親しんでもらうことで、児童・生徒等の社会参加への興味・関心を育むため、青少年にふさわしい論題を設定した論文の募集や明るい選挙を呼びかけるポスターの募集、模擬投票を体験する出前授業等を行い、政治や選挙に真摯に向き合える将来の有権者の育成を図る。

(2) 新有権者をはじめとする若者への啓発

日ごろから、政治や選挙に若者が関心を寄せるよう啓発を行い、投票参加意識の向上を図るとともに、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、これまで以上に新有権者の意識の高揚に努め、具体的な投票行動に結びつくよう強く働きかける。

(3) 明るくきれいな選挙の呼び掛け

政治に対する信頼を確立し、議会制民主政治の健全な発展を期するために、あらゆる機会を通じて有権者はもとより、政治家、候補者等に対し、ルールを守って明るくきれいな選挙の実現を強く訴える。

また、地域活動や各種団体の会合の場及び広報媒体等を通じて「3ない運動」(贈らない、求めない、受け取らない)を中心とする政治倫理について積極的かつ幅広く周知することにより、政治倫理化運動の理解を深める。

(4) 明るい選挙推進体制の活性化

各種団体と協力し、「明るい選挙推進員」の育成をはじめとする啓発活動の活性化を図る。

(5) 選挙に関する各種情報の公正かつ的確な周知

各種選挙の期日や選挙制度等を、市民しんぶんやインターネットを活用して有権者に公正かつ的確に周知する。

(6) 選挙時における投票率向上のための啓発

昨今の選挙における投票率の状況を踏まえ、民主主義の危機的な状況との認識のもと、あらゆる機会を捉えて、幅広い世代の有権者に投票参加を呼び掛け、投票率の向上に取り組む。

2 実施計画

令和4年度は、次のとおり啓発事業を実施する。

	事業名	目的・概要	対 象	主 催
1 将来の有権者に対する啓発				
	ア 論文コンクール「わたしはこう考える」	<p>明るく豊かな社会を築くため、将来の政治参加に備え、生活・選挙・政治に対する関心を持たせ、自由な意思をもった自覚ある有権者を育成することを目的として、青少年にふさわしい論題を設定して論文を募集する。</p> <p>また、優秀作品を新聞に掲載するなど広く市民の政治・選挙への関心を高める。</p> <p>(募集期間 6月下旬～9月中旬予定)</p>	市内在住又は市内に通学・通勤している令和5年3月31日現在中学生以上19歳未満の方	市・区推協 市・区選管
	イ 明るい選挙をすすめるポスター募集	<p>小さい頃から政治や選挙に親しみ、社会参加への興味・関心を育むことを目的として、明るい選挙を呼びかけるポスターを募集する。</p> <p>また、応募作品の展示及び啓発への活用により広く市民に対して明るい選挙への関心を高める。</p> <p>(募集期間 6月下旬～9月中旬予定)</p>	市内在住又は市内へ通学の小・中・高校・総合支援学校の児童・生徒	市・区推協 市・区選管
	ウ 明るい選挙出前授業	<p>政治や選挙に真摯に向き合うことができる有権者の育成を図るため、小・中・高等学校、大学の児童、生徒、学生等に対し、選挙制度の解説や模擬投票の体験を行う出前授業を実施する。</p> <p>また、今年度から高等学校の公民科目で新たに「公共」が必修となることも踏まえ、教育委員会と連携しながら出前授業の手法を検討していく。</p> <p>その他、税務署や社会保険労務士会等、主催者教育を推進する他団体と連携し、学校現場のニーズに合わせた効果的な出前授業を実施する。</p> <p>実施にあたっては、3密防止の徹底やオンラインの活用等、感染症拡大状況下でも実施できる出前授業の方法を学校と調整する。</p>	市内の小・中・高校・総合支援学校・大学の児童・生徒・学生等	市・区推協 市・区選管
	エ 選挙物品貸出事業	<p>学校との連携を通じて児童・生徒の政治や選挙への関心を高めることを目的として、投票箱等の選挙物品貸出事業を行う。</p>	市内の小・中・高校・総合支援学校等	市・区選管
	オ 将来の有権者を対象とした啓発物品の作成	<p>児童・生徒等の選挙への興味・関心を高め、家庭内で政治や選挙が話題となる機会を創出するため、児童・生徒等が対象の啓発物品を作成し、出前授業等の機会を通じて配布する。</p>	市内の小・中・高校・総合支援学校の児童・生徒等	市・区推協 市・区選管

2 新有権者をはじめとする若者への啓発			
ア 若年有権者向け情報発信	新有権者向けに、選挙に対する関心を高めるためのウェブサイトを運営する。 また、大学コンソーシアム京都のメーリングリスト等を活用し、市内大学を通じて転居時の住民票の異動等投票率向上に向けた情報発信を行う。 さらに、若年有権者を対象に、選挙について分かりやすく解説した印刷物を配布する。	若年有権者等	市推協・市選管
イ 選挙事務への従事	新有権者世代の選挙への関心を高めるため、高校生、大学生等に選挙事務へ従事してもらう。	高校生・大学生	市・区選管
ウ 学生団体等と連携した啓発	学生団体等との連携を強化し、日頃から若年層の政治・選挙に対する関心を高める取組について意見交換を行い、若年層向けの啓発事業に生かすとともに、協働した取組を実施する。	若年有権者等	市・区推協 市・区選管
エ 若者の政治参加意識の向上	地域の大学と連携した啓発活動等を実施する。	市内大学に通学する学生等	市・区推協 市・区選管
オ 市民向けイベント等における啓発	市主催の事業や地域のイベント等と連携し、啓発物品の配布等により、政治や選挙への積極的参加を呼びかける。	一般	市・区推協 市・区選管
3 明るくきれいな選挙の呼び掛け			
ア 明るくきれいな選挙実現のための政治倫理化運動等	印刷物への啓発記事等の掲載やあらゆる機会を通じて、選挙のルールを守る明るくきれいな選挙の実現を図る。とりわけ、寄付禁止を中心とする政治倫理化運動を地域ぐるみの運動に盛り上げることを目的に、「3ない運動－贈らない、求めない、受け取らない」を展開する。	一般、各種団体、政治家	市・区推協 市・区選管
4 明るい選挙推進体制の活性化			
ア 明るい選挙推進協議会の運営	明るい選挙推進事業の総合的な企画検討や啓発に関する事項の協議を行う。また、市・区推協間の連絡調整を行い、効果的な活動を図る。	市・区推協	市・区推協 市・区選管
イ 地域活動の活性化	明るい選挙の推進と有権者の投票参加意識の向上を図るため、区推進員や選挙サポーターに対する研修会等を実施し、地域に根ざした活動を展開する人材を育成する。	区推進員・区民	区選管 区推協
ウ 明るい選挙推進セミナー	政治や選挙に関連するテーマを取り上げたセミナーや話し合い活動等への参加を通じ、政治や選挙への自主的・積極的な姿勢を養う。	区民	区選管 区推協

エ 地域団体との連携	政治や選挙に対する正しい理解と認識の浸透を図るため、地域団体が開催する事業の中で、政治や選挙に関連するものについて、経費分担などの便宜供与を行う。	女性会等地域団体	市推協 市選管 地域団体
オ 若者の政治参加意識の向上(再掲)	地域の大学と連携した啓発活動等を実施する。	市内大学に通学する学生等	市・区推協 市・区選管
カ (公財)明るい選挙推進協会主催の研修会等への参加	(公財)明るい選挙推進協会が主催するフォーラムや研修会等へ参加を通じて、他都市との情報交換や人材の育成を図る。	市・区推協委員及び区推進員等	市・区推協 市・区選管
5 選挙に関する各種情報の公正かつ的確な周知			
ア 市民しんぶん等を通じた周知	選挙期日や選挙に関する情報等を広く市民に周知する。	一般	市・区推協 市・区選管
イ インターネットを通じた周知	選挙期日や選挙制度、各種啓発事業、過去の選挙結果等について、ホームページ等を活用し広く市民に発信する。	一般	市・区推協 市・区選管
6 選挙時における投票率向上のための啓発			
選挙ごとに別途、啓発計画を策定する。			市・区推協 市・区選管

※ 令和4年度の常時啓発については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、予定を変更することがあります。

用語については、以下のとおり読みかえる。

市選管	…	京都市選挙管理委員会
市推協	…	京都市明るい選挙推進協議会
市・区選管	…	京都市及び各区選挙管理委員会
市・区推協	…	京都市及び各区明るい選挙推進協議会
市・区推協委員	…	京都市及び各区明るい選挙推進協議会委員
区推進員	…	各区明るい選挙推進員

参議院選挙

7月10日

午前7時～午後8時
(一部の地域を除く)

期日前投票 6月23日(木)～7月9日(土)

場所 区役所、支所等 時間 午前8時30分～午後8時

※土・日も投票できます。 ※詳しくは、区選挙管理委員会(区役所内)へ。

投票方法や選挙公報などを
ご確認ください



令和元年執行 参議院選挙 期日前投票日別投票者数

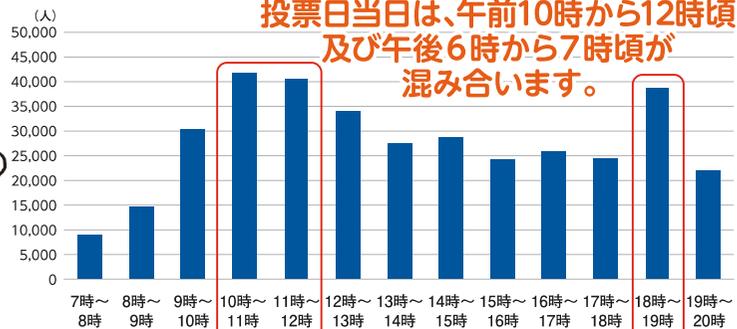


期日前投票は、
7月7日(木)から9日(土)が
混み合います。

投票所へは
混雑を避けて
ご来場ください



令和元年執行 参議院選挙 投票日当日時間帯別投票者数



投票日当日は、午前10時から12時頃
及び午後6時から7時頃が
混み合います。

分散投票にご協力ください。



京都市
CITY OF KYOTO

京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



参議院選挙

7月10日

午前7時から午後8時まで
(一部の投票所で開票時刻を繰り上げるところがあります)

投票できる方は、各区選挙管理委員会の選挙人名簿に登録されている方です。

〈選挙人名簿に登録される要件〉

平成16年7月11日以前に生まれた日本国民で、以下のいずれかに該当する方

- 令和4年3月21日以前から引き続き京都市の住民基本台帳に登録されている方
 - ①により選挙人名簿に登録された後、京都市外へ転出し、投票(期日前投票も含む)の時点で転出後4ヶ月を経過していない方
 - 京都市の住民基本台帳に3ヶ月以上登録された後、選挙人名簿に登録されることなく令和4年6月20日までに京都市外へ転出し、投票(期日前投票も含む)の時点で転出後4ヶ月を経過していない方
- ※ ②③に該当する方であっても、新住所地の選挙人名簿に登録されている場合は投票できません。

選挙についてのQ&A

参議院選挙について

参議院選挙では、2種類の選挙があると聞きましたが…

はい、選挙区選挙と比例代表選挙があります。

選挙区選挙は原則として各都道府県単位で行われ、有権者は当選させたい候補者個人に投票します。京都府選挙区からは、2人が当選します。

比例代表選挙は全国をひとつの単位として行われ、有権者は当選させたい候補者個人又は政党等のいずれかに投票します。政党等の総得票数は、候補者個人の得票と政党等の得票を合算したものととなり、総得票数に比例して各政党等の当選人の数が決まります。そして、政党等の中でまず「優先的に当選人となるべき候補者(特定枠)」とされた者から名簿記載の順位のとおりに当選人が決定し、次いでその他の名簿記載者について得票数の多い候補者から順に当選人が決定します。

〈特定枠制度について〉

全国的な支持基盤を有するとは言いなが国政上有為な人材あるいは民権を媒介する政党がその役割を果たすうえで必要な人材が当選しやすいよう、前回の参議院比例代表選挙から導入された制度。政党等は、候補者とする者のうち一部の者について、優先的に当選人となるべき候補者として、その氏名及びそれらの者の間における当選人となるべき順位をその他の候補者とする者の氏名と区分して名簿に記載することができず。



当選者4人の場合

●の順位…実際の得票数順 □の順位…特定枠で指定した当選優先順

転居について

最近、京都市に引っ越ししてきましたが、投票できますか。

令和4年3月21日までに京都市へ転入の届けがされていれば、投票することができます。最近住所を異動された方の投票場所は、住民票の届出内容により、下の表のとおりになります。

異動の別	届出の日	投票場所
京都市への転入 =転入届	令和4年3月21日以前	新住所地
	令和4年3月22日以後	前住所地(注1)
京都市からの転出 =新住所地への転入届	令和4年2月22日以前	新住所地(注2)
	令和4年2月23日以後	前住所地で投票できる場合がありますので、お問い合わせください。(注3)
京都市内での異動 =転入・転居届	令和4年6月1日以前	新住所地(注2)
	令和4年6月2日以後	前住所地(注1)

- (注1) 前住所地の選挙人名簿に登録されていることが必要です。
(注2) 新住所地の選挙人名簿に登録されていることが必要です。
(注3) 前住所地で京都市の住民基本台帳に3ヶ月以上登録されていたことが必要です。
ただし、新住所地の選挙人名簿に登録されている場合は投票できません。

投票方法について

投票方法を教えてください。

受付で「選挙のお知らせ」はがきを提示してください(なくても投票できます)。本人確認の後、投票用紙をお渡しします。

- 選挙区選挙** うすい黄色の投票用紙に候補者1人の氏名を自書して投票箱に入ってください。
- 比例代表選挙** 白色の投票用紙に候補者1人の氏名又は政党等の名称を自書して投票箱に入れてください。
- ※ 候補者名や政党名以外のことを記載すると、その投票は無効となることがありますので、ご注意ください。
 - ※ 投票所には、選挙人以外の方は入ることができません(選挙人の同伴する18歳未満の子どもを除く)。

※ 目の不自由な方は、点字による投票ができます。また、字を書くことが不自由な方は、投票所のお手伝い者が代筆(代理投票)します。
※ お家で投票所へお越しになるのが困難な重度の障害のある方については、同行援護サービスや移動支援サービス(ガイドヘルパーの派遣)等をご利用になれる場合があります。詳しくは、お住まいの区の保健福祉センターにお問い合わせください。

候補者や政党等について

候補者や政党等のことについて知るにはどうしたらいいですか?

ご自宅にお配りする選挙公報やポスター、政見放送、候補者等が開設するウェブサイト等により、候補者や政党等の政見・政策等を確認することができます。
※ 選挙公報については1面をご参照ください。

開票について

開票はいつ行われるのですか。

7月10日(日)投票終了後の午後9時20分から、各区に開票所を設けて行います。開票状況については、午後10時過ぎから随時、ホームページに掲載します。

期日前投票について

投票日は旅行に行く予定ですが、投票することはできますか。

あらかじめ期日前投票をしていただくことができます。

- 期日前投票とは** 投票日(選挙期日)に仕事や用事等があると見込まれる人が、投票日の前に投票できる制度です。
- 対象者**
- 投票日に、仕事や冠婚葬祭等の用事があると見込まれる方
 - 投票日に、旅行やレジャー等何らかの用事で自分の投票区外にいると見込まれる方
 - 投票日に、病気や妊娠等のために歩行が困難であると見込まれる方
 - 交通がむずかしい島などに居住している方(京都市では該当しません。)
 - 投票日に、選挙人名簿に登録されている区以外に居住している方と見込まれる方
 - 投票日に、天災又は悪天候により投票所に到達することが困難であると見込まれる方
- ※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため投票所の混雑を避けることを理由とする場合は、上記の⑥により、期日前投票をすることができます。

期日前投票所	お住まいの区役所・支所
投票できる期間	6月23日(木)~7月9日(土)の毎日
投票できる時間	午前8時30分~午後8時

次の出張所においても期日前投票所を設けます。この期日前投票所で投票できるのは、各出張所が所在する区の有権者の方のみとなります。また、区役所・支所と投票できる期間や時間が異なりますので、事前にご確認ください。なお、お住まいの区に複数の期日前投票所がある場合、いずれの場所でも投票することができます。

期日前投票のできる出張所	投票できる期間	投票できる時間
南区役所 久世出張所	7月7日(木)~9日(土)	区役所と同じ
右京区役所 京北出張所		午前8時30分~午後5時 (9日の午後8時まで)
伏見区役所 神山出張所	区役所と同じ	区役所と同じ
〃 淀川出張所		区役所と同じ

〈右京区の有権者の方のみ〉

今回の選挙においては、次の施設にも期日前投票所を設けます。なお、この期日前投票所で投票ができるのは右京区の有権者の方のみとなりますので、ご注意ください。

期日前投票のできる施設	投票できる期間	投票できる時間
イオンモール京都五条	7月 2日(日)	約3日間 午前10時~午後8時
25-1	7月 3日(日)	
7月 9日(土)		

期日前投票の方法

期日前投票を希望される方は、「期日前投票宣誓書」に必要事項をご記載のうえ提出していただく必要があります。「期日前投票宣誓書」は「選挙のお知らせ」(はがき)裏面に掲載しておりますので、必要事項をご記載のうえお持ちください。なお、「期日前投票宣誓書」は各期日前投票所にも備え付けています。

1. このはがきを、ご本人が投票所へ参し、参事へ提出していただく。本人確認(顔写真を写す)後、投票用紙をお渡しします。お名簿に記載されている方にのみです。(※投票所は混雑のごとき)

2. このはがきを封じ、お取りの区に選挙区の名簿を、投票日当日までに選挙区役所に提出してください。

3. 投票当日は午前10時から12時及び午後6時から7時の時間帯に参集します。投票時間の厳守にご協力ください。

4. 選挙についての問い合わせは表面の選挙管理委員会へお問い合わせください。

5. 期日前投票について
投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

6. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

7. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

8. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

9. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

10. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

11. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

12. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

13. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

14. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

15. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

16. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

17. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

18. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

19. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

20. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

21. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

22. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

23. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

24. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

25. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

26. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

27. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

28. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

29. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

30. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

31. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

32. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

33. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

34. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

35. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

36. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

37. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

38. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

39. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

40. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

41. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

42. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

43. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

44. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

45. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

46. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

47. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

48. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

49. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

50. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

51. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

52. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

53. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

54. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

55. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

56. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

57. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

58. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

59. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

60. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

61. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

62. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

63. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

64. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

65. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

66. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

67. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

68. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

69. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

70. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

71. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

72. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

73. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

74. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

75. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

76. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

77. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

78. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

79. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

80. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

81. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

82. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

83. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

84. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

85. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

86. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

87. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

88. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

89. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

90. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

91. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

92. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

93. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

94. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

95. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

96. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

97. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

98. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

99. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

100. 投票日当日は、投票所へ行く一方は、お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。お住まいの区役所・支所へお問い合わせください。

※ 選挙期日(7月10日)には18歳であるが、投票しようとする時点ではまだ17歳の方は、期日前投票ではなく不在者投票により投票していただくことになります。お住まいの区役所・支所の期日前投票所にお問い合わせください。(出張所では取り扱いませんのでご注意ください。)

不在者投票について

仕事の都合でしばらく東京に滞在しています。どうしたら投票できますか。

あらかじめ選挙人名簿登録地の区の選挙管理委員会に投票用紙等を郵便等で請求し、滞在先のお近くの市区町村選挙管理委員会(政令指定都市においては区の選挙管理委員会)で不在者投票をしてください。

滞在先等の選挙管理委員会や不在者投票のできる施設として指定された病院、老人ホーム等で投票できる制度です。対象者は、期日前投票と同じです。

滞在先での不在者投票の流れ



- ※ 投票用紙等の取寄せや投票記載後の返送には日数を要しますので、早めにお手続ください。
- ※ 滞在先の選挙管理委員会での受付日時を事前に必ずご確認ください。

投票用紙等の請求に必要な「不在者投票申請書請求書」は、ホームページからダウンロードできます。

「オンラインによる請求について」
「京都市・市町村共同電子申請システム」を利用して、オンラインによる投票用紙等の請求が可能です。
ただし、申請には公的個人認証の電子証明書が格納されたマイナンバーカードやICカードリーダーなどの利用環境が必要です。詳しくはホームページをご覧ください。

不在者投票のできる施設として指定された病院、老人ホーム等の施設に入院、入所されている方

投票用紙等の請求については、施設職員の方等にお問い合わせください。

郵便等による不在者投票

身体に法令が定める重度の障害があり、投票所で投票することができないと認められる方は、あらかじめ「郵便等投票証明書」の交付を受けたうえで、自宅等で投票できる制度があります。

1 対象者 次のいずれかの選挙人の方

(1) 身体障害者又は戦傷病者で、障害の程度が次表に該当する方

障害の種類	手帳	身体障害者手帳(記載等級)	戦傷病者手帳(記載等級)
両下肢・体幹		1級・2級	特別項症~第2項症
心臓・じん臓・呼吸器(ぼうこう・直腸又は小腸)		1級・3級	特別項症~第3項症
移動機能		1級・2級	—
免疫		1級~3級	—
肝臓		1級・3級	特別項症~第3項症

(2) 介護保険法に規定する要介護者として、被保険者証の要介護状態区分が「要介護5」である方

◆代理記載制度

上記(1)(2)に該当する方で、かつ、次表に該当する方のうち書できない方は、「代理記載制度」が利用できます(「代理記載制度」が利用できる方については、別に「代理記載となるべき者の届出」が必要となります)。

障害の種類	手帳	身体障害者手帳(記載等級)	戦傷病者手帳(記載等級)
上肢・視覚		1級	特別項症~第2項症

※ 制度の詳細や申請方法については、区の選挙管理委員会へお問い合わせください。

2 請求の仕方

- 既に「郵便等投票証明書」の交付を受けている方
選挙人名簿登録地の区の選挙管理委員会から請求書等をお送りします。
- 新たに「郵便等投票証明書」の交付を受けようとする方
交付申請時に、請求書等をお送りします。
- 投票用紙等の請求の受付は、投票日の4日前(7月6日(水))までとなりますので、ご注意ください。

当日、投票所へ行けない人に。 こんな投票方法もあります！



期日前投票

選挙期日の前でも投票できる制度です。
選挙によって、期日前投票の期間が異なります。

期間 選挙期日の公(告)示日の翌日から 選挙期日の前日まで ※1
場所 お住まいの区の区役所・支所など
時間 午前8時30分～午後8時(土・日・祝も投票可) ※2

※1 期日前投票期間中に18歳の誕生日を迎える人は、誕生日の前日から期日前投票ができます。(それまでは不在者投票ができます。)
※2 一部の期日前投票所を除く。詳しくは、区選挙管理委員会へお問い合わせ下さい。

不在者投票

選挙期間中に、旅行や用事などで住民票のある市区町村を離れる場合でも、滞在先で投票できる制度です。

滞在先での投票

投票用紙等を、選挙人名簿に登録されている区の選挙管理委員会に請求し取り寄せ、それを持って滞在先の市区町村の選挙管理委員会へ行くことで、投票できます。

※ 政令指定都市の場合は区の選挙管理委員会

～滞在先での不在者投票の流れ～



※ ①はオンライン請求が可能。ただし、申請には電子証明書などが必要。

選挙人名簿ってなに？

有権者の氏名などが記された名簿。選挙権があっても選挙人名簿に登録されていないと投票できない。登録は毎年3・6・9・12月と、通常は各選挙が公(告)示される日の前日に行う。

(登録要件)

1) 年齢満18歳以上の日本国民 2) 引き続き3か月以上、同じ市区町村に住民票がある方 3) 2)に該当し、転出後4か月を経過していない方

※ 転出先の選挙人名簿に登録済の方は転出先での投票となります。

病院等での投票

入院などで選挙期日に投票できない場合、入院先の病院等で投票できる制度もあります。



引っ越ししたら、住民票を移しましょう！

選挙で投票するためには、選挙権を有しているだけでなく、選挙人名簿に登録されることが必要です。登録は住民票がある自治体で行われるため、進学や就職などで引っ越し際は、その自治体へ住民票の届出を忘れず出しましょう。

満18歳未満の人の選挙運動は禁止されています！

18歳以上の人であっても、選挙運動ができる期間や、文書の掲示・頒布などには一定の制限がありますので、注意しましょう。

※ 選挙運動に応援する候補者への投票を呼びかけたりすること。

不在者投票は、
いずれも
選挙期日前の投票です。
投票用紙の請求や送付に
時間を要しますので、
手続きはお早めに！

令和
4年夏
執行予定

参議院議員通常選挙

最新の選挙情報はこちら▶

令和5年春 執行予定 京都市・府議会議員選挙



問合せ先

北 区 ☎432-1199 / 上京区 ☎441-5029 / 左京区 ☎702-1021 / 中京区 ☎812-2421 / 東山区 ☎561-9105 / 山科区 ☎592-3066
下京区 ☎371-7164 / 南 区 ☎681-3439 / 右京区 ☎861-1784 / 西京区 ☎381-7158 / 伏見区 ☎611-1295 / 京都市 ☎241-9250

京都市・区選挙管理委員会 京都市・区明るい選挙推進協議会 令和4年6月発行 京都市選挙管理委員会事務局
京都市印刷物 第044142号

京都市 | SUSTAINABLE GOALS
京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

うちわ表面A

ボールファン210φ / 220X213mm



7月10日(日)
参議院選挙
午前7時～午後8時
(一部の地域を除く)

期日前投票 6月23日(木)～7月9日(土)
土・日も投票できます。 午前8時30分～午後8時 場所 区役所、支所等
※詳しくは、区選挙管理委員会(区役所内)へ。

投票方法や選挙公報などをご確認いただけます。



7月10日 日

午前7時～
午後8時
(一部の地域を除く)



参議院選挙

期日前投票

土・日も投票できます。

6月23日(木)～7月9日(土)

午前8時30分～午後8時

場所

区役所、支所等

※詳しくは、区選挙管理委員会(区役所内)へ。

京都市・区選挙管理委員会 京都市・区明るい選挙推進協議会



最新の選挙情報はこちら 随時更新します。



投票日や期日前投票期間、投票方法、投票所の混み合う時間帯、候補者情報(選挙公報)、投開票速報などをご確認いただけます。

京都市・区選挙管理委員会 京都市・区明るい選挙推進協議会

・マスクの着用、咳エチケットにご協力ください。
 ・手指の消毒及びご帰宅後の手洗い・うがい等にご協力ください。
 ・周りの方との距離を保つようお願いいたします。

感染拡大防止にご協力ください。

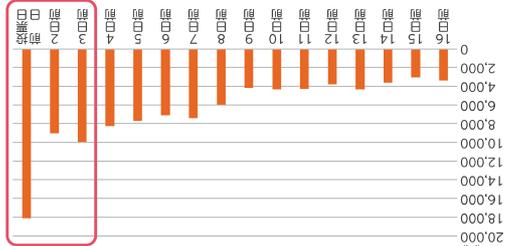


当日時間帯別投票者数(平成30年4月8日京都府知事選挙)

投票日当日は、午前10時から
 正午頃までが混み合います。

安心して投票していただけるよう、投票所内では、従事者のマスクの着用、アルコール消毒液の設置及び定期的な換気等の感染対策に取り組んでいます。

投票所における感染対策について



期日前投票日別投票者数(平成30年4月8日京都府知事選挙)

期日前投票は、投票日3日前から投票日前日
 (4月7日(木)から9日(土))が混み合います。

投票所へは混雑を避けてご来場ください

4月10日(日) 京都府知事選挙

午前7時～午後8時 (一部の地域を除く) 京都府議会議員北区選挙区補欠選挙

期日前投票
 土・日も投票できます。

3月25日(金)～4月9日(土) 場所 区役所、支所等
 府議会議員補欠選挙は4月2日(土)から投票できます。
 午前8時30分～午後8時

※詳しくは、区選挙管理委員会(区役所内)へ。

マスクケース 中面

抗菌加工

マスクをこちらへ

① 中にマスクを入れるだけ!

② “切れ込み”に差し込みます。

③ 完成!

4月10日 京都府知事選挙
午前7時～午後8時 京都府議会議員北区選挙区補欠選挙

中面

4月10日 京都府知事選挙
午前7時～午後8時 京都府議会議員北区選挙区補欠選挙

4月10日 京都府知事選挙
午前7時～午後8時 京都府議会議員北区選挙区補欠選挙

※このマスクケースは、SIAA (抗菌製品技術協議会) 認定基準をクリアした
抗菌ニスを表面コーティングした抗菌効果の高いマスクケースです。
※新型コロナウイルスを排除するものではありません。

抗菌 プラス におわなインキ®
SIAA登録商品 インキ臭を抑えた印刷です

○論文コンクール



○明るい選挙ポスター募集



第一回授業のクイズ

下の図は、矢印が原因から結果への因果関係のパスを示すモデル図です。数値の左はその因果の説明力の強さを示しており、2019年実施の京都市民の政治意識調査データの分析結果です。それぞれの四角は調査の質問から作成したもの(変数と呼ぶ)です。変数に用いた質問について、資料の質問票を参照しながらクイズに教えてください。

問1 行政サービス期待度は問1のAの12項目から作成したものです。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

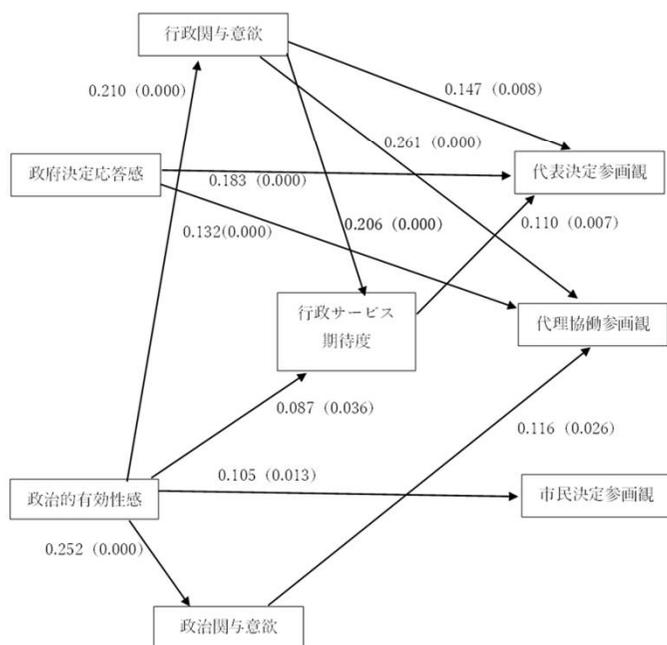
問2 政治的有効性感受は問23の4から作成したものです。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問3 代表決定参画感は問8から作成したものです。

- 1 正しい ② 正しくない 3 どちらともいえない

2019年度の京都市民の行政サービスの期待度と政策の託し方の因果パス



(注) 意識調査の分析でよく使われるデータ解析ソフトSPSSの回帰分析の強制投入法を使った。

パス係数はベータ、 $p < 0.05$ 、変数はダミー変数

第二回授業のクイズ

下の図は、2019年と2015年調査での京都市民の行政サービスへの期待と投票参加についての分析結果です。次の問に答えなさい。ただし解答を提出する必要はありません。

問1 分析結果は、行政サービスの各施策への期待の有無による投票への参加の有無への因果関係を推測させるものです。

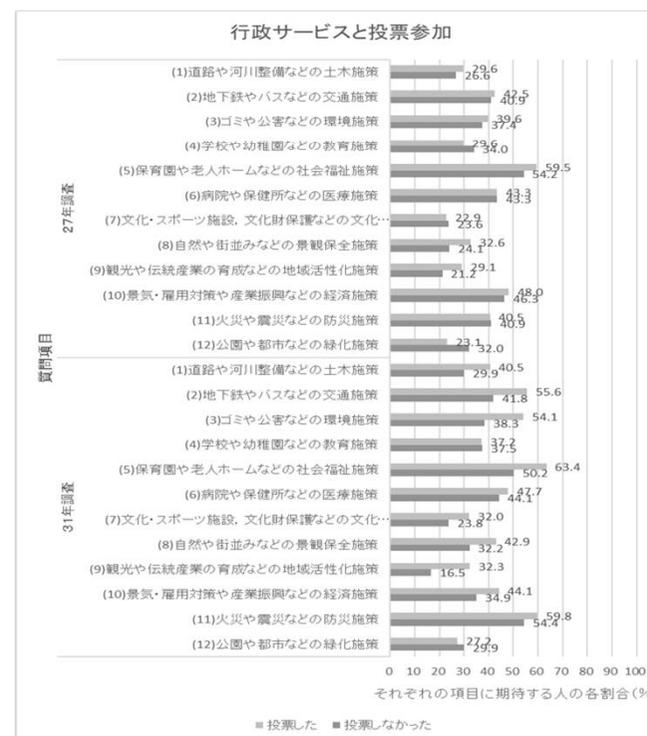
- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 分析結果は、行政サービスの各施策への期待の有無と投票への参加の有無との相関関係には正の相関と負の相関があり、そこには、「多様」な関係があることを示しています。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問3 分析結果が示す年度間の違いは、行政サービスの各施策への期待の有無と投票への参加の有無との関係が「流動」的なことを示しています。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない



(解答欄は教材配信システムのトップページのカリキュラム受講にある)

第三回授業のクイズ

下の図は、2019年と2015年調査での京都市民の政治行政への関与の意欲と投票参加についての分析結果です。次の問に答えなさい。

問1 分析結果からは、関与の意欲の高い人ほど投票に参加する傾向は明らかである。

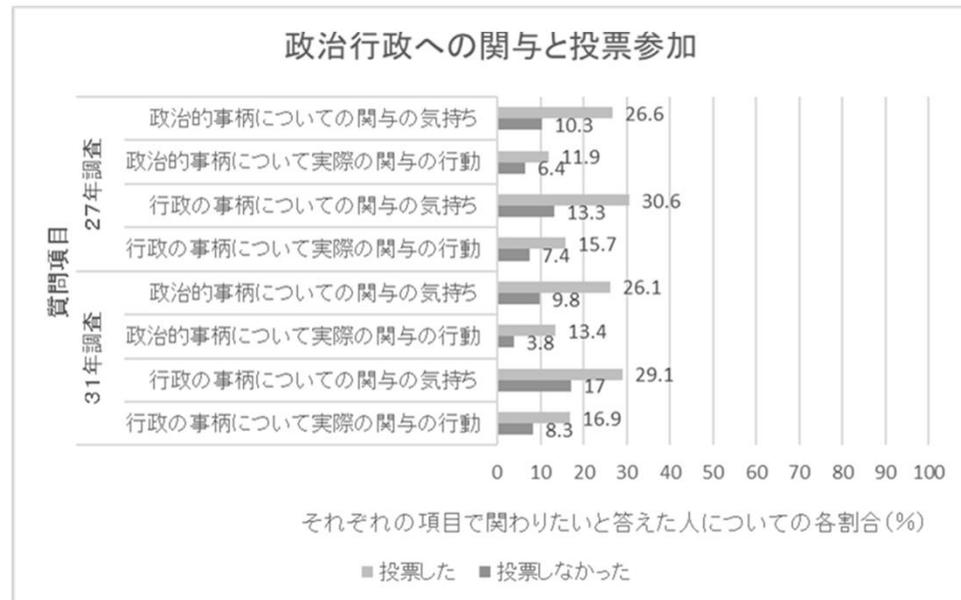
- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 分析結果からは、政治への関与の意欲のほうが行政への関与の意欲よりも投票参加に影響する傾向は明らかである。

- 1 正しい ② 正しくない 3 どちらともいえない

問3 政治への関与の意欲よりも行政への関与の意欲のほうが、人々との協働を通じて行政へのサービスの実施を託する傾向がありそうだ。

- 1 正しい 2 正しくない ③ どちらともいえない



第四回授業のクイズ

下の図は、2019年と2015年調査での京都市民の政治疎外感と投票参加についての分析結果です。次の問に答えなさい。

問1 分析結果からは、政府への不信と投票参加には関係が認められない。

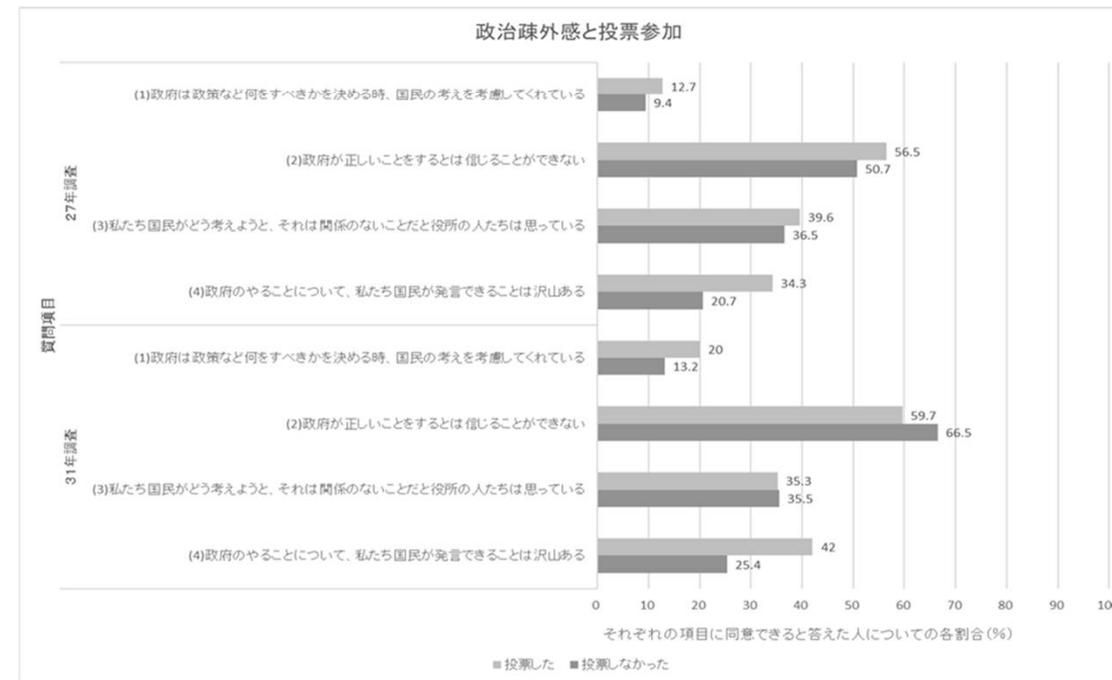
- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 分析結果からは、政治的有効性感の有無が投票参加に影響するのは明らかである。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問3 政治疎外感において、人々の政治行政への距離感ではあなた任せと手前勝手の異なる側面が注目されるが、分析結果からは、その違いを知ることはできない。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない



第五回授業のクイズ

下の図は、2019年調査での京都市民の投票参加と性別の関係についての分析結果です。次の問に答えなさい。

問1 分析結果からは、パーセント差15.3で、性別と投票参加に関係があるようだ。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 分析結果の度数の合計がこの調査の有効回答者数の602にならないのは、この分析が正しく行われていないことを示している。

- 1 正しい ② 正しくない 3 どちらともいえない

問3 分析結果のタウbがマイナス0.153（有意確率0.000）なら、男性の方が投票に行くとの仮説はある程度は言える。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

投票参加変換済と性別欠損処理済のクロス表

		性別欠損処理済		合計	
		男性	女性		
投票参加変換済	その他	度数	89	157	246
		性別欠損処理済の%	34.9%	50.2%	43.3%
	投票者	度数	166	156	322
		性別欠損処理済の%	65.1%	49.8%	56.7%
合計		度数	255	313	568
		性別欠損処理済の%	100.0%	100.0%	100.0%

(解答欄は教材配信システムのトップページのカリキュラム受講にある)

第六回授業のクイズ

下の図は、2019年調査での京都市民の投票参加BY選挙機能BY政治関心(国の)の分析結果です。次の問に答えなさい。

問1 分析結果からは、一般的には、重要問題決定機能の認識は投票参加を左右する。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 分析結果では、重要問題決定機能の認識の投票参加への影響は政治関心で異なる。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問3 分析結果からは、重要問題決定機能の認識と投票参加との統計上有意な相関関係は、国の政治への関心のない者では確認できない。

- ① 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

クロス表

国の政治関心		機能重要問題		合計		
		.00	1.00			
.00	投票棄権	投票	度数	94	19	113
			投票棄権の%	83.2%	16.8%	100.0%
	棄権ほか	度数	129	21	150	
			投票棄権の%	86.0%	14.0%	100.0%
	合計	度数	223	40	263	
			投票棄権の%	84.8%	15.2%	100.0%
1.00	投票棄権	投票	度数	130	94	224
			投票棄権の%	58.0%	42.0%	100.0%
	棄権ほか	度数	90	25	115	
			投票棄権の%	78.3%	21.7%	100.0%
	合計	度数	220	119	339	
			投票棄権の%	64.9%	35.1%	100.0%
合計	投票棄権	投票	度数	224	113	337
			投票棄権の%	66.5%	33.5%	100.0%
	棄権ほか	度数	219	46	265	
			投票棄権の%	82.6%	17.4%	100.0%
	合計	度数	443	159	602	
			投票棄権の%	73.6%	26.4%	100.0%

対称性による類似度

国の政治関心		値	漸近標準誤差 ^a	近似t値 ^b	近似有意確率	
						.00
		有効なケースの数	263			
1.00	順序と順序	Kendallのタウb	-0.201	.050	-3.950	.000
		有効なケースの数	339			
合計	順序と順序	Kendallのタウb	-0.182	.038	-4.659	.000
		有効なケースの数	602			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

第七回のフィールドスタディについてのクイズ

京都市選挙管理委員会のフィールドスタディでは、選挙の啓発について選挙時啓発と常時啓発の具体的な実施内容を知ることができた。

問1 京都市選挙管理委員会の啓発事業においては、選挙時啓発では投票参加について、常時啓発では投票方向に関わる事業展開を行っている。

- 1 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問2 京都市の選挙のお知らせはがきには、期日前投票についても手続きなどの記載がある。

- 1 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

問3 国政選挙の参議院選挙においても、選挙公報の配布や選挙ポスターでの分散投票への協力をお願いなど、適正な選挙の確保の公職選挙法の目的のために、京都市選挙管理委員会は様々な独自の事業を実施する。

- 1 正しい 2 正しくない 3 どちらともいえない

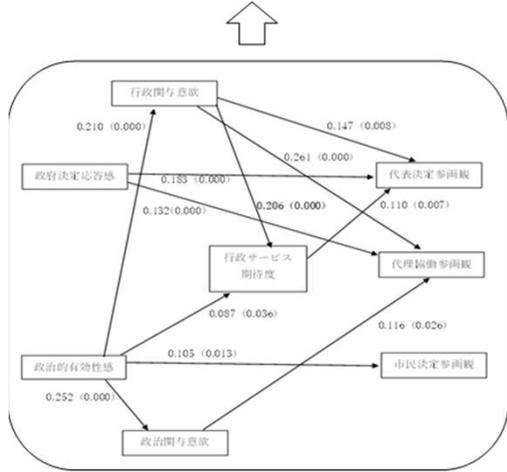
(解答欄は教材配信システムのトップページのカリキュラム受講にある)

ここからはディスカッションのライド

デモグラフィックと投票参加（報告書図1、図2）

（授業の構成）

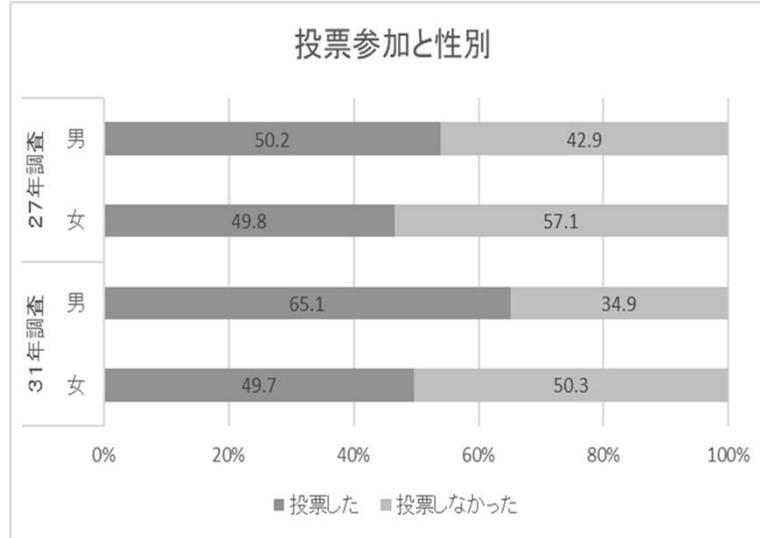
投票参加（投票するか否か）



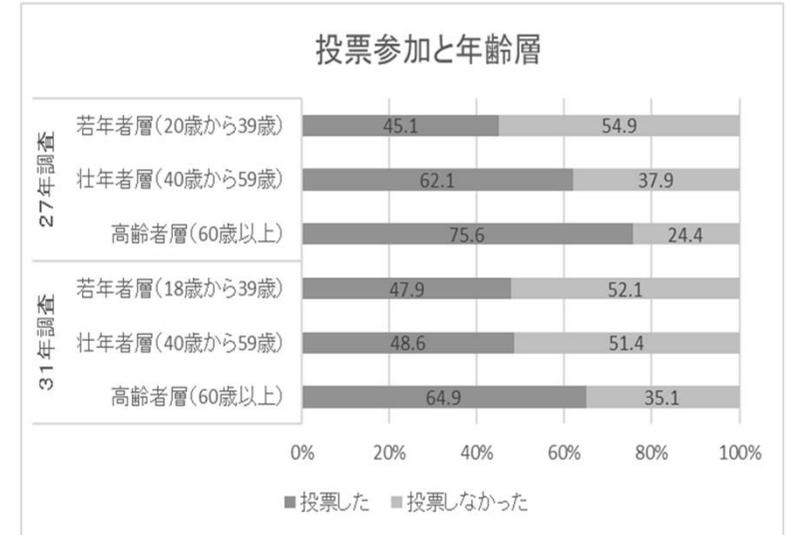
デモグラフィック（性別、年齢層）

分析のためのパスダイアグラム

性別（独立変数）→投票参加（従属変数）



年齢層（独立変数）→投票参加（従属変数）



（分析結果の知見） 性別・年齢層によって投票参加に違いがある（多様と流動）

- ・ %差0.4（27年）、5.4（31年）で女性より男性の投票傾向
- ・ 他の年齢層より高齢者層の投票傾向
- ・ 27年と比較して、31年には、性別差が大きくなったが、年齢層差は小さくなったようだ

（ディスカッション） デモグラフィックにおける選挙参加意識の市民力の多様性と流動性

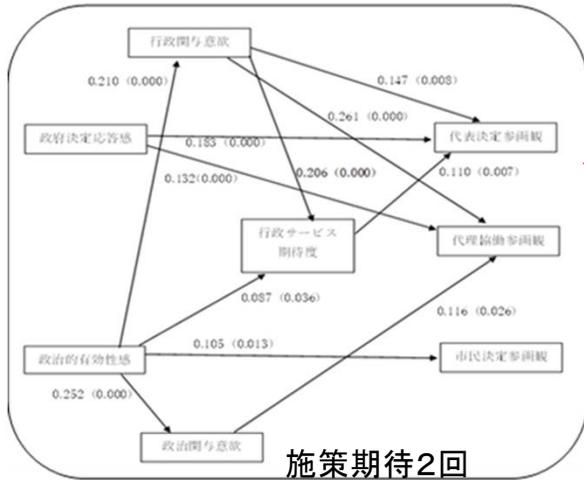
このようにデモグラフィックによって投票参加に違いがあるのはよくないのか？

（すべてが50%になるのが洗練された市民参加力の選挙参加意識か？）

第二回授業での授業での分析の詳細な説明

投票参加 (投票するか否か)

(授業の構成)



代表選挙観

(これについては第5回で改めて説明)

施策期待2回

デモグラフィック (性別、年齢層)

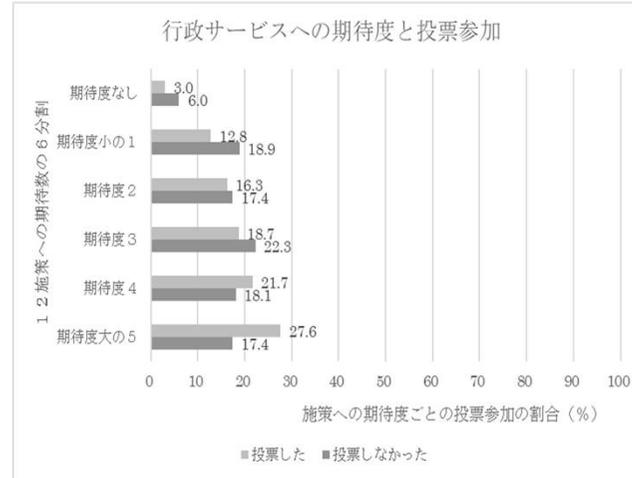
(施策ごとの分析結果の知見)

・投票しなかった人がより期待するかもしれない行政施策として(12)公園や都市などの緑化施策や(4)学校や幼稚園などの教育施策もあるが、(3)ゴミや公害などの環境施策への期待と投票参加との関係(相関係数0.157)と(9)観光や伝統産業の育成などの地域活性化施策への期待と投票参加との関係(0.181)でのパーセントの差が大きく期待者が投票する傾向が目立つ。

・性別と年齢層を考慮して投票参加との関係を見ると、壮年者層の女性での施策への期待が投票参加に結びつきがあり、また若年層男性で結びつきやすい行政サービスもあり、それらの施策での選挙との関係がより明らかになれば、そのような投票参加の傾向がさらに進むかもしれない。

(ディスカッション) 期待する施策によって異なる選挙参加意識の市民力はよいことなのか？

分析のためのパスダイアグラム 行政サービスへの期待度→投票参加



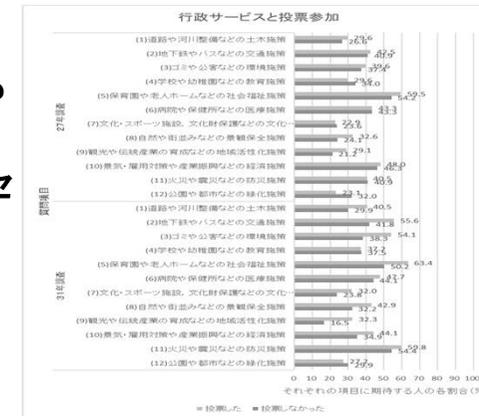
(分析結果の知見)

- ・投票した人では期待度が増すほど投票する傾向
- ・性別と年齢層を合わせて分析すると壮年者層男性0.368、壮年者層女性0.283で行政サービスへの期待の程度が大きくなるほど投票に行く傾向

(ディスカッション) 期待度による市民力の違いが変わる闘がるかもしれない

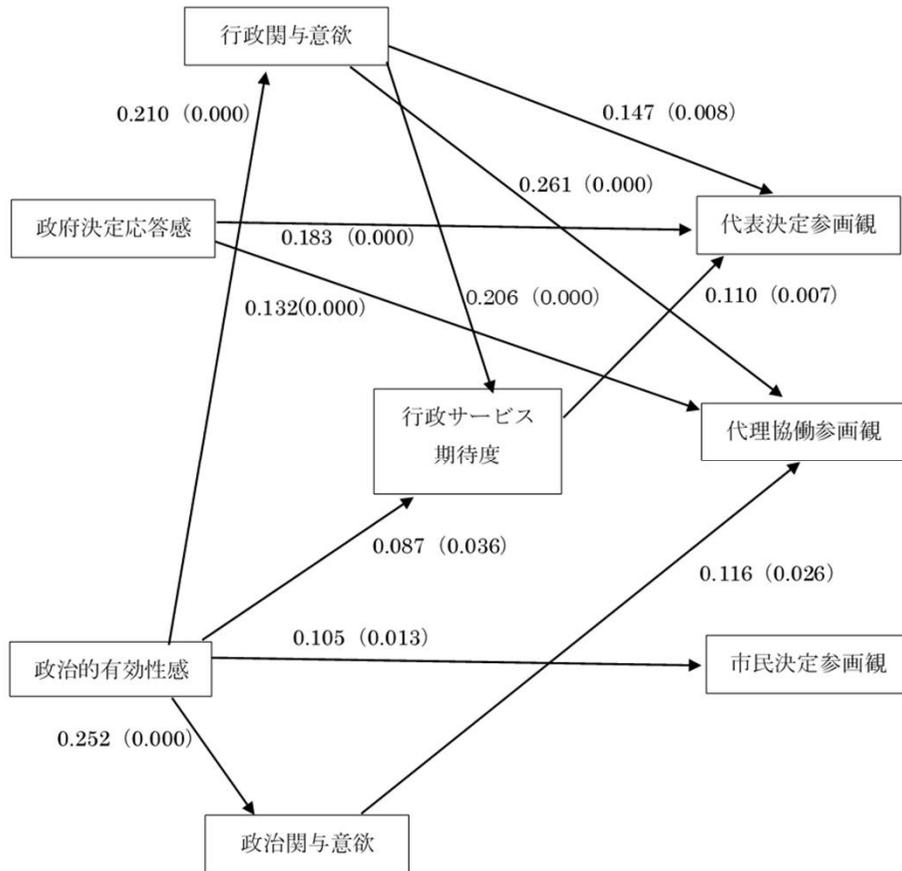
・行政サービスへの期待度が高い人ほど投票する選挙参加意識の市民力はよいことなのか？

・期待度3までは投票しない傾向が投票する傾向を上回るが、期待度4以上になると逆転するのは当然のことか？



第二回授業での行政サービスの期待度のパス解析の詳細

2019年度の京都市民の行政サービスの期待度と政策の託し方の因果パス



(注) 意識調査の分析でよく使われるデータ解析ソフトSPSSの回帰分析の強制投入法を使った。

パス係数はベータ、 $p < 0.05$ 、変数はダミー変数

(分析結果の知見)

- 距離感から託し方への直接のパスにおいて、政府決定応答感については代理決定参画観へが0.183と高く、代理協働参画観へも0.132と影響がある。しかし、市民決定参画観へのパスは認められない。一方、政治的有効性感については、市民決定参画観へのパス0.105のみある。

- 距離感から託し方への間接のパスにおいて、政府決定応答感についてはなく、政治的有効性感からは複数のパスが確認できる。そこでは、政治行政への関与意欲と行政サービス期待度の意識を媒介変数として、参画観の意識に影響している。

有効性感覚があると行政関与意欲が加われば、代表決定参画につながるし、さらに行政サービス期待度を経由してもつながる。また、有効性感覚が行政サービスの期待を直接に經由して代表決定参画観につながる。

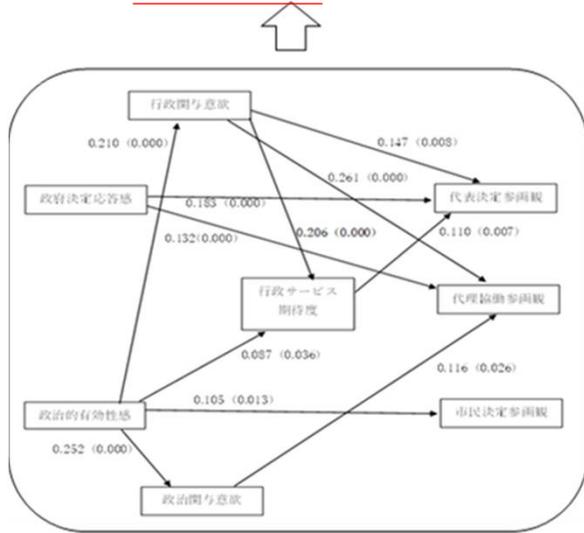
有効性感覚が代理協働参画観を左右するのは、行政関与意欲を経由する0.261と政治的有効性感を経由する0.116の両者が確認できる。

(ディスカッション)

- 人々と政治行政での行政サービス政策(施策への期待)を通しての人々の託し方(関与の制度)への意識について、ここにみられる民主政の市民力のどこが洗練され、どこが洗練されていないと思うか？ (具体的には、どのパスがさらにあり、どのパスがない方がいいと思うか？あるいは、どのパスの影響力がより強ければいいと思うか、より弱ければいいと思うか？ (ヒント: 好ましい多様と流動とは)

第三回授業での関与の意欲の詳細

投票参加 (投票するか否か)



関与意欲3回

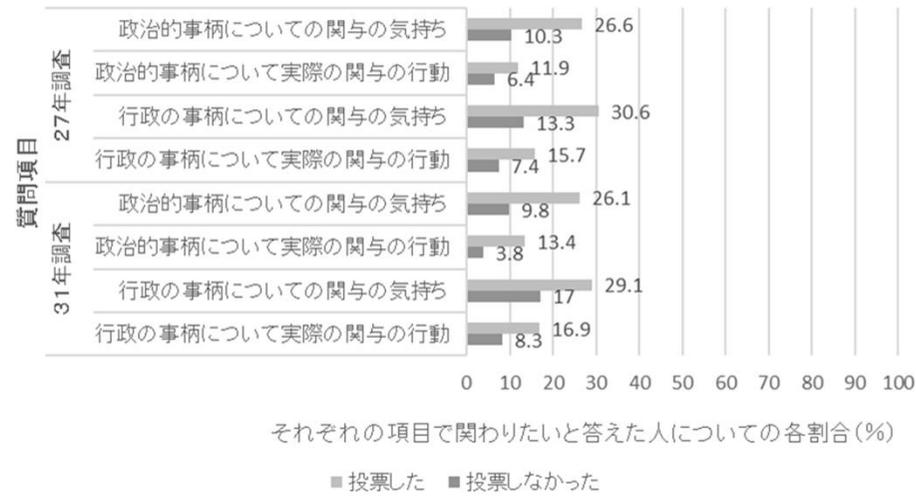
デモグラフィー (性別、年齢層)

代表決定参画観が政治、代理協働参画観を行政に関わる意識と見て、パス図から政治と行政への意欲を分けることで、政治への関心だけよりもさらに理解を進められる。

分析のためのパスダイアグラム

政治と行政への関与の意欲(気持ち・行動)→投票参加

報告書図10 政治行政への関与と投票参加

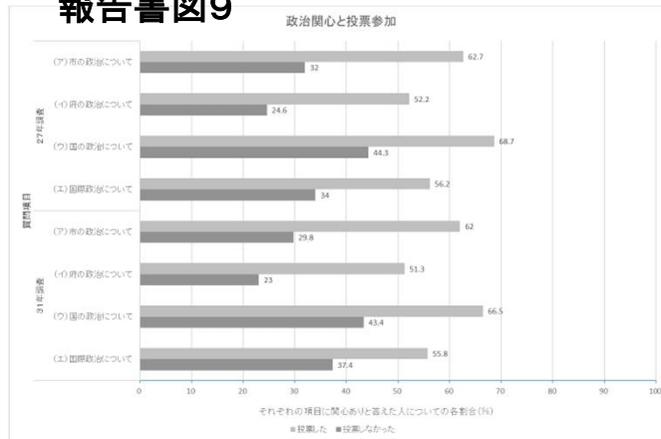


2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の「3 政治と行政への関心や関与や不信の意識と投票参加 (2)」を熟読すること(相関係数の違いにも注目)

(図10)関与の気持ちと行動を政治と行政に分けてみることで投票率向上の方策を検討できる。年齢層や性別を踏まえるとさらに詳細を知ることができる。

政治と行政のいずれへの関与の気持ちと行動のどちらにおいても、関わっていききたいと思う人ほど選挙の投票に参加する傾向がある。

報告書図9



(ディスカッション)

- ・政治への関心が投票参加につながるのと知見に加えて、政治への関与の意欲(気持ちと行動)にさらに注目することで、どのような新たな知見がえられるか?
- ・さらに、政治への関与の意欲に加えて、行政への関与の意欲についての分析は、市民力の洗練とそれへの制度化にどのような視点をもたらすのか? (ヒント:有効性感から行政関与意欲を経由して参画意欲へのパスの多様性)

2022年度京カレッジ「選挙参加意識の市民力」 第四回授業 「議会や議員への見方」 & 「政治行政への距離感」

2019年選挙調査報告書「京都市民の投票行動」の「4 議員や議会への見方と議会や行政との新たな関係(1)(2)」を熟読すること。加えて、「3 政治と行政への関心や関与や不信の意識と投票参加(3)政治との距離感や政治行政への信頼感と投票参加」を熟読すること。
(ポイント)

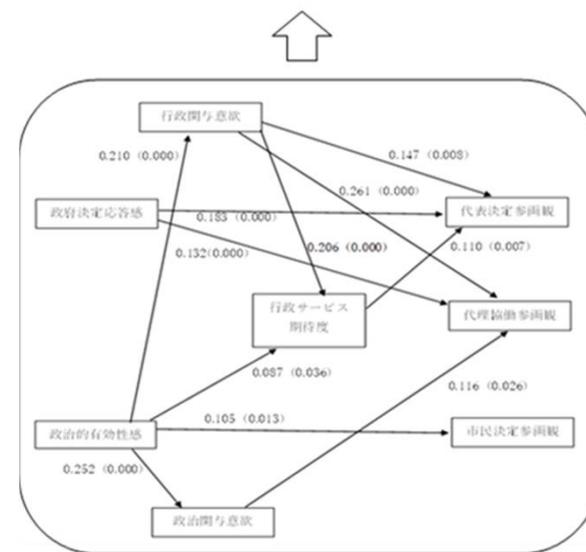
(1) 議員や議会への役割への見方(図13)

- ・市民が期待できるような議員活動が投票参加を促す。
- (2) 議会や行政と京都市民の新たな関係(図14、図15)
 - ・住民投票に意見を持っている人の投票参加傾向
 - ・行政との協働に肯定的な市民の投票参加傾向
- (3) 距離感や信頼感(図11、図12)
 - ・疎外感のような政治との市民の距離感の様々な側面

(ディスカッション)

- ・議会や行政と市民のどんな新たな関係が可能か？
- ・政府への市民のどのような距離感の変化が投票率の向上につながる可能性があるか？ (ヒント: 政治的有効感、政策指向)

(授業の構成) 投票参加 (投票するか否か)

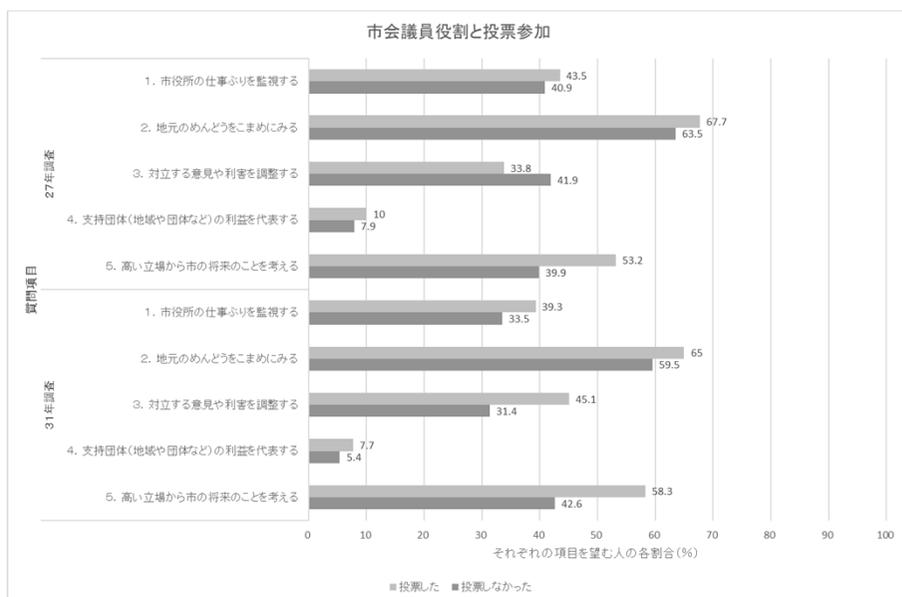


代表選挙観
(問22項目2)
第五回へ
公民協働観
図15

直接参加観
図14

距離感4回 図11 デモグラフィック (性別、年齢層) 制度化(託し方)1・2回

(1) 議員や議会への役割への見方(図13)



問4 あなたは市会議員に対して、どのような役割を望まれますか。
 ア. 次の中から重要だと思われるものを選んでください。(○印はいくつでも)
 イ. その中でも特に重要だと思われるものを1つだけ選んで、○印を付けてください。(○印は1つ)

	ア. 重要 (○印はいくつでも)	イ. 特に重要 (○印は1つ)
1. 市役所の仕事ぶりを監視する	1	1
2. 地元のめんどろをこまめにみる	2	2
3. 対立する意見や利害を調整する	3	3
4. 支持団体(地域や団体など)の利益を代表する	4	4
5. 高い立場から市の将来のことを考える	5	5
6. その他()	6	6
7. とくに期待するものはない	7	7

**(ディスカッション) 役割期待の傾向ごとの多様・流動的な方策
 分析結果から投票率の向上のどのような方策が考えられるか?**

市会議員の役割として何を望むかの問4についてみると、59.1%(66.3%)の人が「地元のめんどろをこまめにみる」ことを望んでおり、次に「高い立場から市の将来のことを考える」の48.7%(48.8%)、「対立する意見や利害を調整する」の37.0%(36.5%)、「市役所の仕事ぶりを監視する」の34.7%(42.6%)と続く。平成27年に比べて平成31年では、以前から最も期待が続いてきた「地元のめんどろをこまめにみる」(平成23年調査58.3%と平成19年調査50.7%でも一番期待されている)が、**前回の大きな期待からは減少し**、「市役所の仕事ぶりを監視する」(平成23年調査43.7%。平成19年調査45.3%)も**かなり減少した**。

そのような市会議員の役割への市民の期待の有無が投票参加にどのように影響するかを、平成31年調査の結果で示したのが図13である。これに関して有意な相関係数が確認できるのは、利害の調整の役割で0.139(壮年者層0.191, 高齢者層0.194, 女性0.178, 壮年者層女性0.256, 高齢者層女性0.195)であり、高い立場から考える役割で0.156(高齢者層0.171, 男性0.177, 高齢者層男性0.250)である。括弧内の各カテゴリーでの相関係数を見ると、利害の調整の役割に期待する女性が投票に行く傾向や、高い立場からの役割に期待する高齢者が投票に行く傾向があるのが注目される。これらの傾向に沿って選挙広報の対象を考える方策が投票率の向上につながるが、いずれの項目においても市民が市会議員に期待できるような議員活動が市民の投票参加を促すだろう。

参考 アメリカの慣習的政治参加(選挙登録、住民投票の手続き)

以前のサンフランシスコの選挙の事前登録の例

MyVoteCounts

STATE OF CALIFORNIA
VOTER REGISTRATION FORM

USE BLACK OR BLUE INK—PLEASE PRINT CLEARLY

1 LAST NAME (Only)
FIRST NAME (Only) MIDDLE NAME (Only)

2 ADDRESS where you live: (Number, Street, Ave., Road, Drive, including N, S, E, W) (NO PO BOX/BUSINESS ADDRESS) APT#/SP#/UNIT#

3 CITY STATE ZIP CODE COUNTY
C A

4 IF NO STREET ADDRESS, describe where you live: (Cross Streets, Route, Section, Range, N, S, E, W)

5 MAILING ADDRESS: (If different from the address where you live, or PO BOX)

6 CITY STATE ZIP CODE FOREIGN COUNTRY

7 DATE OF BIRTH Month Day Year PLACE OF BIRTH - (U.S. State or Foreign Country Only)

8 CA DRIVER'S LICENSE OR CA ID CARD # SOCIAL SECURITY NUMBER (SSN) - (Last 4 digits)

9 TELEPHONE E-MAIL ADDRESS

10 POLITICAL PARTY - Fill in one oval
 American Independent Party
 Democratic Party
 Green Party
 Libertarian Party
 Natural Law Party
 Peace and Freedom Party
 Republican Party
 I Decline to State a Political Party
 Other (Specify)

11 HAVE YOU EVER BEEN REGISTERED TO VOTE? Yes No If you have previously been registered to vote, you must provide your prior voter registration information in item 10 below.

12 PERMANENT ABSENTEE VOTER
Fill in the oval and initial here to become a Permanent Absentee Voter. State Law now allows any voter, who so requests, to be a Permanent Absentee Voter. Once enrolled you will automatically receive an absentee ballot for every election in which you are entitled to vote. Failure to vote in a statewide general election, however, will cancel your Permanent Absentee Status (not your voter registration) and you will need to reapply for Permanent Status.
(FOR OFFICE USE)

13 OPTIONAL: Please check your ethnic background.
 American Indian or Alaskan Native
 Asian
 Black
 Hispanic
 White
 Filipino
 Pacific Islander
 Other (specify)

14 OPTIONAL SURVEY: Can you help in the following area(s)?
 Provide a Polling Place Site
 Polling Place Worker
 Bilingual Polling Place Worker
 Language

15 NOTICE: It is a felony if you sign this statement even though you know it is untrue; you can be fined and imprisoned for up to three years.
 Yes No Are you a citizen of the United States of America?
 Yes No Will you be 18 years of age on or before election day?
 If you checked "no" in response to either of these questions, do not complete this form.

VOTER DECLARATION—Read, sign, and date below.
 I am a U.S. Citizen, will be at least 18 years old on or before the next election, and am not in prison or on parole for a felony conviction. I certify under penalty of perjury under the laws of the State of California that all the information on this form is true and correct.

SIGNATURE—You must sign and date in box below.

400001

59 BE 176744

Remember to sign and date in item 15.

支持政党記載



DEPARTMENT OF ELECTIONS
City and County of San Francisco
1 Dr. Carlton B. Goodlett Place
San Francisco, CA 94102-4608
Telephone: (415) 554-4375
TTY: (415) 554-4306
elections.org



NONPROFIT ORG.
U.S. POSTAGE
PAID
TOWNE, INC.

ELECTRONIC SERVICE REQUESTED

Your polling place address: Mailing Address:

La dirección de su lugar de votación: / 您的投票站地址: /
 Address ng inyong lugar ng botohan:

FIREHOUSE #18
 1935 32ND AVE
 BETWEEN PACHECO & ORTEGA
 YOUR PRECINCT IS 9431

*****ECRL0T**C006
 96980
 ABBAS LARIZADEH
 2047 30TH AVE
 SAN FRANCISCO CA 94116-1149

BT 15 P C383461V
 819/094

投票場所



Are the entryway and the voting area accessible? / Son accesibles la entrada y el área de votación? /
 入口和投票區是否方便出入? / Madali bang makarating at makapasok sa pasukan at sa lugar ng botohan?

YES 4.4% slope

郵便投票



Political Party Preference: / Preferencia por partido político: / 政黨傾向: / Kinakatangang Partidong Politikal Democratic Party

Vote-by-Mail Application for the June 7, 2016, Consolidated Presidential Primary Election
 Must be in the Department of Elections office by May 31 at 5 p.m.

Name: ABBAS LARIZADEH

If "PERM" is printed above, DO NOT send in this application. You are a Permanent Vote-by-Mail Voter. A ballot will be sent to you automatically.
 Si aparece impreso "PERM" arriba, NO envíe esta solicitud. Usted ya es un Elector de Voto por Correo Permanente. Se le enviará una boleta automáticamente.
 如果以上印有「PERM」字樣，您不必寄送本申請表。您已是永久郵寄投票選民。我們會主動寄投票給您。/ Kung nakasulat ang "PERM" sa taas, HUWAG ipadala ang aplikasyong ito. Kayo ay isang Permanenteng Vote-by-Mail na Botante. Automatikang ipadadala sa inyo isang balota.

Check here if you wish to become a Permanent Vote-by-Mail Voter. / Marque aquí si quiere hacerse un Elector de Voto por Correo Permanente. / 如果您想申請成為永久郵寄投票的選民，請勾選此句的方格。/ Markahan ng check dito kung nais ninyong maging Permanenteng Vote-by-Mail na Botante.

Residential Address		Mailing Address (if different from Mailing Address printed above)	
Street	Apt.	Street	Apt.
City, State, ZIP Code		City, State, ZIP Code	
Phone		Country	

I certify under penalty of perjury that this information is true and correct. / Certifico bajo pena de perjurio que esta información es verídica y correcta. / 本人依照法律聲明此項資訊屬實無誤。/ Aking sinasertipika, alinsunod sa parusang pagisunungaling sa sinumpaang salaysay, na totoo at tama ang impormasyong ito.

Sign here / Firme aquí / 在此簽名 / Pamirma dito

We must have your signature - Do not print / Necesitamos recibir su firma - No escriba en letra de molde / 我們一定要有您的簽名——不要印刷 / Kailangan namin ang inyong firma - Huwag isulat ang pangalan.

Marque aquí si en el futuro quiere recibir el Folleto de Información para los Electores en español.
 如果您想在將來的選舉中收到中文版的《選民資料手冊》，請勾選此句的方格。
 Lagyan ng check dito kung gusto ninyong makatanggap ng Pamplam ng Impormasyon para sa mga Botante sa wikang Filipino sa hinaharap.

提案V：大型ボトルへの
物品課税（肥満対策）
・賛成広告と反対広告



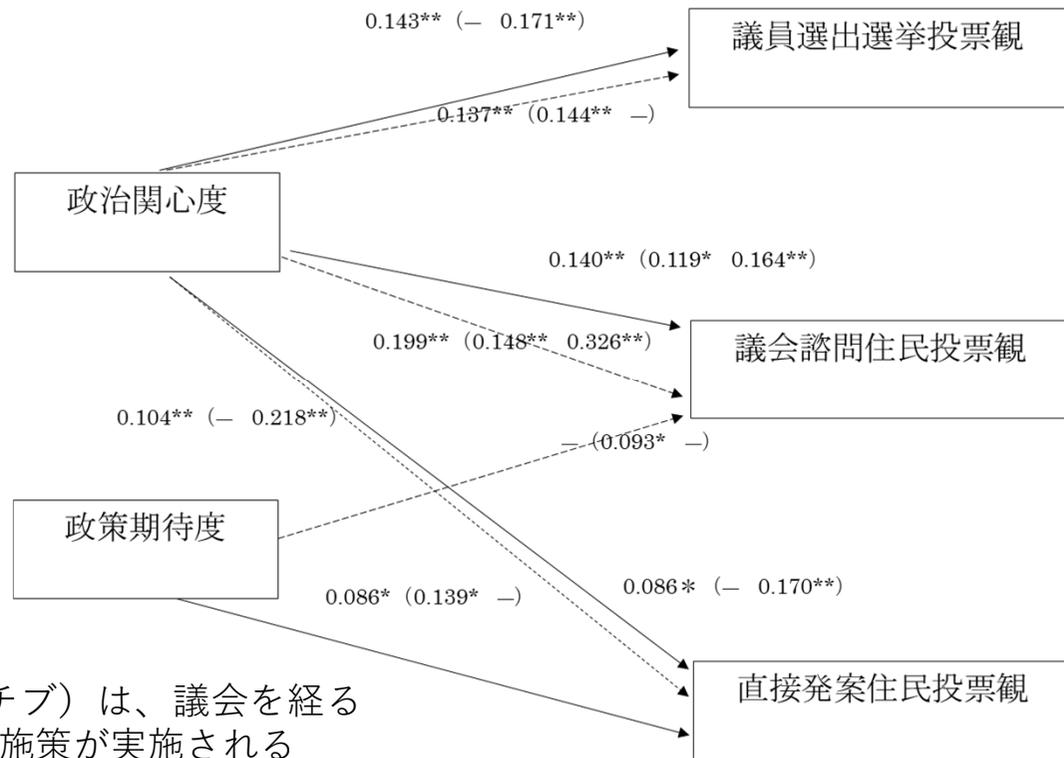
(再確認) 直接発案住民投票（イニシアチブ）は、議会を経ることなく投票結果によって条例が制定され施策が実施される

(ディスカッション)

・議員選出選挙と住民投票（イニシアチブ）が併存するような、政治行政への人々の関与の制度化によって、人々と政治行政の距離感はどのように変わる可能性があるか？

(参考 住民投票への意識のパス解析)

1999年(破線)と2015年(実線)を比較するパス図(若壮年-59歳 高齢者60-) (京都市民政治意識調査データ)



参考 政治文化論アプローチ

人々の意識(考え方、感じ方、行動の仕方)と民主主義の洗練

- ・脱物質主義価値観とエリート対抗型政治政治参加
- ・ソーシャルキャピタルと市民的積極参加
- ・混合型市民文化(シビックカルチャー)

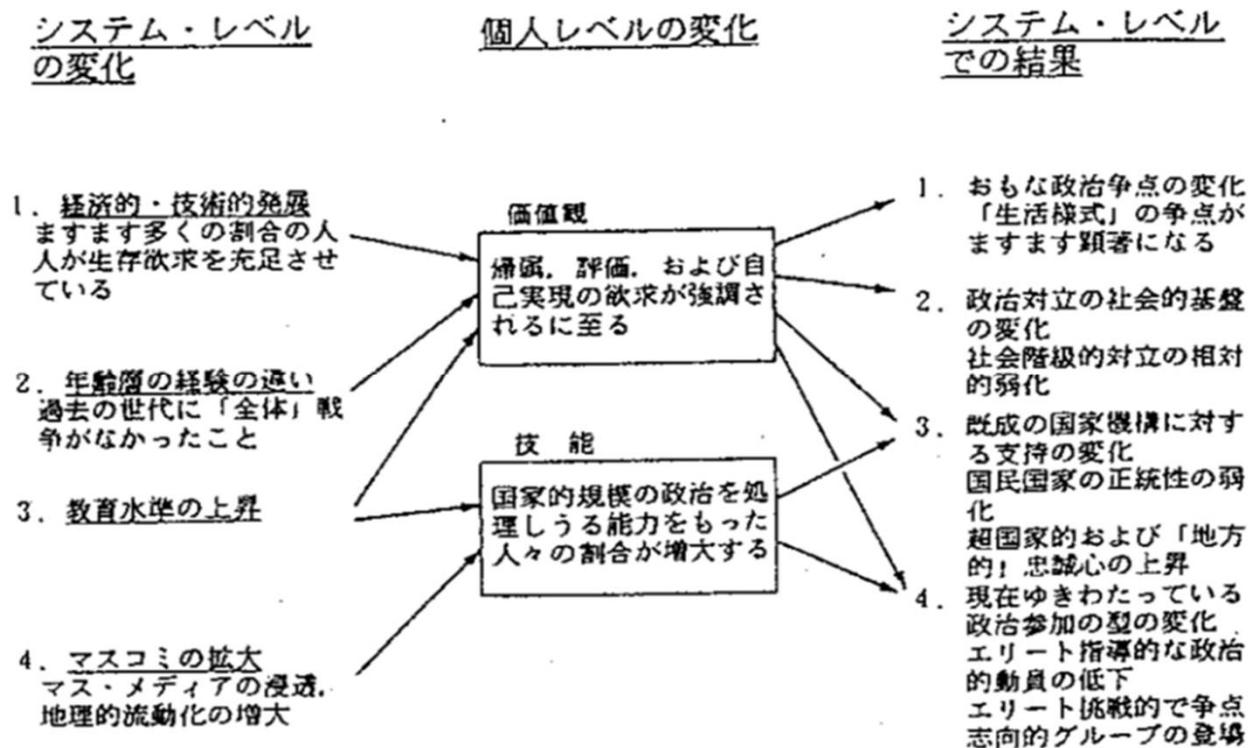
(ディスカッション)

今日では、以前よりエリートに挑戦する政治意識は少ないのか？

システムレベルの結果のところを確認して、今日の状況を検討してみる。4は異なるが、1、2、3は言えるかもしれない。加えて、今日ではシステムレベルの変化での「情報革命」への視点が重要だろう。

(脱物質主義的価値観: 生存欲求より自己実現欲求を優先)

図 0-1 本書で扱う変化のプロセスの概略



(出所) Inglehart, *The silent revolution: Changing values and political styles among Western publics*, Princeton University Press, 1977, p. 5.

市民的積極参加と政治参加(社会関係資本) ロバート・パットナム、河田潤一訳『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』(Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy)、NTT出版、2001年

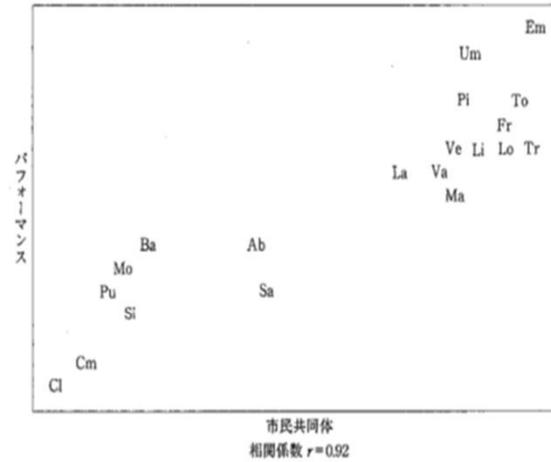
図4-4 イタリア各州の市民共同体



図4-1 イタリア各州の制度パフォーマンス (1978-81)



図4-5 市民共同体と制度パフォーマンス



われわれの市民共同体イメージが想定しているように、右に見た四つの指標は、国民投票への参加度が高く、私的な優先投票をあまり使わない州は、互いに緊密に編まれた市民の自発的組織のつづれ織りに恵まれ、新聞購読率も高い州とほぼ重なるという意味で、実際に強く相関し合っている。こうしたことから、四つの指標を単一の「市民共同体」指数にうまく総合しうる(表4-4に要約)。「市民度」の指標は、どれも単独ではもちろん判断を誤らせる可能性がないとはいえないが、総合的なこの複合指数は、重要かつ整合的な一つの症候群を表している。

表4-4 《市民共同体》指数

成分判定基準	因子負荷量
優先投票 (1953-79年)	-0.947
国民投票への参加度 (1974-87年)	0.944
新聞購読 (1975年)	0.893
スポーツ・文化団体の不足 (1981年)	-0.891 ^a

^a 本文に示されているように、この変数は数値が大きいほど団体量が少なくなるようにスコアリングされている。

表3-2 《制度パフォーマンス》指数 (1978-85年)

パフォーマンス指標	因子負荷量
改革立法 (1978-84年)	0.874
保育所 (1983年)	0.851
住宅・都市開発 (1979-87年)	0.807
統計情報サービス (1981年)	0.797
立法でのイノベーション (1978-84年)	0.779
内閣の安定性 (1975-85年) ^a	0.681
家庭医制度 (1978年)	0.640
官僚の応答性 (1983年)	0.625
産業政策の手段 (1984年)	0.580
予算過程の開始時期 (1979-85年) ^a	0.577
地域保健機構の支出 (1983年)	0.545
農業支出の規模 (1978-80年)	0.468

^a 内閣の安定性と予算過程の開始時期のスコアリングは、本文中のものとは逆になっている。従って、高スコアほど高パフォーマンス。

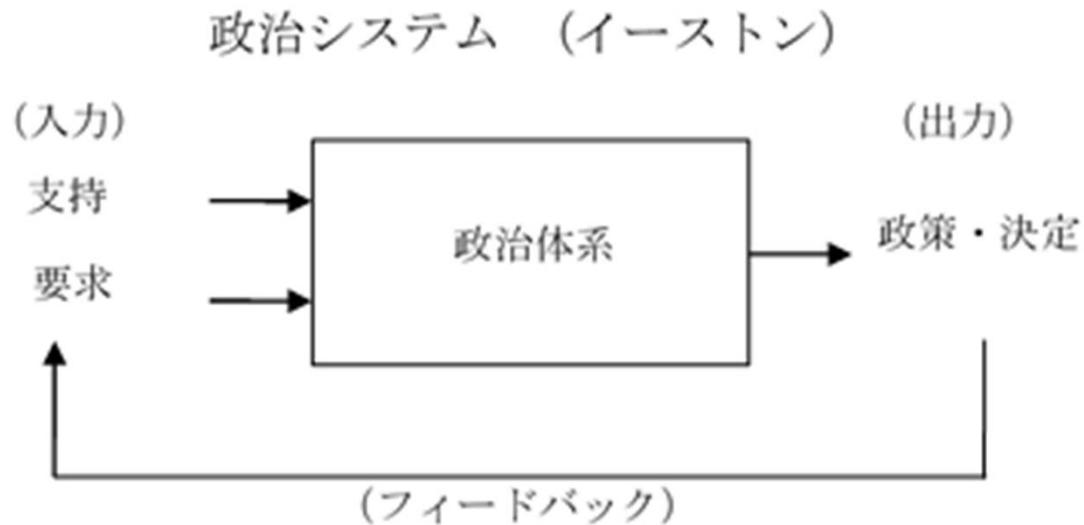
社会関係資本の基盤: 信頼、互酬性

民主主義の洗練へのアプローチ

- 政治文化と政治意識
 - 民主主義の市民文化(アーモンドの市民文化論: **混合型市民文化**)
 - 政治システムと民主主義(イーストンの政治システム論)
- 多様な民主主義(民主主義の収束と拡散)
 - 民主主義の収束と拡散
 - ダールのポリアーキー論(権力の正統性と信頼)
- 民主主義と政治意識の洗練
 - 選挙(参加)民主主義の弱体化(選挙参加の投票率の低下)
 - 投票(評価)民主主義の多様化(評価投票の関与率の向上)
 - 多様な民主制度の制度化(村山の公共システム論)
評価民主政の制度デザイン(参加より了解)

選挙は政治システムのフィードバック(国家・市民関係での一般大衆の政治への関与)

一般的な感覚: 投票率の低下は民主主義にとってなんとなくよくない気がするのはなぜ?



人々からの支持や要求がうまく入力されなければ、民主政のシステムがうまく機能しないかもしれない

政府の権力はある程度強くなければ効果的な統治ができないし、強すぎると市民による政府のコントロールができなくなる(マジソン・ジレンマ)

民主主義のもともとの意味は「人民による統治」である。具体的には、民主主義とは、「候補者らが選挙によって、獲得した主導権のもとで政治的決定を行うことを可能にする制度的な取り決め」と定義できる(シュンペーター、エリート民主主義の定義であるが、民主主義と非民主主義を分ける境界線を競合的な選挙の有無で明確にする利点がある)

民主化は全体主義(権威主義)体制から民主主義体制への移行(ハンティントンの第三の波)
全体主義体制の主要要素: 一元的支配、公式なイデオロギーの存在、積極的動員(リンス)

民主政は各国の民主主義のあり方(民主主義が近代化で収束かグローバル化で拡散か)

代議制民主主義の選挙の投票率が低下するのは何故か。

近代化(産業化、国民国家の成立、官僚組織の出現) → 民主主義の基盤の強化(人々の民主的態度の収束)
近代化(脱近代化)へと向かう地域では、国家・市民関係において、市民の価値観が収束する

グローバル化(経済的、政治的に一つと見なす状況) → 民主主義の基盤の弱体化(人々の民主的態度の拡散)
グローバル化は市民の国家への支持が弱まり、国家の伝統的役割を減らし、市民の国家観が拡散する



国家の枠内で民主主義の文化の発展を自明としてきたが、21世紀には受け入れられなくなっているのか
国家に対する市民自らの「傾倒」の弱体化をもたらしている ⇔ 選挙の投票率の低下
弱体化の理由2つ: 超国家的レベルへの視座、下位国家的レベルへの視座

- I. 国家に対する一般大衆の「傾倒」の構成要素(近代化による民主政の発展への収束として想定していたもの)
 - ・国民としての一体感、・政府への信頼、・政策(生活)への満足
- II. 近代化と政治への支持の減退傾向に見る近代化による民主化モデルへの収束へと向かわないことへの説明
 - 1. 脱物資主義価値観の説明、 2. 認知動員の説明、 3. 社会関係資本の説明、 4. 権威への指向性の説明
- III. 投票率低下の不都合をどのように回避できるのか。
公共領域に対する市民自らの「傾倒」の強化への拡散方策(評価投票の関与率の向上)での一般大衆の「傾倒」の構成要素
 - ・多様な選挙の機能(選挙の機能)からの投票参加、投票方向
 - ・多様な政治信頼(政治疎外)からの投票参加、投票方向
 - ・多様な政策期待(行政サービス期待)からの投票参加、投票方向

民主主義、政策、政治意識を考えるポイント

1. 民主的な参加の権利が広く認められた制度(包括性)の下で、今日の政治行政への人々の関与のあり方(意識や行動)が感情に左右される傾向に向かっているなら、反多元的なポピュリズムが民主的な競争の自由(開放性)を奪う危険があり、民主的な政治発展に逆行して、よくないだろう。

2. 民主主義の制度とシステム(機能)の発展にとって、「人々が政治行政に感情的(好き・嫌い、印象)に期待するより、認知的(知・不知、判断)に期待するほうがよい」とするなら、民主主義の参加制度と自由主義の政治意識のコラボレーションが実現するような、**民主的な参加が動員におわらない制度化**とそこでの人々の意識と行動が望まれる。

3. **そのような制度構築の具体策**として、次のものがありうる。

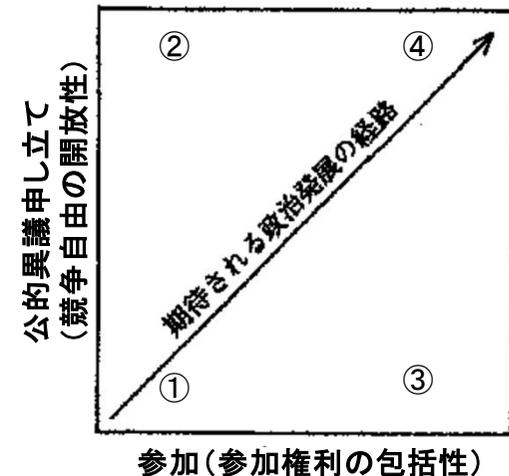
- ・ 候補者を選ぶ選挙とともに政策の争点への投票を重視する(選挙公報・広報のあり方の検討、選挙運動規制の検討)
- ・ 住民投票、国民投票、リコールの制度の併用について検討する。(慣習的政治参加と非慣習的政治関与のバランス)

【捉え方:政策と選挙のサイクルの上に政治を介する民主主義の制度と**政策文化システム**および人々の政治意識(なかでも**選挙意識の構造における選挙機能への見方**に注目)がある】

ダールの「理想的」な政治発展およびアーモンドの市民文化への収束とイングルハートやパトナムの拡散

R・ダールの政治発展の「理想的な」モデル

比較的民主化された④ポリアーキーへの民主化の程度



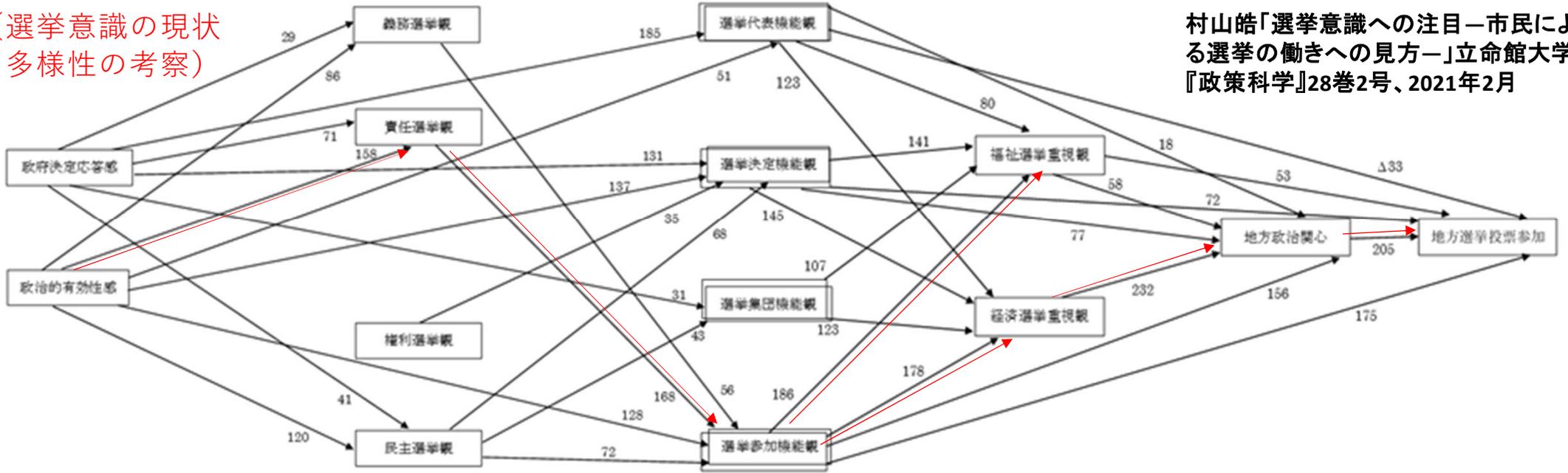
- ① 閉鎖的抑圧体制
- ② 競争的寡頭体制
- ③ 包括的抑圧体制

選挙の機能への京都市民の見方を中心に選挙意識の投票参加行動での位置づけ

(パス解析)

村山皓「選挙意識への注目—市民による選挙の働きへの見方—」立命館大学『政策科学』28巻2号、2021年2月

(選挙意識の現状と多様性の考察)



A
公私での疎外意識

B1 選挙意義観
【

B2 選挙機能観
B 選挙意識の構造

B3 選挙役割観
】

C
選挙での政治的態度

責任選挙観から選挙参加機能観を経て選挙役割重視の意識へのつながりでの指標の数値の大きさが目立つ。そこに集中する京都市民の選挙意識の特徴は、様々なつながりが多角的に見られるというより、偏りのある多様性に欠ける状況を示している。選挙意識の構造を、選挙意義の意識から選挙機能の意識を経て選挙役割の意識につながる因果のモデルで捉えると、選挙意識観から選挙機能観への因果では、民主選挙観が原因として大きい(3影響、他は1影響)。また、年度差はあるが、選挙参加機能観へは3原因から影響し、選挙決定機能観には2原因、選挙集団機能観に1原因、選挙代表機能観には選挙意義観を原因とする影響がない状況である。一方、選挙機能観から選挙役割観への因果はすべてに確認できる。しかし、因果の強さには違いがあり年度差もあるが、代表機能観から福祉選挙重視観への因果は低く、選挙参加機能観から福祉・経済選挙重視観への因果が比較的強い傾向が見られる。以上を踏まえて、もし、より多角的な偏りの少ない多様性を求めるなら、権利選挙意義観が選挙参加機能観につながり、民主選挙意義観が選挙代表機能観につながり、選挙義務意義観や選挙責任意義観から選挙代表機能観もしくは選挙決定機能観へのつながりがあっても良さそうだ。

(前スライドの図の解説)

日本の選挙での投票率は確実に低下してきている。国政選挙でも地方選挙でも低下傾向が見られ、特に、地方選挙での投票率の低下は著しい。選挙に意味があり、選挙に働きがあり、選挙が役立つと、人々は思わないのだろうか。京都市議会議員選挙のときに実施された京都市民の政治意識調査から、選挙にどのような意義があり、どのような機能があり、どのような役割があると、京都市民が捉えているかを知ることができるのではないかと思った。この調査データを用いた投票行動の分析から、選挙への基底的な意識と言える意義と機能と役割について、日本の地方選挙での人々の選挙意識の構造を知ること、選挙を取り巻く民主主義を考える一助となればと考えた。選挙への人々の見方がどのようなものであれば民主主義にとって良いのだろうか。これが、この研究の基本疑問である。選挙民主主義でのより良い選挙意識のあり方を探ろうとする。そこで、選挙意識の構造がどのような状態であることが民主主義にとって望ましいかを考える。具体的には、選挙意識の構造の三要素として、人々の選挙意義への見方、選挙機能への見方、選挙役割への見方の状況から、選挙民主主義にとっての選挙意識のあり方を判断する。選挙意義への意識については4項目に注目し、そのうち義務選挙観は選挙での投票は国民の義務と捉える見方である。責任選挙観は選挙には必ず行く責任があると捉える見方である。権利選挙観は選挙は義務というより国民の権利であると捉える見方である。民主選挙観は選挙はみんなで決めるという民主主義の精神の表れ捉える見方である。選挙機能への意識についても4項目に注目する。選挙決定機能観は代表選出の実感が得られるとの見方である。選挙決定機能観は選挙によって重要問題を決定できるとの見方である。選挙集団機能観は選挙によって社会集団の意見の違いが明らかになるとの見方である。選挙参加機能観は選挙が人々の参加の実現状況を示すとの見方である。選挙役割への意識については2項目に注目する。福祉選挙観は市議会議員選挙および府議会議員選挙で福祉政策を重視して投票するとの見方である。経済選挙観は市議会議員選挙および府議会議員選挙で経済政策を重視して投票するとの見方である。